


島根県教育センター 浜田教育センター
研究・研修スタッフ・共同研究



学校の自走をアシスト！
自立した学習者を育てる
校内支援プログラムの作成

発表の流れ

- 1 研究に至った背景と研究の目的
- 2 研究内容
 - ① アンケート調査の実施
 - ② 校内支援プログラムの開発
 - ③ 「ぴったん個ラボ・OJT！」の実際
- 3 研究のまとめと今後

個別最適な学びと協働的な学びの 一体的な充実に関する一考察



ROUTE 3 「子どもが選択 最適な学び」
子どもが自分に最適な学びを自己調整できるよう、教師は様々な「学びの選択枝」を豊かに提供する。

「学びの選択」とは？
得意な分野・領域の選択
一人一人の子どもに、「得意とする分野あるいは領域」を選択する機会を保障することで、特長や進捗の速い中・遅い中での学びの充実を図ります。また、学習内容についても、自己の主体的な学びにつながります。

ROUTE 2 「子どもの“学びの足跡”から個別最適な学びへ」
ICT (Studylog) を活用し、子どもの学びの経路や学び方の特徴を見つめ直し、個別最適な学びの実現に生かす。

「Studylog」とは？ なぜデータ活用が必要なの？ どのように取り入れるの？

ROUTE 1 「ICTを活用して家庭学習の充実を！」
子どもたちが主体的に学ぶために効果的にICTを活用する。ICTも活用しながら家庭と学校の学びを往還させ、家庭での学びを充実させる。

「ICTを活用する」とは？ どんな役割があるの？ どのように取り入れるの？

なぜICTを活用することが必要なの？
全ての子どもたちの可能性を引き出す。個別最適な学びを達成するために、学校教育の基礎的なツールとして、ICTは必要不可欠なものといえます。今、世界中の知識はインターネットを検索すれば簡単に取得できる時代で、むしろ教科書だけでは情報が獲得する情報は不足しています。知りたい学びたい知識の検索に答えることで、子供の主体的な学びにつながります。

子供たちの可能性を引き出すICT
子供たちがICTを日常的に活用することにより、知りたいと身につくことで学ぶことができ、自分の学習を調整しながら進んでいくことができるようになります。やりたいことを追求できる環境ができてくことで、学習が広がります。子供たちの可能性が引き出されることに期待する必要があります。

知の検索にすぐに応えるツールとして
* 知りたい！ 辞書としての役割
インターネットで知りたいことを調べることができ、知りたい検索に答えます。
* 見たい！ 友だちの意見をみる相話の役割
ロイノートやJamBoardなど、学校全体に一人一人の意見が発表でき、友だちの発表した意見をただでいい！ 考えも深まるとして「見る、知る」ことができます。得意の意見を一つ一つで発表することも可能です。

多量の記録・記憶を持ち続けるツールとして
* まとめる！ フォイルとしての役割
データに打ち込んだり、スライドにまとめたりなど、自分が分かりやすい形で保存することが可能です。写真で記録したり、記録簿として有効です。
* 振り返る！ 自習ノートの役割
記録として様々なデータが保存してあれば、事後で復習を思い起こすことができます。振り返ることが難しくかつ立体的な身ものなど、機会を通して確認できます。

授業の学習とつなげる工夫を！
家庭学習を充実させるためには、授業の学習とつながるように変換していくことが大切です。左のように授業で活用したデータを家庭学習で使用する準備を考慮してみましょう。
* 分からないことを振り返る
ICT端末に保存して置いたデータを活用すれば、その日の授業が振り返りやすい学習になります。データを印刷・活用しながら、自分の考えをまとめる、正解を導くための問題を行う、なども可能となります。
* 学習や家庭学習に活用する
事前に調べ、生活する中で発見したことなどを撮影して授業に向かうなど、ICT端末をつまぐ活用した学習なども考えられます。興味を持って授業に没頭することもできます。
ICTをどこで入れるか！
* Studylogの活用についてはこちら！

さまざまな場面でのデータ活用の例
* ICTを活用した子供たちの学習活動を振り返る
子供の活動をその場で見取り、授業に反映させることができます。
* 授業を振り返り、子供の理解程度をチェックする
* 授業内の子供のデータが一元化され、学年や授業の振り返りができる。
* 子供の興味や得意な領域を把握し、授業の準備や指導に活かす
* 授業や家庭学習のデータを一元管理でき、振り返りや指導に活用できる。
* 授業や家庭学習のデータを一元管理でき、振り返りや指導に活用できる。
* 授業や家庭学習のデータを一元管理でき、振り返りや指導に活用できる。

まとめ
* 子供たちの可能性を引き出すために、ICTを活用して家庭学習の充実を図る。
* 子供の学びの経路や学び方の特徴を見つめ直し、個別最適な学びの実現に生かす。
* 授業の学習とつながる工夫を！
* 分からないことを振り返る。
* 学習や家庭学習に活用する。
* まとめる！ フォイルとしての役割。
* 振り返る！ 自習ノートの役割。
* 知の検索にすぐに応えるツールとして。
* 多量の記録・記憶を持ち続けるツールとして。



ROUTE 3 「子どもが選択 最適な学び」

子ども自身が、最適な学びを自己学習できるよう、教師は様々な「学びの選択肢」を用意に提供する。

「学びの選択」とは？
習熟な分野・領域の選択
一人一人子どもに、「何をとするか」を選択する
分けるべき領域」を定めた学びの場を準備すること。特定の領域の学びを深め、学習の進度を速くする。自由な

ROUTE 2 「子どもの“学びの足跡”から個別最適な学びへ」
ICT (Studylog) を活用し、子どもの学びの過程や学び方の特徴を見つめ直し、個別最適な学びの実現に資する。

「Studylog」とは？ なぜデータ活用が必要なの？
どのように取り入れるの？

ROUTE 1 「ICTを活用して家庭学習の充実を！」

子どもたちが主体的に学習のために効率的にICTを活用する。ICTも活用しながら家庭と学校の学びを連携させ、家庭での学びを充実させる。

「ICTを活用する」とは？ **どんな役割があるの？** **どのように取り入れるの？**

なぜICTを活用することが必要なの？
全ての子どもたちの可能性を引き出す。個別最適な学びと協働的な学びを実現するためには、学習環境の整備が不可欠です。ICTは、学習環境を整えるための重要なツールです。ICTは、学習環境を整えるための重要なツールです。ICTは、学習環境を整えるための重要なツールです。

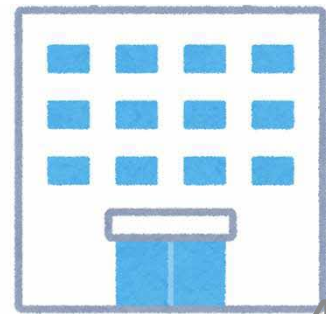
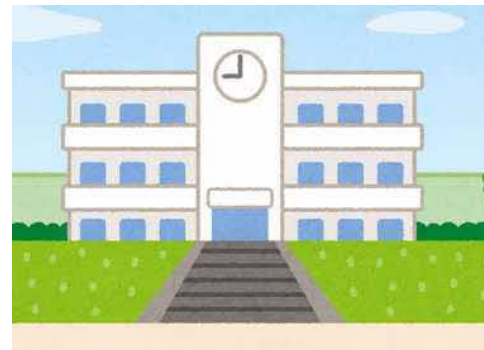
子どもたちの可能性を引き出すICT
子どもたちがICTを主体的に活用することにより、個別最適な学びを実現することが可能になります。ICTは、学習環境を整えるための重要なツールです。ICTは、学習環境を整えるための重要なツールです。

習熟な分野、つぎはどんな分野？
習熟な分野、つぎはどんな分野？
習熟な分野、つぎはどんな分野？

実践例 **さまざまな場面でデータ活用の例**

ICTを活用した子どもたちの学習過程を見直し、個別最適な学びを実現させる。ICTは、学習環境を整えるための重要なツールです。ICTは、学習環境を整えるための重要なツールです。

ICTを活用した子どもたちの学習過程を見直し、個別最適な学びを実現させる。ICTは、学習環境を整えるための重要なツールです。ICTは、学習環境を整えるための重要なツールです。



研究の背景

学校からの要請・依頼が多い。

👉 学校が求めている情報であるということ。

その反面、要請が増えるということは送付した成果物だけでは研修を進めることが難しいとも考えられる。

一定時間を確保して研修することが難しいのではないか。
研修事例等ベースの少ないところから研修を組み立てるのは負担ではないか。



教育センターの関わり、役割

これまで

スタートラインまで
を整える



これから

一歩を踏み出すまで
のサポート



研究の目的

各学校が「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図っていくためのきっかけとなるように、令和4年度に配布した『今の学びをちょこっと変えルートマップ』と『充（10）実ナビゲーション』を用いた校内支援プログラムを提案する。

研究の内容 ① アンケート調査の実施



対象：浜田教育センターが提供する研修講座等に参加した教職員（ $n=155$ ）

質問内容：

- 浜田教育センターが作成した研究成果物を見たことがありますか。【研究成果物の閲覧経験】
- 学校が校内全体での個別最適な学びと協働的な学びを視点に入れた実践・取組をしていくためには、研究成果物の他にどんなものがあればいいと考えますか。
【研究成果物以外に求める情報】
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進めるうえで、実践へとつなげていく場合
どういった課題を感じていますか。【進めるうえでの課題】
- 感じている課題を解決するためにどういった情報や資料が必要ですか。どういった情報や
資料があれば参考にできますか。【課題解決に必要な情報・資料】

研究の内容 ① アンケート調査の実施

- ・ 浜田教育センター研究成果物の閲覧経験について、約75%の教職員が見たことがないと回答した。
- ・ 研究成果物以外に求める情報として、実践事例が多かった。
- ・ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を進めるうえでの課題として、個別最適な学びの視点で子供の実態を把握することや、実態をもとに個別最適な学びの視点で授業設計することに対して、難しさを感じている傾向が強い。
- ・ 教材研究・教材準備をする時間を確保することに対して課題と感じる傾向が強い。
- ・ 課題に対して解決するために必要だと考えている情報・資料として、「実践例」を求める傾向が強い。

教育センターの課題

浜田教育センターが作成した研究成果物を見たことがありますか？

思った以上に
成果物が届いていない

学校の自走まで、
たどりついていない



学校の課題・求めているもの



動画でナビゲート
校内研修プログラム

ニーズに応じる
短時間の動画

充実した「ゲーショ」の活用
具体的実践の収集

研究の内容 ②校内支援プログラムの開発

ぴったん個ラボ・OJT!

写真や動画を取り入れたスライドを動画にしており、具体的に伝えることができる。

音声解説をつけることによって、出前講座と同程度の効果を期待できる。

繰り返し視聴可能で、それぞれ内容を区切るチャプターのパーツ化を図ることで、短時間で部分的に視聴することができる。

ぴったん個ラボ・OJT！の構成

トータルで学ぶ

はじめに

理由と背景

個別量
協働的
その一
な充実

教
の役割と
程の編成

実際の
業場面から

実
ビゲーシヨンの
活用

実践に向けて
協議

必要に応じて各チャプターを選択して研修できる！

研究に至った背景と目的

研究内容①

研究内容②

研究内容③

まとめと今後

作成したプログラムの一部を紹介します。

研究のまとめと今後



アンケート調査



- ・ 実践事例
- ・ 動画のパーツ化
- ・ アウトプットする場面の設定



校内支援プログラムの作成



研究のまとめと今後

これまで



スタートラインまでを整える



これから

教育センターの課題 学校の課題・求めているもの

思った以上に成果物が届いていない 理解が難しい

一歩を踏み出すまでのサポート



島根県教育センター 浜田教育センター
研究・研修スタッフ共同研究

学校の自走をアシスト！ 自立した学習者を育てる 校内支援プログラムの作成

MISSION
全ての子どもたちを
自立した学習者に育てる！

「あはつた！」のための協働的な学び

協働的な学びとは？

「個別最適な学び」の成果を生かし、探究的な学習や体験活動などを通じ、多様な他者と協働しながら学び学習を進めていきます。一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組みわさり、考えが深化するような、よりよい学びを生み出すことを指します。

相手に伝わるように話すのって難しいな

同じ意見でも大切にしていることが違うことがあるんだな

自分とは違う考え方がたくさんあるな

相手の意見を聞いて新しい疑問がわいてきたぞ

これ、地域に役に立つ意見かも！

正解は一つではないんだな



先生という仕事を魅せる！

これからの教職員の姿

- ・環境の変化を前向きに受け止め、教職生涯を通して学び続けている。
- ・子ども一人一人の学びを最大限に引き出す教師としての役割を果たしている。
- ・子どもの主体的な学びを支援する伴走者としての能力を備えている。

学校ならではの対話を通して「納得解」「他者理解」「社会性」を形成できる

子ども自身が自分の学びを獲得できる
学習者中心のカリキュラムへ！

目指すのは主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善！

いつでもどこでも授業改善

ROUTE 5
まず挑戦 すぐに改善
AAR サイクル

ROUTE 6
資質・能力の育成
資質・能力の育成

学習者自らが課題を見つけ、さらに自ら解決する能力を高める学びの場（例・PBL）を提供します。

教師の役割

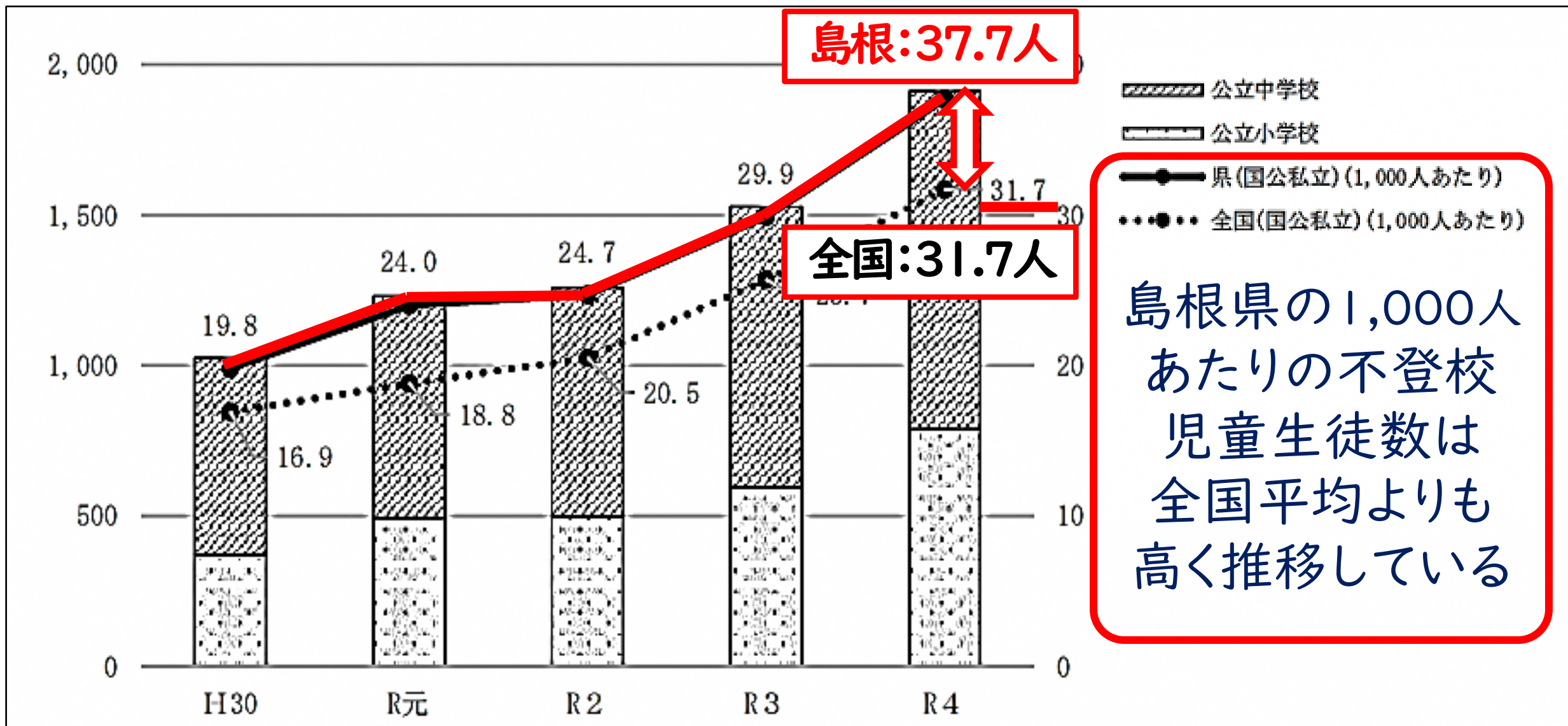
「学校現場の『学級づくり』を支える教育センターの取組」

～スリンプル・プログラムのスムーズな導入に向けて～

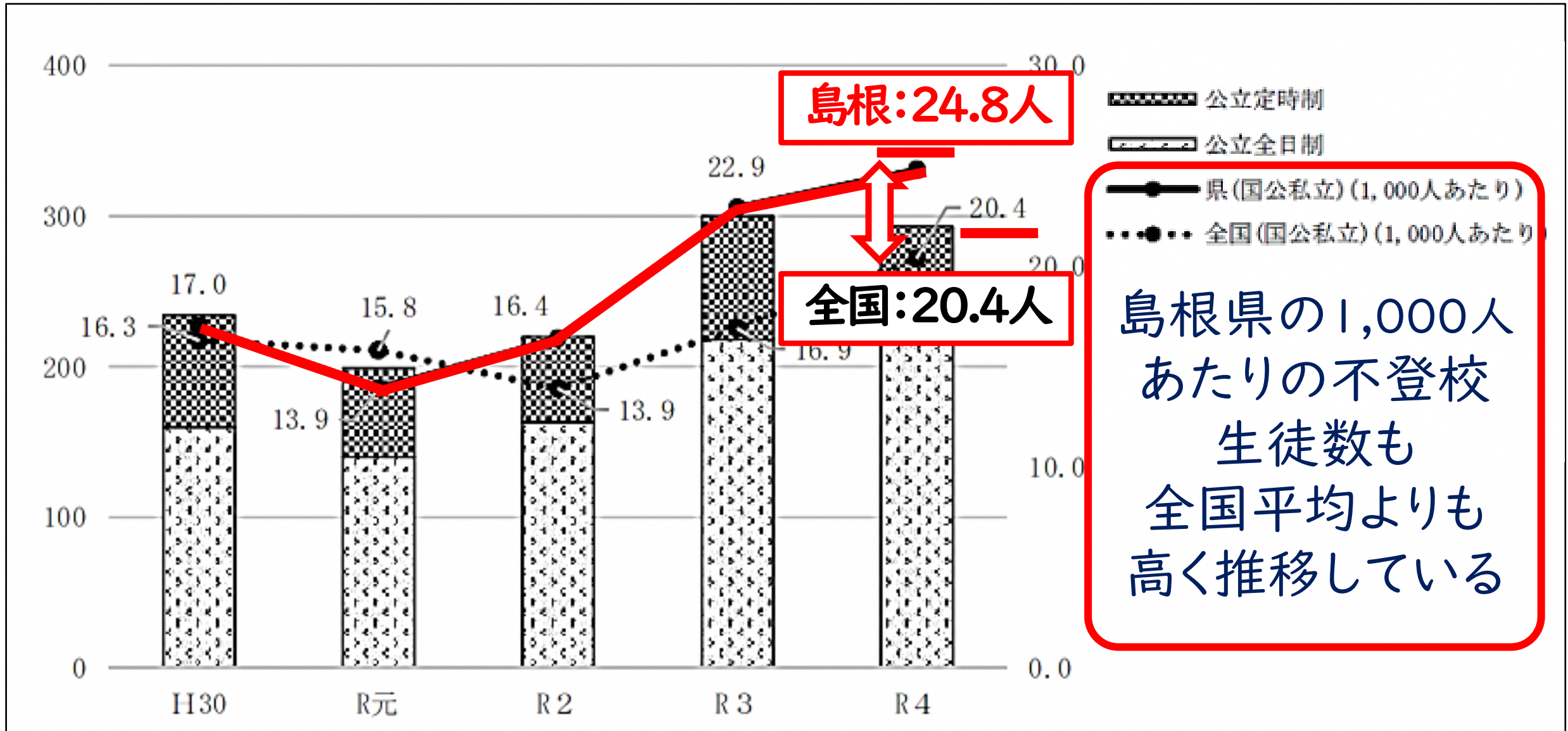
島根県教育センター 浜田教育センター
教育相談スタッフ 共同研究

- 1 本研究のテーマ設定の背景
- 2 今年度の取組の計画と概要
- 3 先進校などの実践を訪ねて
- 4 2年次の研究の取組に向けて

本研究のテーマ設定の背景



令和4年度生徒指導上の諸課題に関する状況について(島根県教育委員会 教育指導課)



令和4年度生徒指導上の諸課題に関する状況について(島根県教育委員会 教育指導課)

【小学校・中学校の長期欠席のうち不登校の状況(公立)】

- ・公立小学校・中学校の不登校児童生徒数の合計は1,911人【+383人】
- ・1,000人当たりの人数は37.9人【+7.9人】。
- ・不登校児童生徒数、1,000人当たりの人数ともに**7年連続の増加**。
- ・**県内1,000人当たりの人数(37.7人)は、全国平均の31.7人を上回っている。**
- ・校種別では、小学校では788人【+193人】、中学校では1,123人【+190人】

【高等学校の長期欠席のうち不登校の状況(公立)】

- ・公立高等学校の不登校生徒数は293人【▲7人】
- ・1,000人当たりの生徒数は22.1人【▲0.4人】。
- ・生徒数、1,000人当たりの生徒数ともに微減に転じた。
- ・**県内1,000人当たりの生徒数(24.8人)は、全国平均の20.4人を上回っている。**
- ・定時制では減少に転じたが、全日制では3年連続で増加した。



■ 島根県における教育の喫緊の課題である
減らない不登校児童生徒数の現状



- 当センター相談室の教育相談につながるケースもある
- 「各学校で」個別ケースへの対応がなされている
- この現状を変えるため、積極的なプロアクティブな取組は？
教育センターとして学校現場を支えるためできることは？

→ スリンプル・プログラム

スリンプルプログラムとは・・・

週1回短時間グループアプローチ
〇〇タイム

ソーシャルスキル
トレーニング
「行動」の教育

構成的グループ
エンカウンター
「感情」の教育



各教科等の授業場面における
ペア・グループ活動
〇〇トーク

週1回10分~15分、かかわり活動（関係づくり）の演習を行う。
⇒子供・教師が負担感を感じず楽しめる演習を、**スリム**に繰り返す。
（年間4~5種類程度：「アドジャン」「二者択一」「私の四面鏡」「一分間スピーチ」等）

⇒**シンプル**なルールと型を繰り返すことで、「一枚岩」の実践に。
スリム+シンプル=スリンプル

〇〇タイムで身に付けたスキルを授業場面につなげていく。
例：「ペアで〇〇トーク開始！」
「〇〇タイムのようにお互いの意見を聴きあおう！」
「グループでの話の聴き合い方上手になってきたね！」

超多忙でも
実践できる!

スリム&シンプルなプログラムで“かかわりの力”育成!

スリム (Slim & Simple) ・プログラム

週1回10分の「〇〇タイム」で「かかわりの力」を育てる

名城大学教授 曾山和彦

スリンプルは、「週1回の短時間グループアプローチ」と「各教科等でのペア・グループワーク」の2つの柱からなる“かかわりの力”育成プログラムです。「生徒指導提要」(改訂版)で特に重視されている、すべての子どもを対象とした「発達支持的生徒指導」と「課題未然防止教育」を具体的に実現。すでに多くの学校で実践が広がっています。

おもな内容

- 第1章 今、一番のスリンプル・プログラム実践校
- 第2章 スリンプル・プログラムの概要
- 第3章 スリンプル・プログラムの基本展開と留意点

- 第4章 スリンプル・プログラムの実践校の取り組み
- 第5章 スリンプル・プログラムの効果検証
- 第6章 スリンプル・プログラムの実践動画



■ マルチメディアで「いつでも」資料にアクセスができる利点



曾山和彦の『スリンプル・プログラム』

お知らせ かかわりプログラムSimple コンテンツ お問い合わせ

かかわりの力を「スリム&シンプル」に言む！



教育カウンセラー 曾山和彦

@kazu-sty
かかわりの
kazuSimple
チャンネル

ホーム 動画 再生リスト

新しい順 人気の動画 古い順



ソロ研修91オニの心
32回視聴・13日前

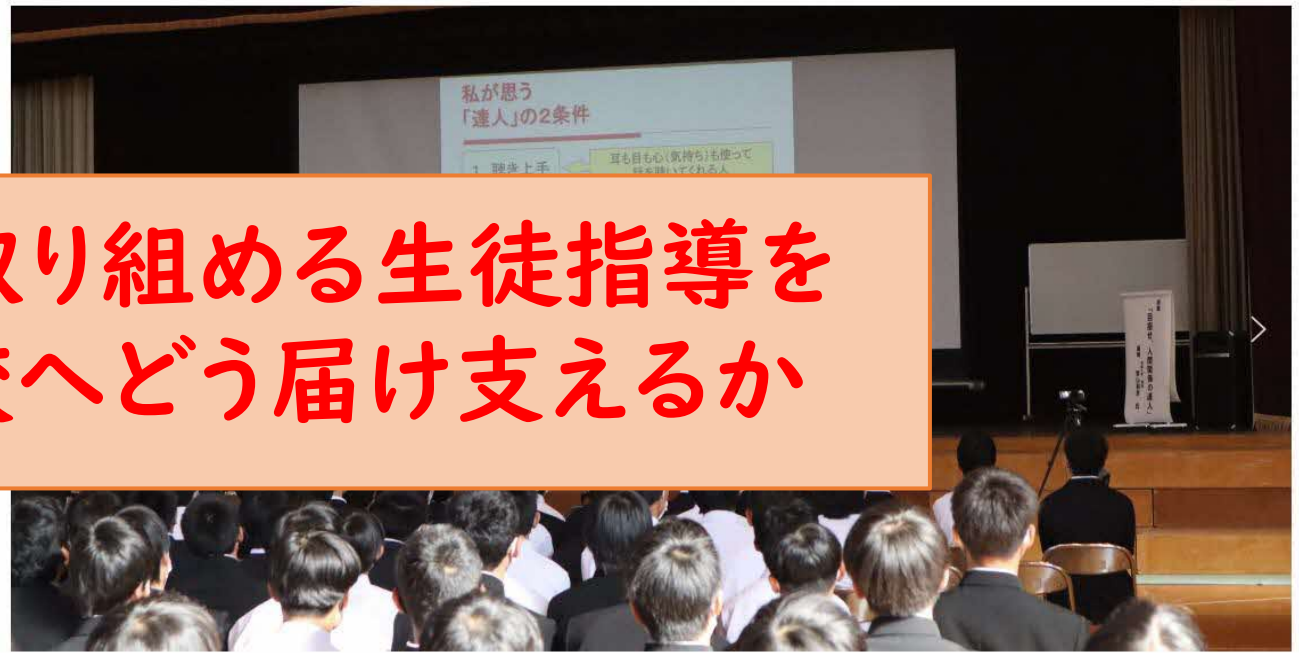


ソロ研修90スリンプル先進校
86回視聴・2週間前



スリンプル01：スリンプル・プログラムとは？
127回視聴・2週間前

プロアクティブに取り組める生徒指導を
ニーズのある学校へどう届け支えるか



志は「幸せな学校・学級づくり」

スリム&シンプルな「Simpleプログラム」で子どものかかわりの力を育むことができます

※曾山教授の許可を得て動画を使用しています。

今年度の取組の計画と概要

■「教職員への意識調査」

→学校現場の教職員のニーズの把握

■能力開発講座に曾山教授を講師に招聘

→スリンプル・プログラムについての研修を実施

■先進的に取り組む学校や教育委員会へ取材

→長期に継続できている学校からエッセンスを学ぶ

→これから始める学校への取組のヒントを得る

みなさんが感じている 学級づくり・仲間づくりに 関するアンケートのお願い

新任研修
6年目研
中堅研修
共通調査

今回改訂された生徒指導提要にもあるように、「不登校」や「いじめ」などの未然防止への積極的な取り組みが喫緊の課題となっています。

浜田教育センター教育相談スタッフでは、2年間をかけて「導入しやすい学級づくり・仲間づくりプログラム」についての研究を進めていきます。より、学校現場の実態やニーズに合った取り組みができるようにしていきたいと考えています。ぜひ、みなさんのご意見をお聞かせ頂き、御協力をお願いします。

- 令和5年8月～9月
新任・6年目・中堅研
- 「生徒指導・教育相談」
講義受講者を対象に
- 任意での調査を依頼





【学級づくり・仲間づくりに関する調査】

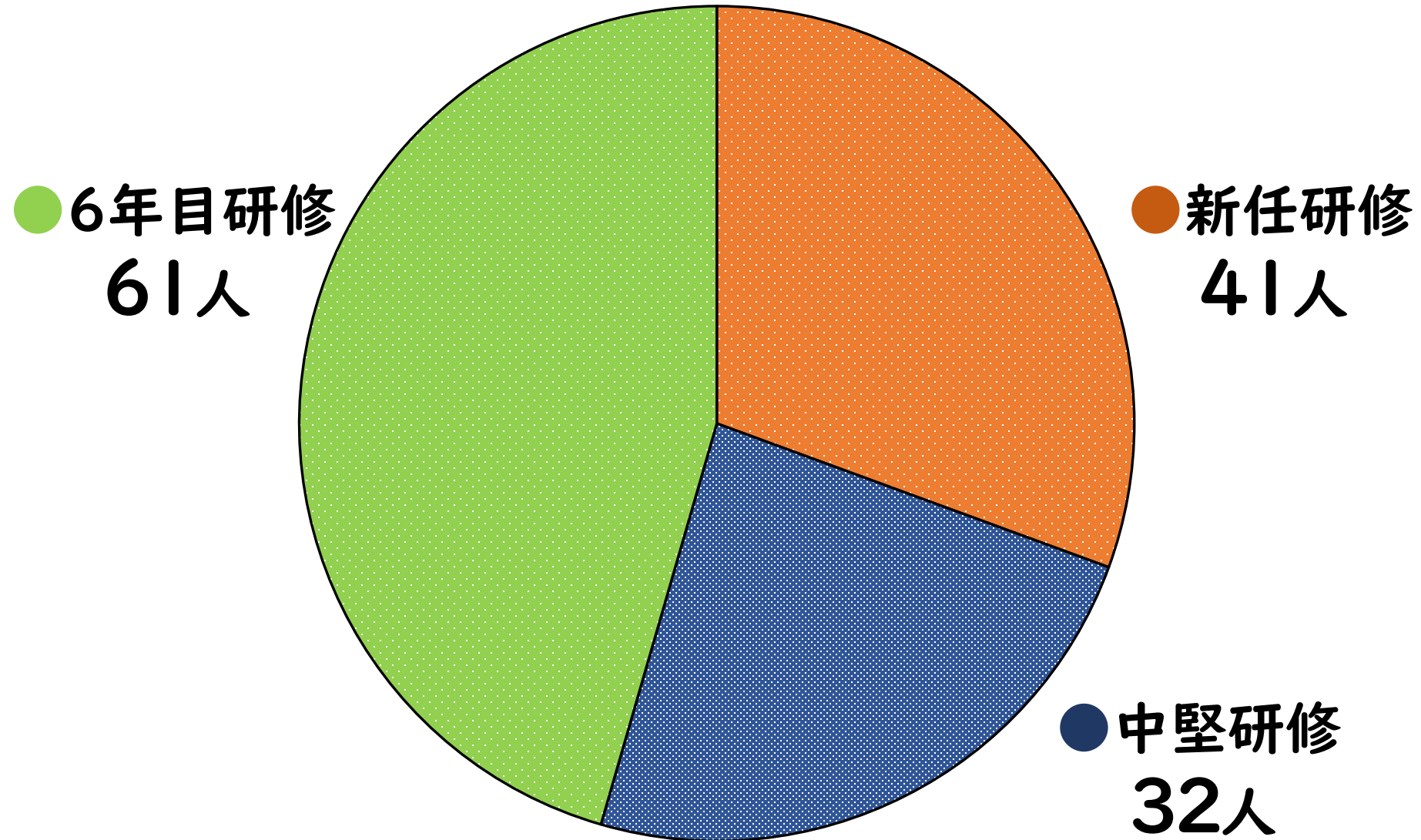
新任研/6年目研/中堅研/(共通)8月～9月期

■浜田教育センター教育相談スタッフでは、学級づくり・仲間づくりに関する共同研究(週1回10分で関係づくりができるプログラム:スリンプルプログラムの研究)に取り組んでいます。学校現場の先生方が感じている現場の課題や実態に即した研究 → 先生方のニーズに合ったプログラムの提供ができるよう アンケートにご協力をお願いします。

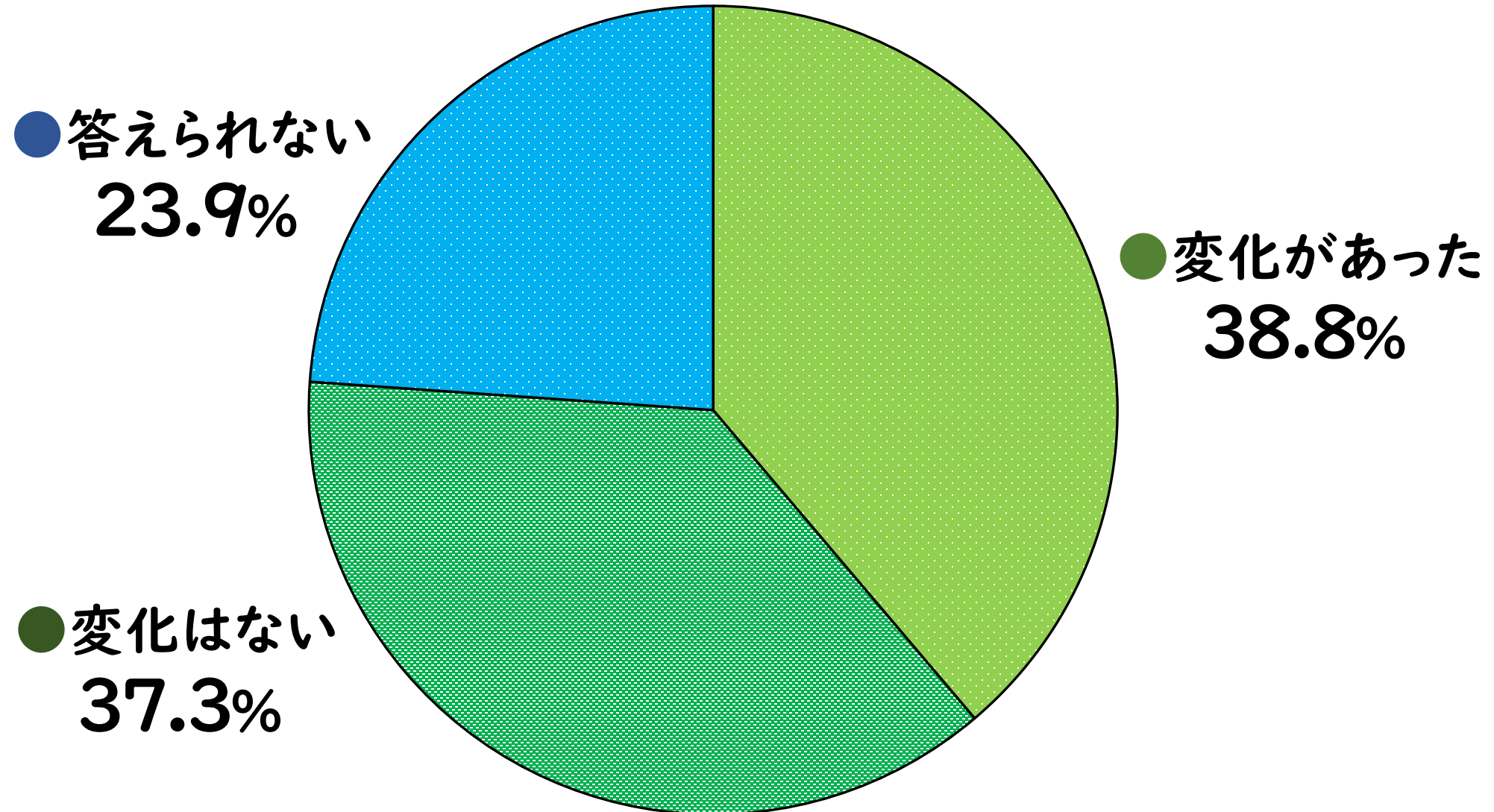
実際の
質問項目は
こちらから



■アンケートへの回答者数と内訳(134人回答)



■問1：コロナ以前と比較して現在の学級集団が変化していると感じるか？



■問1で「ある」と回答された方、どのような場面でそう感じられますか？

席が離れているのが当たり前なので話し合いの雰囲気は…

いろいろなイベント事を経験していないので団結や盛り上げるなどが苦手なイメージがあります。

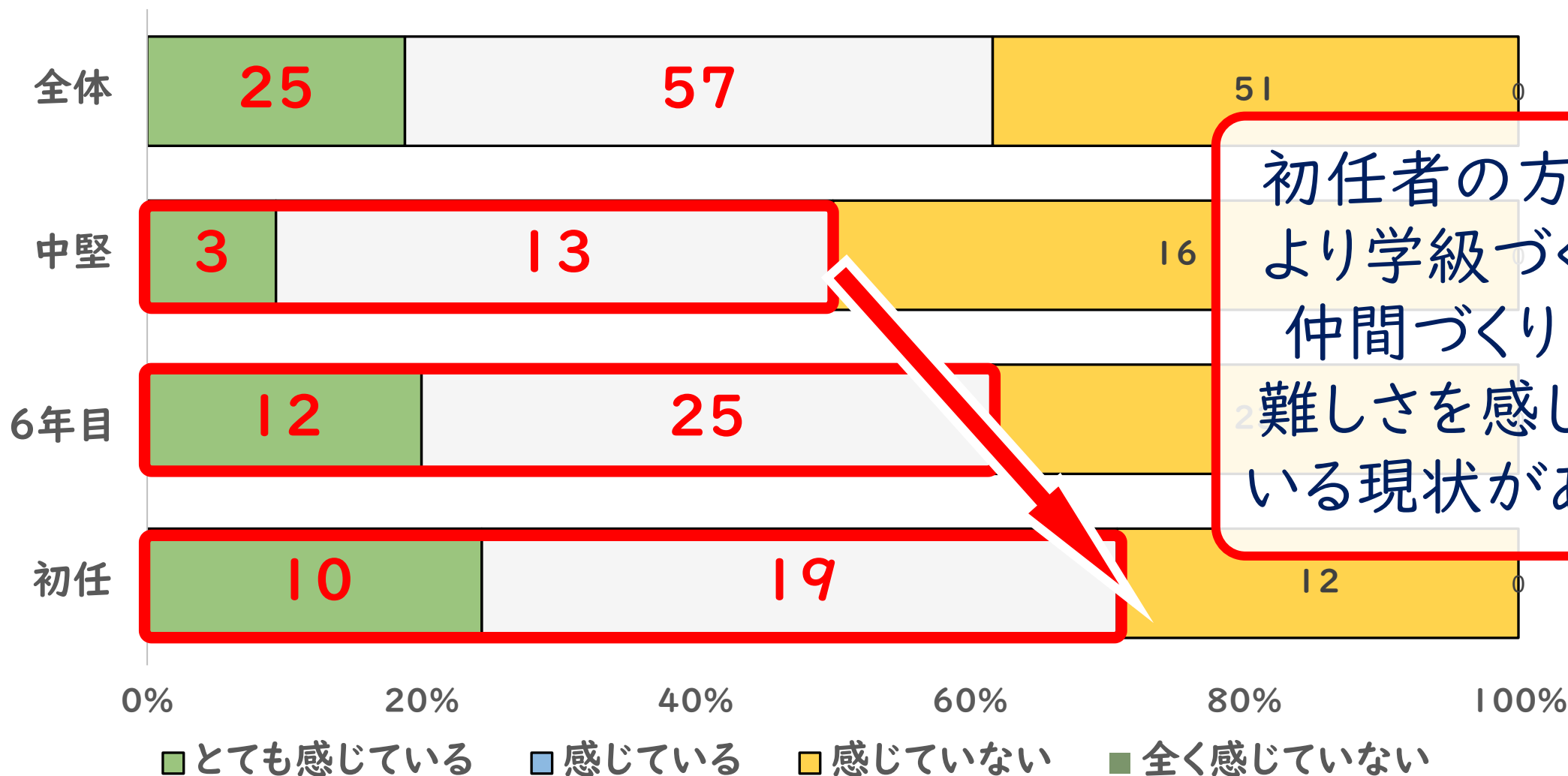
マスク越しで表情が読み取りにくく、生徒同士や生徒と教師間でもコミュニケーションが難しい場合がある。

小グループになり、そこから広げようとする生徒が少ない。仲良くない人とのグループに抵抗感がある生徒が以前よりも増えた。

マスクを外さない生徒が多く、中には素顔を見られるのが嫌で給食を食べない生徒もいる。

友達同士の距離感が遠い。黙食などの影響で会話が少なかったためか、お互いのことをよく知らない子が多い。

■問2: 現在、学級づくりや児童生徒の仲間づくりで難しさを感じていますか？



初任者の方がより学級づくり仲間づくりに難しさを感じている現状がある

■問2 難しさを感じておられるのはどんな点でしょう

学習規律を整えるための指導、お互いを認め合える仲間にするための指導や関わり。

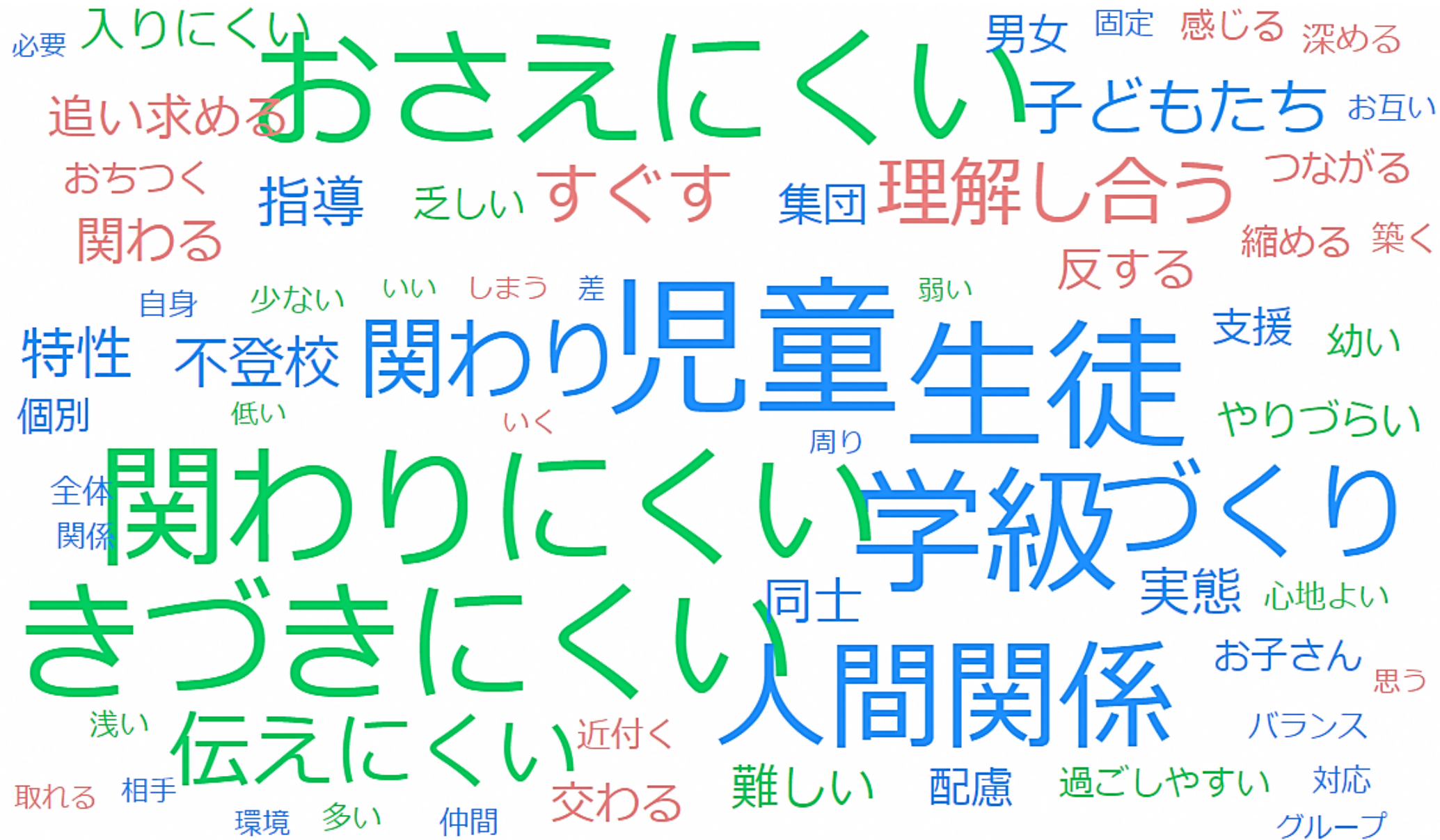
高学年ですが、人間関係が固定化されていて、ペアやグループ活動等がやりづらい。

生徒同士の間人間関係が広がらないところ(初めての人に対して全く話さなかったり、話題に困る様子があったりするところ)

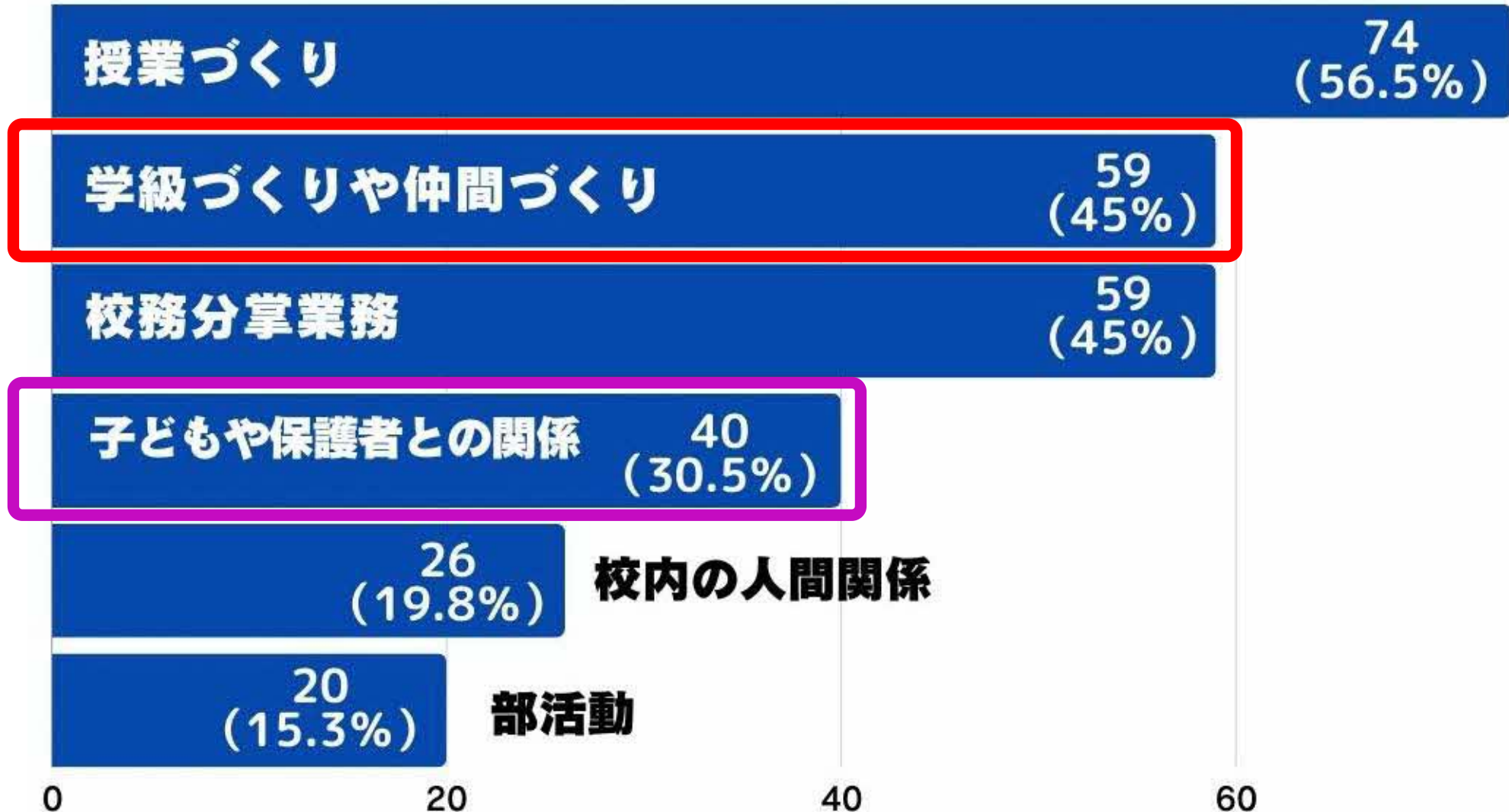
行事ごとなどのノウハウがないことの運営をしなければならぬこと。手探りでやらなければならぬことがあるのが大変。

個性の尊重と集団としてのまとまり両方を追い求める難しさ

どうしても、人にちょっとかいやイライラをすぐしてしまう子をどうすれば安定できるか、自信がもてるかが知りたい。



■問4:現在の業務上、「困っている」と感じられること(複数選択可)



■問4:現在の業務上、「困っている」と感じられること(経験年数別)

	初任		6年目		中堅	
①	授業づくり	24	授業づくり	36	校務分掌業務	18
②	学級づくりや 仲間づくり	20	学級づくりや 仲間づくり	35	授業づくり	15
③	子どもや保護者 との関係	12	校務分掌業務	31	校内の人間関係	12
④	校務分掌業務	11	子どもや保護者 との関係	19	子どもや保護者 との関係	9
⑤	部活動	10	校内の人間関係	8	学級づくりや 仲間づくり	4
⑥	校内の人間関係	6	部活動	6	部活動	4

□「教職員への意識調査」

→学校現場の教職員のニーズの把握

■能力開発講座に曾山教授を講師に招聘

→スリンプル・プログラムについての研修を実施

□先進的に取り組む学校や教育委員会へ取材

→継続できている学校からエッセンスを学ぶ

→これから始める学校への取組のヒントを得る

■能力開発講座 「学級づくり仲間づくり講座」 のテーマを今年度はスリンプル・プログラムに

- ・令和5年6月28日オンラインで実施
- ・曾山和彦教授による講義と演習
- ・午前午後合わせて4時間の講座
- ・島根県内、鳥取、埼玉県から30名の受講者



講座のねらい

- ①実際の事例を通し、**学級づくり仲間づくりのポイントについて理解を深める**
- ②研修後に**学校現場で実践したい取組のアイデアを得る**

■能力開発講座の開設 | 「学級づくり仲間づくり講座」の評価 25

受講者に提示した この講座のねらい の達成度について	研修 の	そう思う (人・%)		少しそう思う (人・%)		あまりそう思わ ない(人・%)		そう思わない (人・%)	
① 実際の事例を通し、 学級 づくり仲間づくりのポ イントについて理解を深 める	前	6人	23%	17人	65%	3人	11%	0人	0%
	後	20人	76%	6人	23%	0人	0%	0人	0%
② 研修後に 学校現場で実 践したい取組のアイデ アを得る	前	9人	34%	16人	61%	1人	3%	0人	0%
	後	21人	80%	5人	19%	0人	0%	0人	0%

コロナ禍で、人と関わる機会の多いはずの学校でも、関わりをもつ機会が希薄になってしまい、子どもたちは「友達と一緒に何かをする」ことを求めているんだなと知った。

現在「〇〇トーク」や「〇〇タイム」という名前で行う学校も増えている。そのやり方と効果、注意点について丁寧に説明していただきとても勉強になった。

自分の学級で週に1回〇〇タイムを取り入れてみて、自分で効果やエビデンスを確かめてみたいと思いました。そこから、その変化をまず学年部に共有したいとも思いました。

他の教員にも研修報告等で周知したいです。そして「かかわり」を大切にする教育活動を仕組んでいきたいと思います。

まずは自分の学級から始めてみて、少しずつ周りにも勧められたらと思いました。そのためにも、価値づけや意義を理解し、子どもたちへ伝えられるようにしたいと思います。

今の生徒の現状を見ていて必要な能力だとすごく感じる事ができた。自分にできるところで実践につなげていきたい。

先進校などの実践を訪ねて

□「教職員への意識調査」

→学校現場の教職員のニーズの把握

□当センターの能力開発講座に曾山教授を講師に招聘

→スリンプル・プログラムについての研修を実施

■先進的に取り組んでいる学校や教育委員会への取材

→継続できている学校からエッセンスを学ぶ

→これから始める学校への取組のヒントを得る

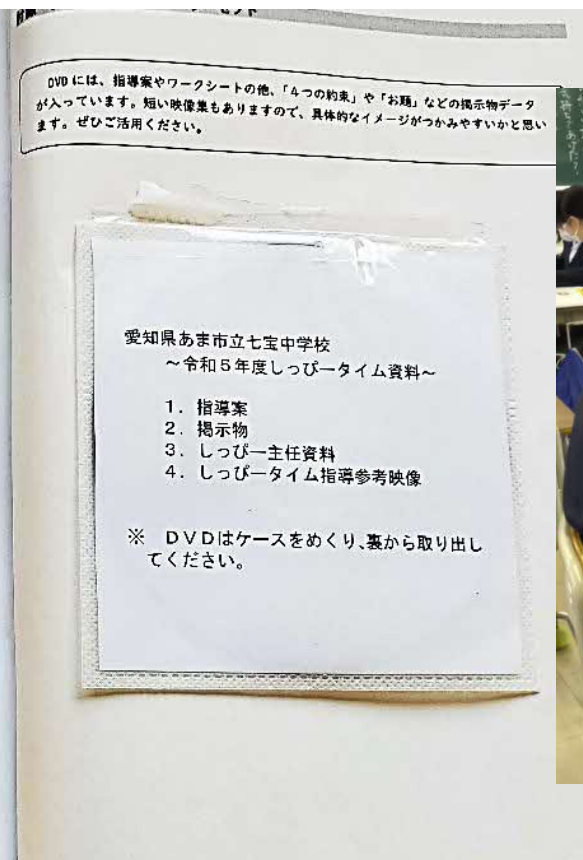
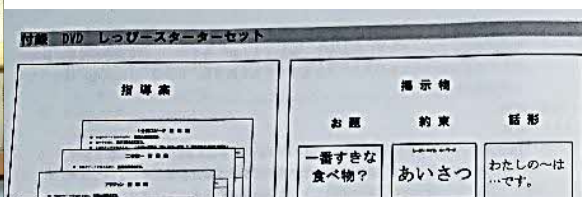
■ 今年度のスタートアップ校
・ 益田市立東陽中学校

■ 島根県内市教委単位での取組
・ 出雲市教育委員会
・ 雲南市教育委員会

■ 他県の先進校の継続的な実践に学ぶ
・ 愛知県あま市立七宝中学校
・ 愛知県西尾市立一色中学校

■先進校などの実践を訪ねて | しっぴートークで展開される授業 30

■愛知県あま市立七宝中学校(しっぴータイム) スリンプル・プログラム実践の自主発表会も開催



■愛知県西尾市立一色中学校 校内授業公開と校内研修会に参加

一色中学校現職教育研修会

曾山先生から学ぶ

演題「確認! しおさいタイム」

名城大学教授 曾山和彦先生



テーマ

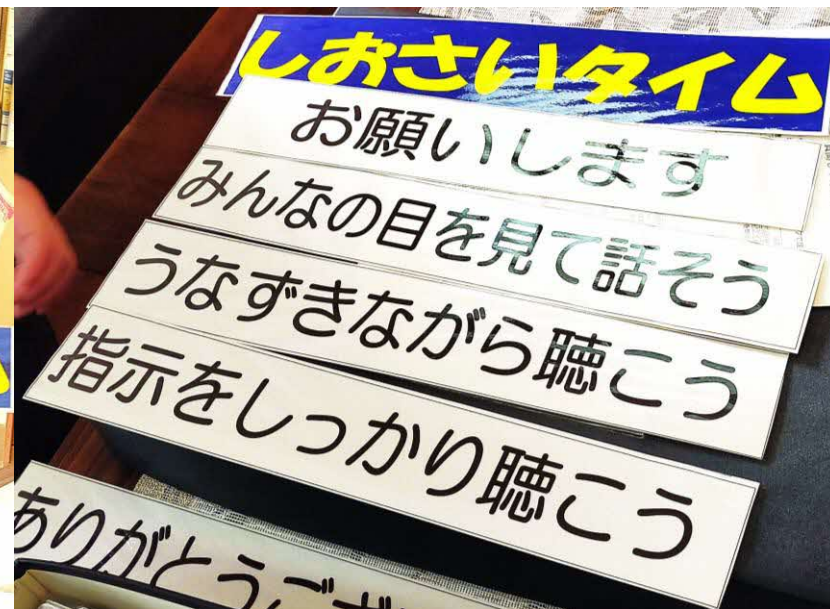
の思いをもち、自分の思いを語り、自ら動くしおさいの生徒たち

かな人間関係を土台に、話し合いを大切にすしおさいスタイルづくりを通して～

11月29日(曾山先生)	
午前中は通常日課と同じ	
給食 短学活含む	12:30 ~ 13:00
◎自習・学活 しおさいタイム(全クラス)	13:25 ~ 14:00
5限	1年公開 13:25 ~ 14:00
	2年公開 13:40 ~ 14:00
	3年公開 13:55 ~ 14:00
2・3年下校	14:15 ~ 14:30
1年下校	14:20 ~ 14:30
3の6に移動	14:35 ~ 14:45
講演会 オンライン(Zoom)の予定	14:45 ~ 15:00




■ 愛知県西尾市立一色中学校（しおさいタイム）
「しおさい部会」の活動について



自発的に募ったしおさい部会
のメンバーが後方支援を

■ スリンプル・プログラムの継続の秘訣

- 
- ◆ 両校とも「〇〇部会」を設置
 - プログラムのメンテナンスと後方支援
 - 指導案のストックやデータベース化
 - ◆ 定期的な曾山教授によるスーパーバイズ
 - 新任者等への理解啓発（生徒へも）
 - 目的や理念の共有化を図る

2年次の研究の取組に向けて

■能力開発講座

「学級づくり仲間づくり講座」

来年度もスリンプル・プログラムを
曾山和彦教授との対面講座で



令和6年度は **5月30日（木）**

浜田教育センター**集合型研修**

■市教育委員会の取組を引き続き学ぶ

- ・出雲市教育委員会
 - 特別支援の視点からの取組
 - だんだんタイムの成果の分析
- ・雲南市教育委員会



雲南市不登校対策プロジェクト(R4-R6)

■雲南市教育委員会（R4～R6の3年間）

令和5年度雲南市不登校対策プロジェクト

2023

雲南

◆学校が安全・安心な場となるための基礎的・基盤的取組みの充実

＊集団づくり、学級づくりの研修講座「曾山先生の研修会」研修会

（令和5年度 雲南市スーパーティーチャー活用事業による研修会）

① 演 題 不登校対応研修：

幸せな学校・学級づくりのための「スリンプル・プログラム」

ソーシャルスキルの定着・活用を通して「かかわりの力」を育む

② 講 師 曾山和彦氏 名城大学教授



③ 研修の概要：研修会では、曾山和彦先生を講師としてお招きし、師範授業と講義により児童・生徒同士のソーシャルスキルの育成を通じた「かかわりの力」を育む集団づくり、学級づくりの実践的手法について学びます。

第5回研修会：1月17日（水）：斐伊小学校（校区の中と全小学校）

13：40～ 受付（職員玄関）

14：05～ 授業（斐伊小・小倉教諭）「スリンプル・プログラム」

3年（教室）【10分】

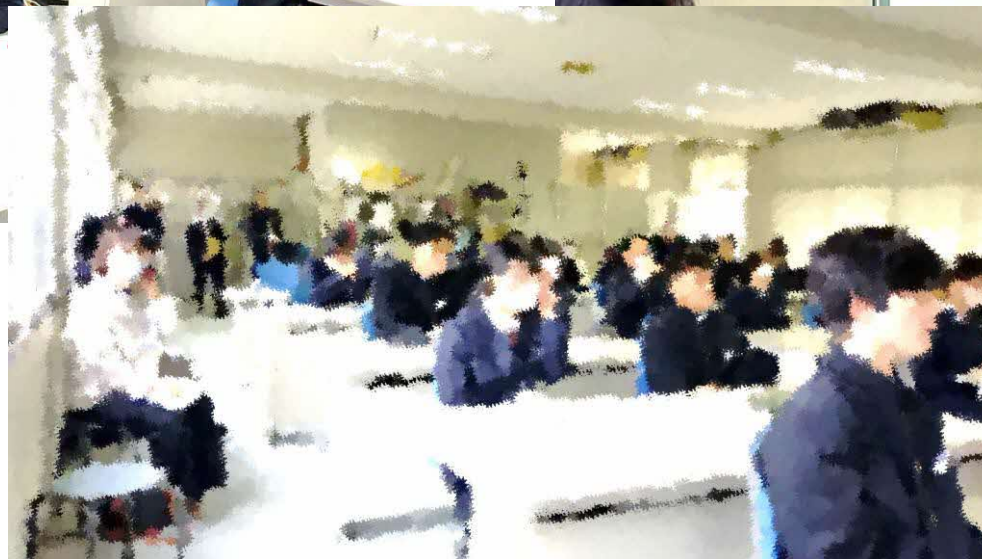
曾山先生による「スリンプル・プログラム」の意義について

3年（教室）【15分：自己紹介・説明含む】

14：50～ 曾山先生による講義（教職員向け）（ランチルーム）【70分】

1年間に基本4回
曾山先生による
中学校区で研修

■雲南市教育委員会（R4～R6の3年間）



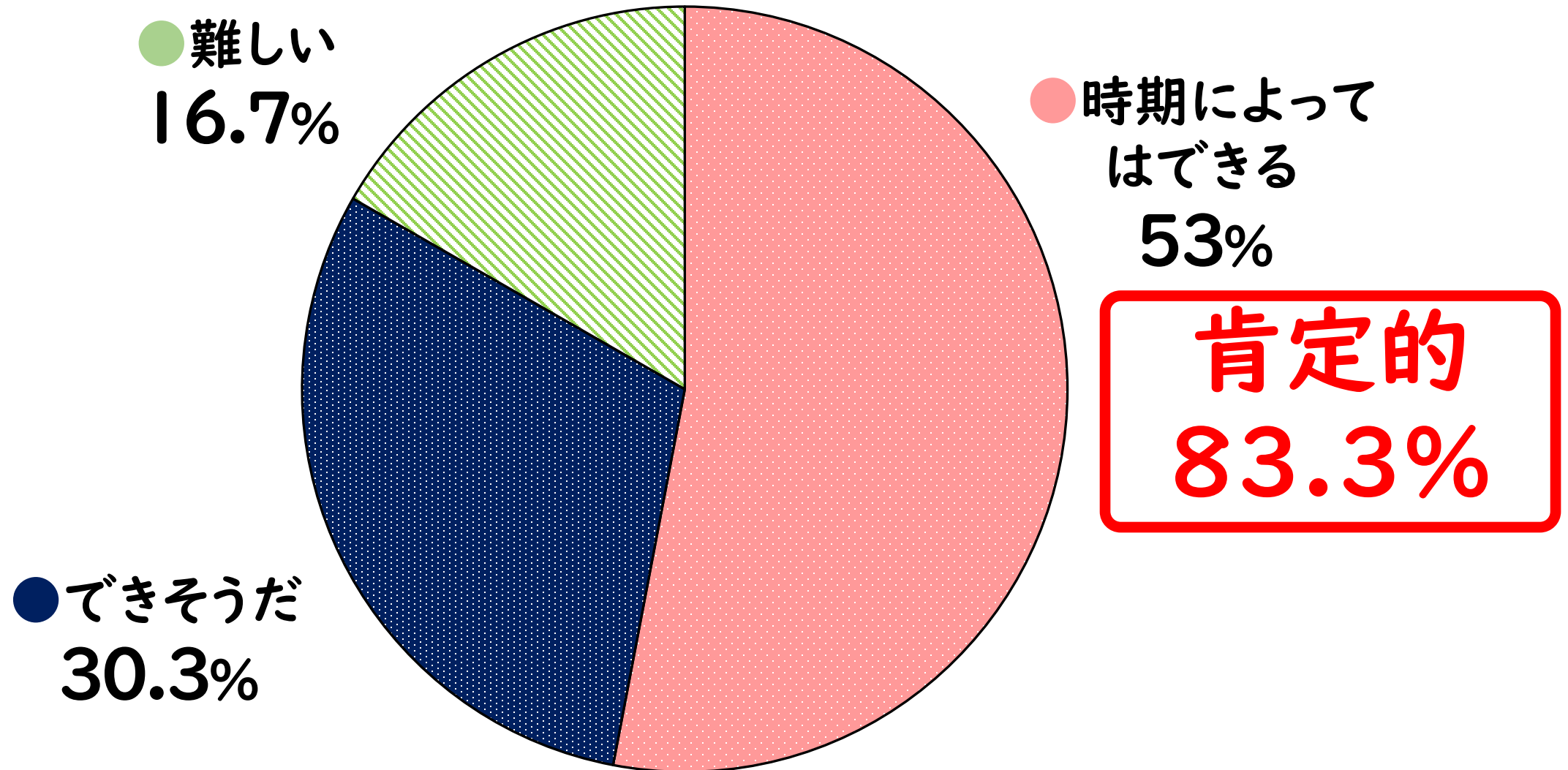
■学校現場へのスムーズな導入のために

- ・具体的な学校支援
 - 能力開発講座の実施
 - 先進校からの教材や資料提供も
- ・研究協力校や継続中の教育委員会と共に

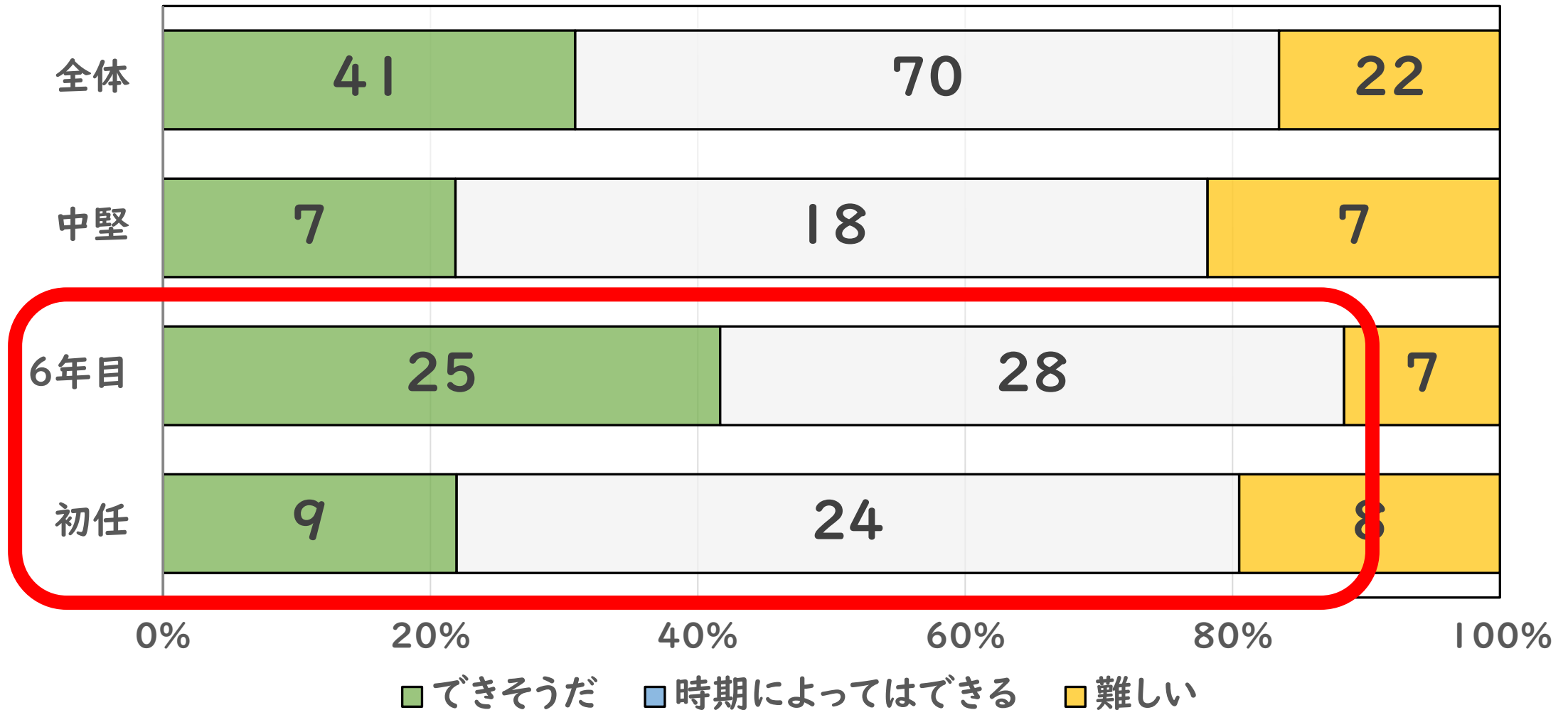


導入後の教職員の意識変化なども調査

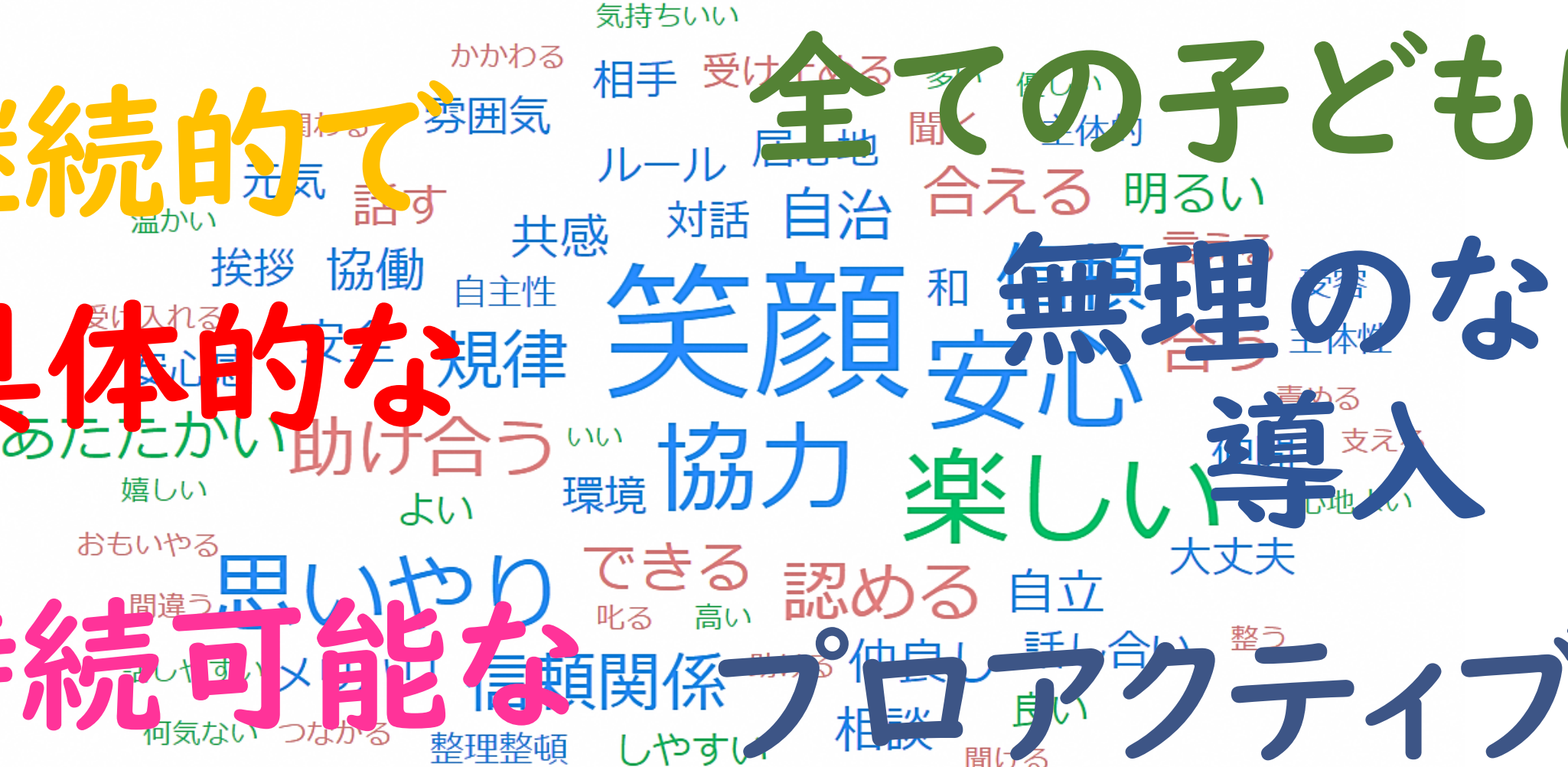
■問6 週1回10分間程度の「集団づくりプログラム」を継続的に実施可能ですか？



■ 問6 週1回10分間程度の「集団づくりプログラム」を継続的に実施することが可能ですか？



■ 問5「うまくいっている学級づくり」のキーワードとして考えられる「単語」を自由に、いくつでもお書きください



A word cloud of Japanese educational terms. The most prominent words are: 笑顔 (Smile), 安心 (Peace of mind), 楽しい (Fun), 協力 (Cooperation), 無理のない (No unreasonable), 継続的 (Continuous), 具体的 (Specific), 持続可能な (Sustainable), and プロアクティブな (Proactive). Other visible words include: 笑顔 (Smile), 安心 (Peace of mind), 楽しい (Fun), 協力 (Cooperation), 無理のない (No unreasonable), 継続的 (Continuous), 具体的 (Specific), 持続可能な (Sustainable), and プロアクティブな (Proactive). Other visible words include: 笑顔 (Smile), 安心 (Peace of mind), 楽しい (Fun), 協力 (Cooperation), 無理のない (No unreasonable), 継続的 (Continuous), 具体的 (Specific), 持続可能な (Sustainable), and プロアクティブな (Proactive).

■令和6年度に向けて | これからも、学校現場を支えていきたい!

「学校現場の『学級づくり』を支える教育センターの取組」

2年次は研究協力校や教育委員会等とも連携し、実践的に研究を進めていきます

「学びの変容を実現させる授業改善のための
効果的なICT活用の推進についての一考察」
(1年次／1年)

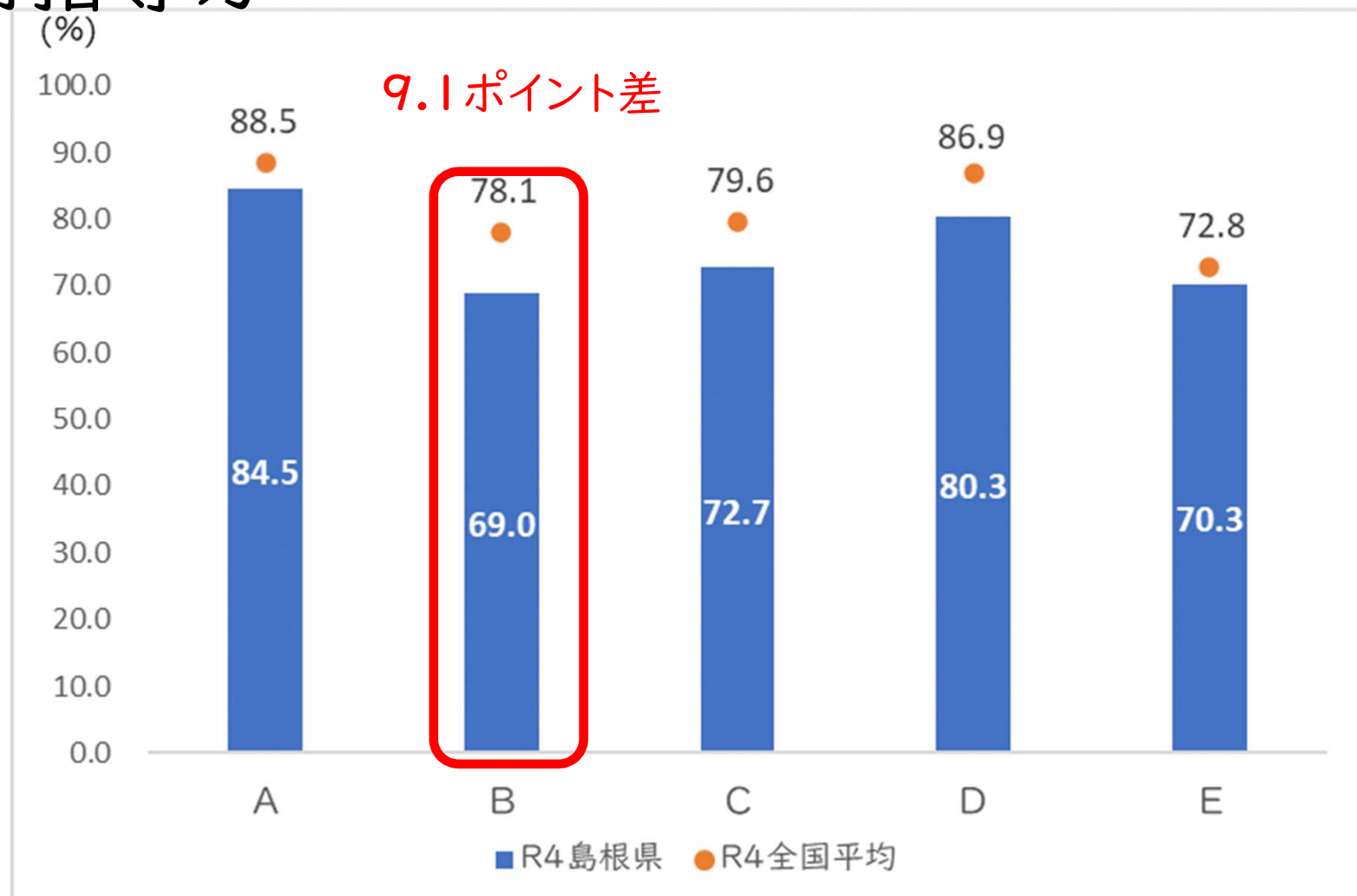
島根県教育センター研究・情報スタッフ共同研究

GIGAスクール構想、次の段階へ

- GIGAスクール構想は令和5年度で3年目
- 各地で取組事例が蓄積されている
- リーディングDX事業
- 学校DX戦略アドバイザー事業
- 取組事例の共有と効果の検証

教員のICT活用指導力

島根県の状況



- A 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力 (%)
- B 授業にICTを活用して指導する能力 (%)
- C 児童生徒のICT活用を指導する能力 (%)
- D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力 (%)
- E 研修を受講した教員の割合 (%)

文部科学省:学校における教育の情報化の実態等に関する調査より作成

島根県教育センター研究・情報スタッフ

教員が思うほど児童は使っていると感じていない

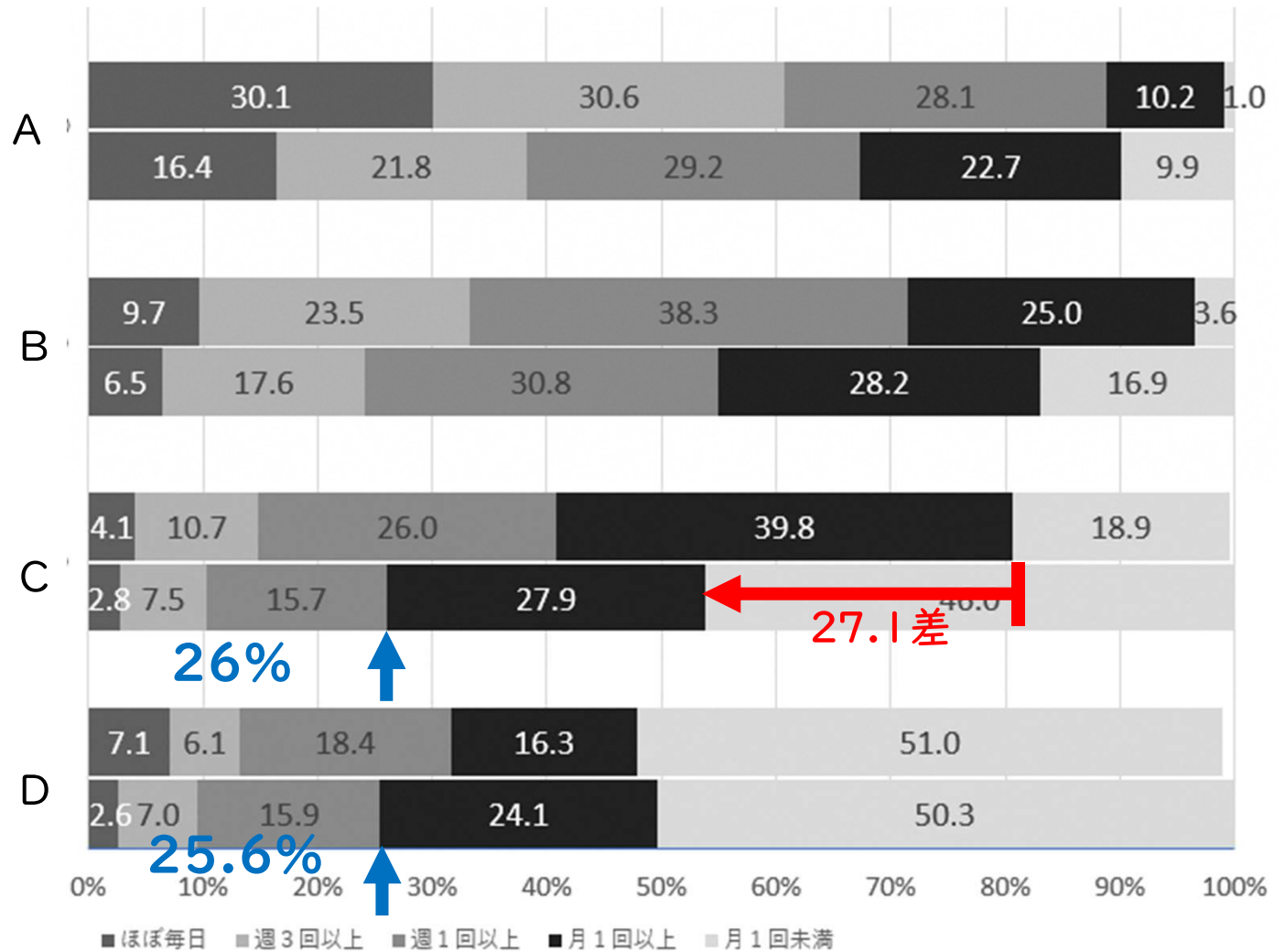
島根県の状況

○授業でのICTの活用

上段:教員
下段:児童

- A 「1人1台端末を授業で活用」
- B 「自分で調べる場面で使用」
- C 「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面でどの程度使用したか」
- D 「児童同士がやりとりする場面」

※中学校も同様の傾向



文部科学省:令和4年度全国学力学習状況調査学校質問紙、児童生徒質問紙調査結果より作成

学びの変容を実現した授業改善が進んだ姿とは

主体的・対話的で深い学びの実現

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている
- ・各学校段階において、それぞれ目指す学びの姿が実現されている

子どもが自分の学びを調整している姿
話し合い活動が積極的に行われている姿

文部科学省「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)【総論解説】より

島根県教育センター研究・情報スタッフ

研究の目的

学びの変容を実現させる授業改善のための効果的なICT活用の推進を実現するために、どのような取組が効果的であるかを明らかにする。

研究の仮説

ICT活用を推進している学校では、次にあげるような要素を見出すことができるであろう。

授業の中で

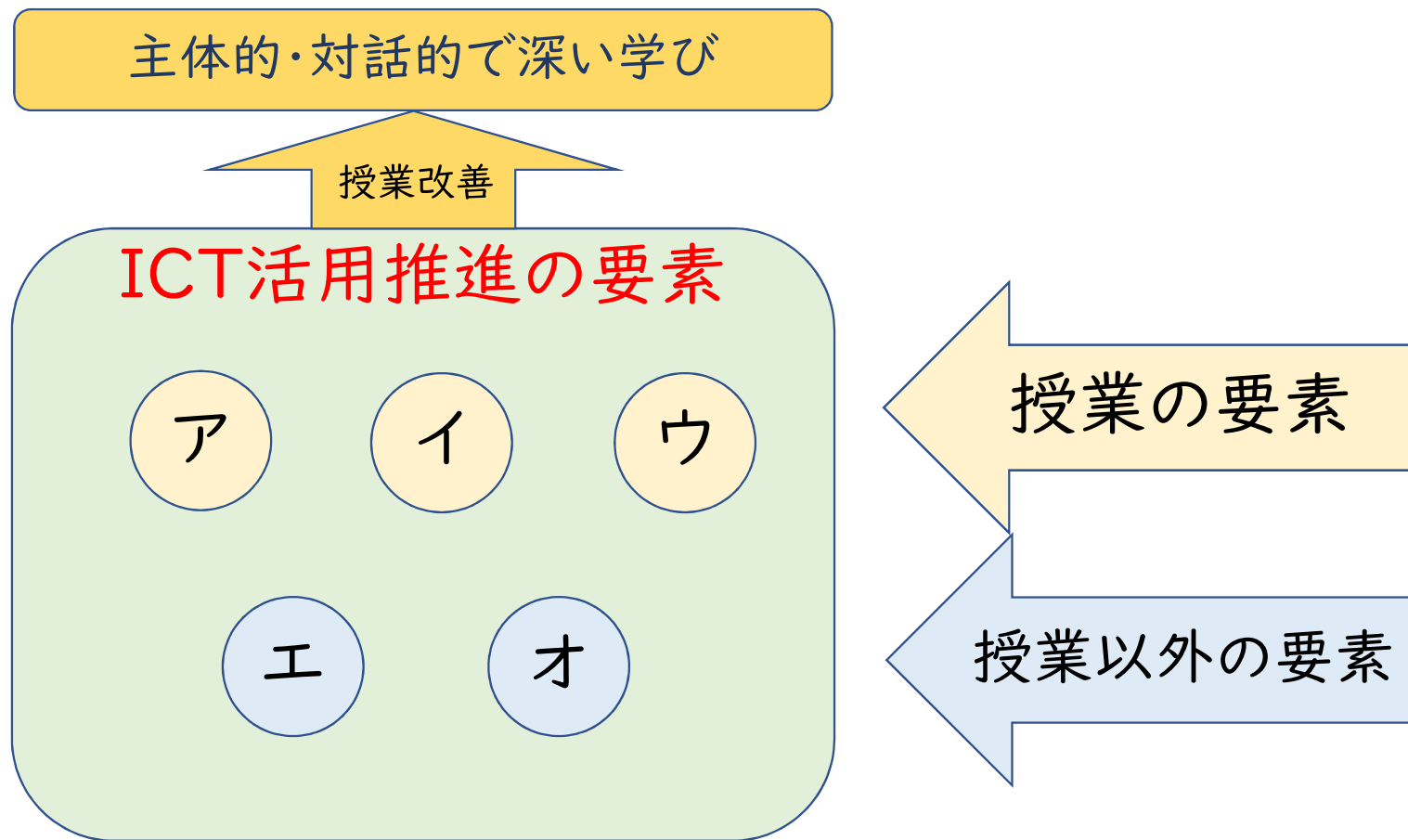
㊦クラウドの活用 ㊦学び方の選択 ㊦アウトプット

授業以外で

㊦校務での活用 ㊦職員同士の学び合い

研究の仮説

イメージ図



- ㊦クラウドの活用
- ㊧学び方の選択
- ㊨アウトプット
- ㊩校務での活用
- ㊪職員同士の学び合い

視察した学校

A

管理職のリーダーシップと
全職員の意識共有で
推進している学校

B

ICT推進担当が
率先して事例共有を
進めている学校

C

ICT活用が
進みだした学校

D

外部と連携し積極的に
活用を進めてきた学校

E

PDCAサイクルで活用を
進めている学校

管理職のリーダーシップと全職員の意識共有で推進している学校

授業改善が進んでいる学校や地域の取組

A校

- ・チャットで意見交換 **ア**
- ・クラウドで授業計画を共有 **ア**
- ・活動は生徒一人一人のタイミングで **イ** **ウ**
- ・使い方、学び方は生徒が自分で **イ**
- ・全体発表とデータ共有でアウトプット **ウ**
- ・校務でもICT活用、全職員で意識の共有 **エ** **オ**
- ・学校HPで積極的な情報公開

席が離れていても
考えがわかる

詳しく話し合いたい
ときはそばに行く

作業を分担して
発表資料が
すぐできる

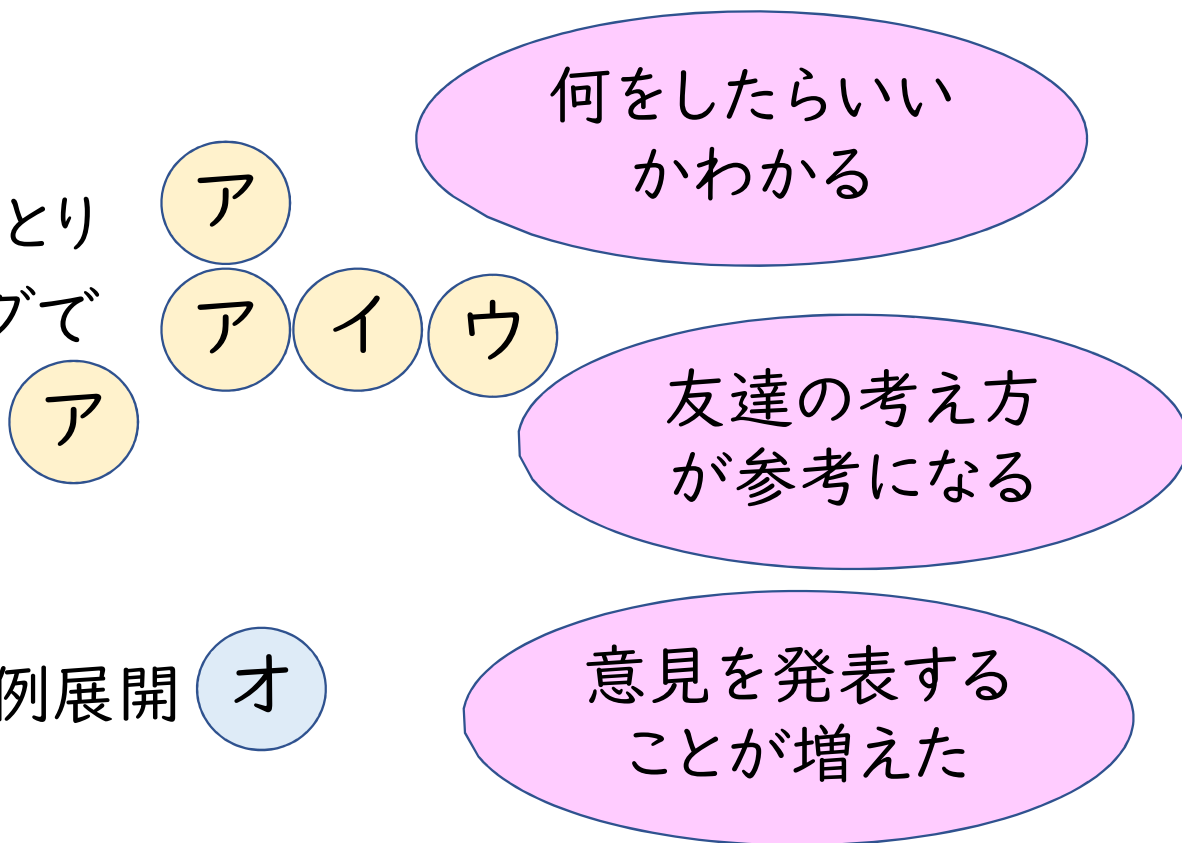
㊦クラウドの活用 ㊦学び方の選択 ㊦アウトプット
㊦校務での活用 ㊦職員同士の学び合い

ICT推進担当が率先して事例共有を進めている学校

授業改善が進んでいる学校や地域の取組

B校

- ・クラウド上でめあてや予定をやりとり
- ・活動は児童一人一人のタイミングで
- ・振り返りをクラウドで共有
- ・意見共有の効率化
- ・ICT活用は学びを深める段階へ
- ・ICT推進リーダーの積極的な事例展開



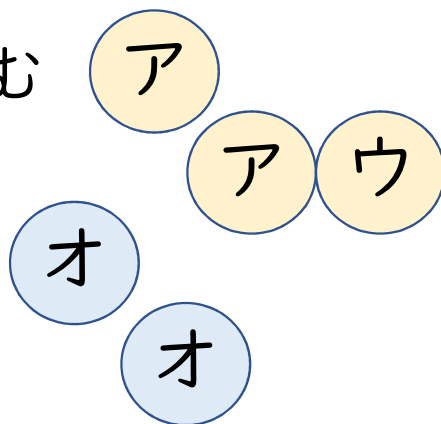
- ㊦クラウドの活用
- ㊧学び方の選択
- ㊨アウトプット
- ㊩校務での活用
- ㊪職員同士の学び合い

ICT活用が進みだした学校

授業改善が進んでいる学校や地域の取組

C校

- ・互いの意見を見る、書き込む
- ・発表資料の共有、提示
- ・職員室での学び合い
- ・実践を共有する場の設定



今までの授業
より楽しい

失敗も共有

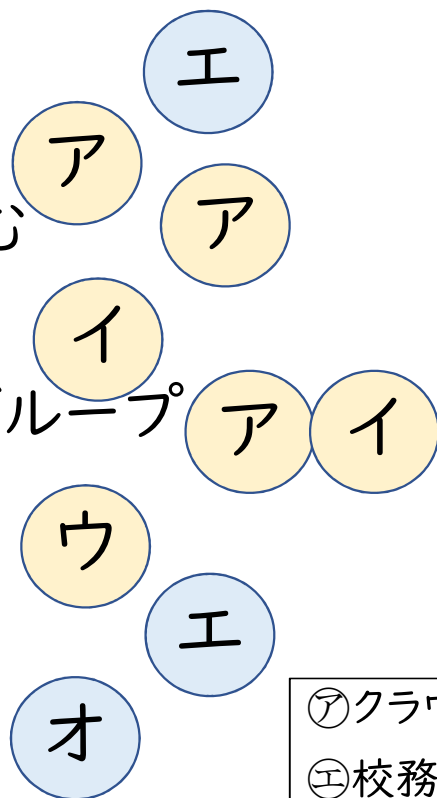
- | | | |
|----------|------------|---------|
| ㊦クラウドの活用 | ㊩学び方の選択 | ㊵アウトプット |
| ㊧校務での活用 | ㊰職員同士の学び合い | |

外部と連携し積極的に活用を進めてきた学校

授業改善が進んでいる学校や地域の取組

D校

- ・校務も授業も同じ端末
- ・クラウドを使ってやりとり
- ・互いの考えを見る、書き込む
- ・紙とICTの併用
- ・自分のタイミングでペア、グループ
- ・電子黒板で発表
- ・授業以外でもICTを活用
- ・立場を超えて学び合い



手書きよりも打つ
ほうが速くできる

世の中に出たときと
同じやり方で学べる

困ったら
生徒に聞く

情報活用能力が
高まった

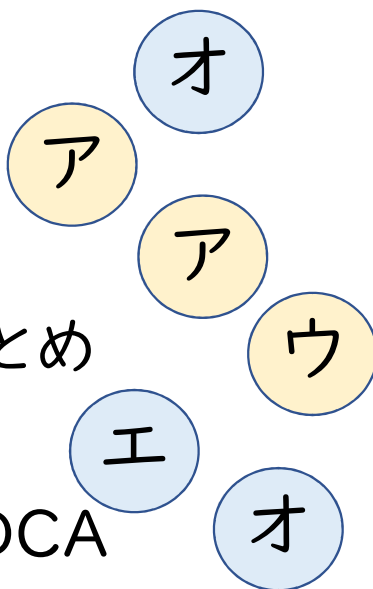
- ㊦クラウドの活用
- ㊧学び方の選択
- ㊨アウトプット
- ㊩校務での活用
- ㊪職員同士の学び合い

PDCAサイクルで活用を進めている学校

授業改善が進んでいる学校や地域の取組

E校

- ・視察事例の共有、実践
- ・クラウドで配布、提出、共有
- ・互いの考えを見る、書き込む
- ・プレゼンテーションソフトでまとめ
- ・校務でもICT活用
- ・ICT活用指導力体系表でPDCA



考えている途中が
わかる

便利さを実感して
授業にも

- ㊦クラウドの活用 ㊦学び方の選択 ㊦アウトプット
㊦校務での活用 ㊦職員同士の学び合い

ICT活用が進んでいる学校の共通点

授業改善が進んでいる学校や地域の取組

- ・クラウドの活用（相互参照、共同編集、情報共有）
- ・子ども主体の授業（学び方、手段の選択）
- ・アウトプットの場面（インプットだけで終わらない）
- ・管理職（引っ張る、後押しする、環境を整える）
- ・ICT活用推進リーダー（自ら実践、事例の収集と発信）
- ・校務でも活用（クラウドの便利さを実感→授業で使う）
- ・支持的な雰囲気（とにかく使う、みんなで取り組む）

主体性が増した

集団として
落ち着いた

ア

イ

ウ

エ

オ

㊦クラウドの活用 ㊦学び方の選択 ㊦アウトプット
㊦校務での活用 ㊦職員同士の学び合い

学校の自走を促す教育委員会

授業改善が進んでいる学校や地域の取組

江津市教育委員会との取組

- ・教育センターとの継続的な関わり
- ・実態に沿った研修内容の立案、研修
- ・ICT活用全体構想作成への情報提供
- ・対話を通じた学校ニーズの詳細な把握

顔がわかる関係で
聞きやすい

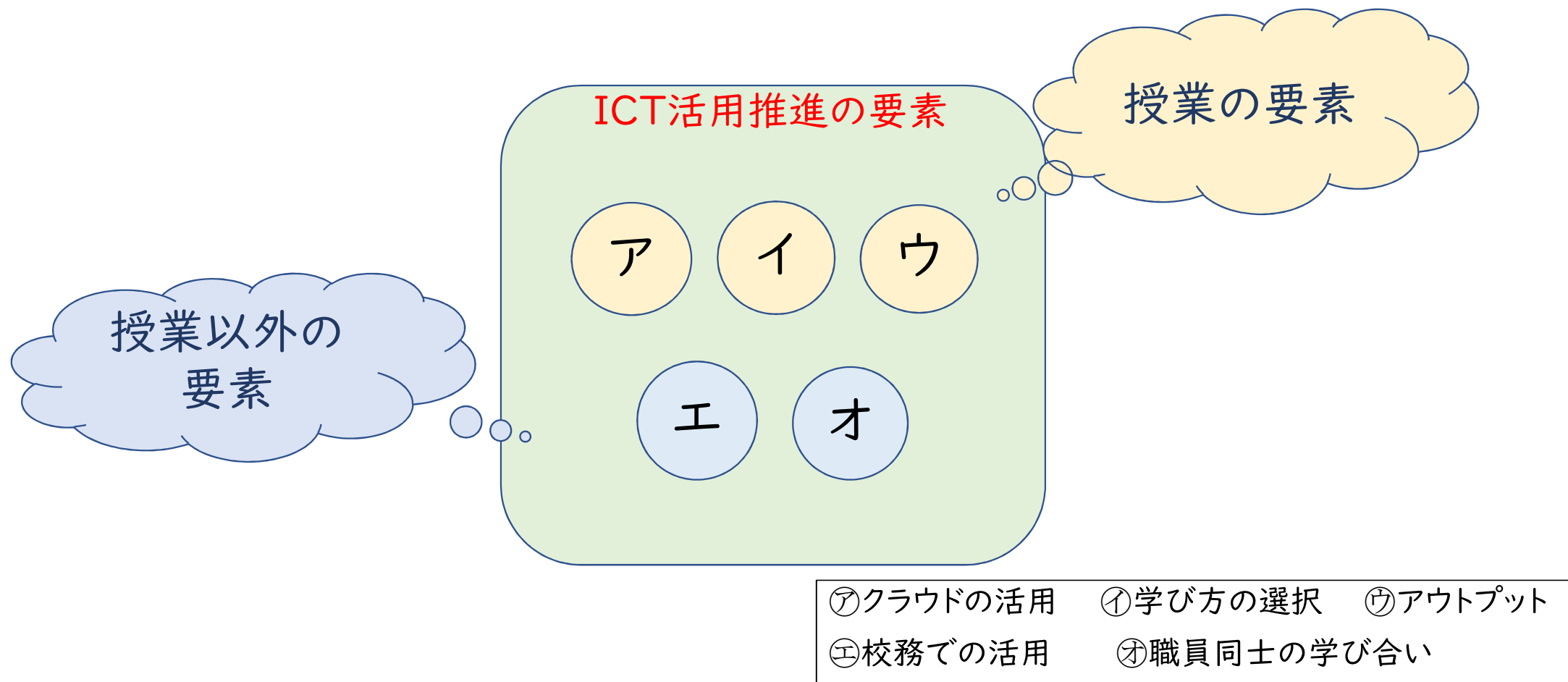
ほどよい負荷の
研修内容

研修して終わり、
ではない

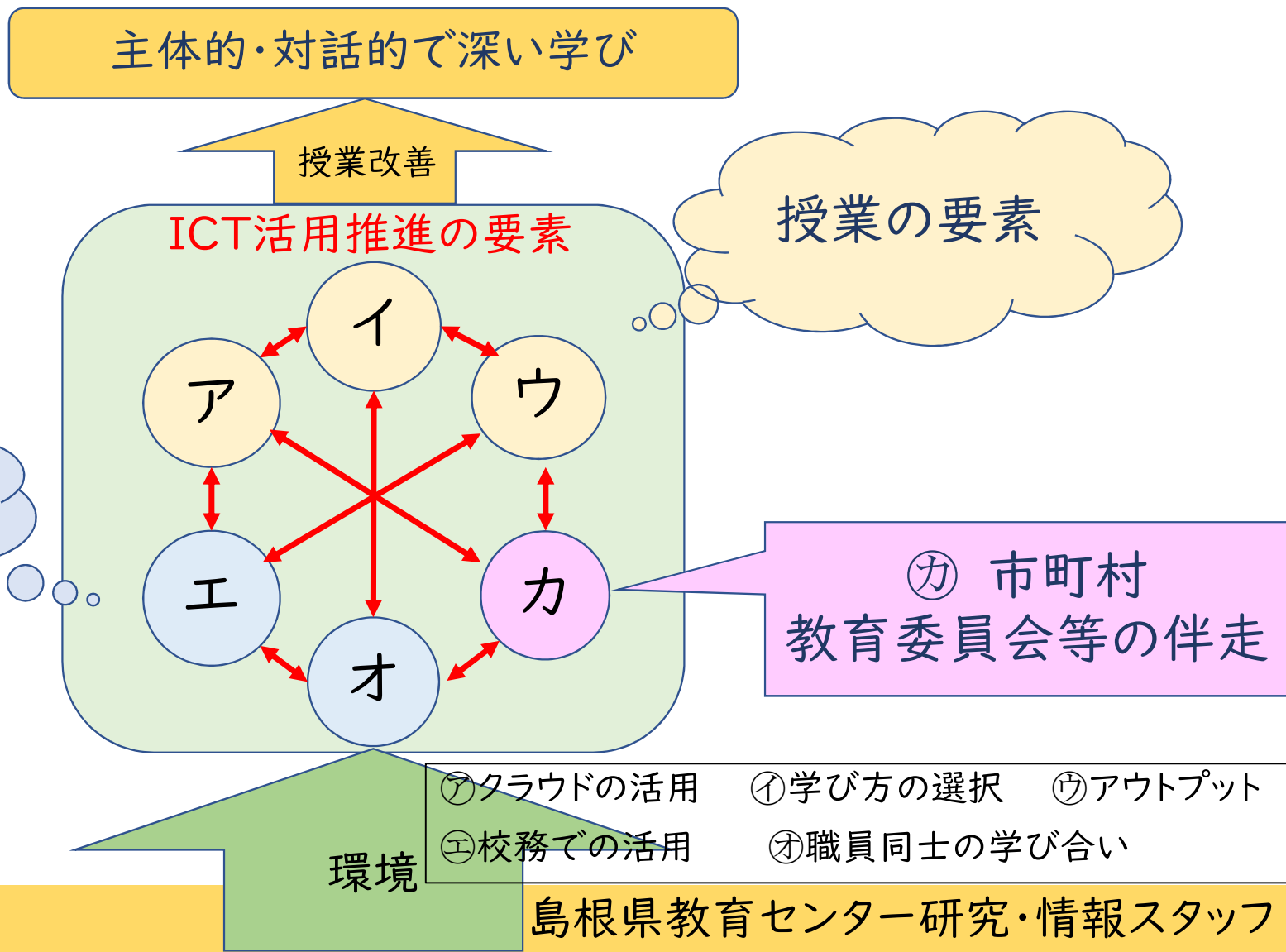
㊦クラウドの活用 ㊦学び方の選択 ㊦アウトプット
㊦校務での活用 ㊦職員同士の学び合い

島根県教育センター研究・情報スタッフ

まとめ



まとめ



研修で大事にしてきたこと

今後に向けて

一緒に作成
相互にフォロー

ワークシートは
クラウドで

相談、質問、検索
いつでもどうぞ

気づき・感想を発表

校務、授業で
やりたいことリストを共有

令和5年度

- ・出前講座・要請訪問 22講座 のべ299人の受講
- ・能力開発講座 11講座 のべ93人の受講

次年度に向けた展望

①センターもICT活用

クラウドの理解、業務でのクラウド活用、全研修でのICT活用
研修成果を広げる工夫、研修時の環境

②連携と発信の強化

市町村教育委員会等との連携
先進校の取り組み方と成果の紹介

③GIGAスクール構想第2期に向けて

端末更新を見据えた研修内容への更新
教育DX等の最新情報の収集

令和5年度 島根県教育センター 所内研究発表会

通常の学級における子どもたち
一人一人の教育的ニーズに応えるために

～ 生徒指導・教育相談と特別支援教育の視点を融合させて～

【1年次】



島根県教育センター 教育相談スタッフ
相談セクション & 特別支援教育セクション共同研究

本日の流れ



1 研究の背景

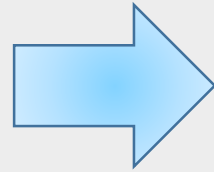
学校教育の場

学習上の困難

生活上の困難

関係づくりが困難

発達の課題



- 不登校
- いじめ加害・被害
- 不適切・不適応行動
による対人トラブル

等

ニーズ

問題行動を起こす理由、背景を理解していく方法
適切な援助方法を知りたい、習得したい

1 研究の背景

学校では、これまでも様々な取組を工夫し、実践してきた。

魅力ある学校づくり、居心地のよい学級集団づくりなど



適切に支援
組織的な対応

1 研究の背景

ソーシャル
スキル
トレーニング

I C T機器
を活用して
個別支援

外部機関と
連携

どうして
成果が出ない
んだろう？



教師



1 研究の背景

- 学習困難？
- いじめ？
- 対人トラブル？
- 不登校？
- 心理的な不安？
等



教師

特別支援教育からの
アプローチ

生徒指導からの
アプローチ

教育相談からの
アプローチ



1 研究の背景

○学習
○いじ
○対ノ
○不
○バ

解決

レ?
不安?
等



教師

特別支援教育
+
生徒指導
+
教育相談

一体化
融合させた支援



1 研究の背景

本研究での取組を通じて目指すところ

生徒指導・教育相談と特別支援教育の視点を融合させた
子どもの見方・捉え方や支援方法を明らかにする

**子どもたち一人一人の教育的ニーズに
応えるための方策を探り提案すること**

2 今年度の取組

①学校現場での
子ども理解に関する
課題等の情報収集・整理

②先行研究の調査や
先進地視察等による
情報収集・整理

③研究の方向性・
具体的な方策の
検討



2 今年度の取組

①学校現場での子ども理解に関する課題等の情報収集・整理

相談S、特別支援教育S 主管研修受講者アンケートからみた、学校の現状や課題

教職員の意識をそろえることと、そのために時間を確保することが必要
(「生徒指導主任・主事等研修」より)

どの子ども安心して学習できる学級経営や環境づくりが基本 (「教職経験6年目研修」より)

よい言葉がけを意識する、子どもの言動・考えを受容することをしていきたい
(「不登校の理解と支援講座」より)

コーディネーター一人でするのでなく、学校を巻き込んでみんなで実践することが啓発につながる
(「新任特別支援教育コーディネーター研修」より)

できることやよさを大人と一緒に伸ばしていくことが重要だと感じた
(「子ども理解と支援講座」より)

日々の授業で精一杯で、「困っている子」の背景を見ることができてなかった
(「新任教職員研修」より)

子ども理解

連携

すべての子どもを支える

2 今年度の取組

子ども理解

子どもの見方・とらえ方を
学校全体で共通認識

連携

チームとして教職員の
意識や考え方の方向性を
揃える

すべての 子どもを 支える

発達を支えるかかわりを
学校全体に浸透

3つの要素を含んでいる
取組について

先進地の視察、知見の聞き取り調査へ

- ★ポジティブ行動支援
- ★スリンプル・プログラム
- ★自立活動の視点
- ★インクルーシブ教育

2 今年度の取組

② 先行研究の調査や先進地視察等による情報収集・整理

★ 徳島県教育委員会と徳島県立総合教育センター特別支援・相談課 「ポジティブ行動支援」の取組【PBS】について

(※Positive Behavior Support 略称：「PBS」)

○徳島県教育委員会と徳島県立総合教育センター特別支援・相談課が連携し、徳島県内の全小・中学校でPBSによる学校・学級支援に取り組んでいる。

○PBSとは

児童生徒の「できないこと」ではなく、「できていること」に着目し、褒めたり認めたりすることで『望ましい行動』を増やし、結果的に『望ましくない行動』を減らしていく支援方法

【行動を捉える3つのフレーム】

行動の前

行動

行動の後

2 今年度の取組

- 教育相談的なかかわりと特別支援教育の知見を組み合わせた取組
- 教職員が一体となって取り組む
- 取組としての幅の広さ

★PBSは、教職員が一体となって行う、生徒指導やインクルーシブ教育を効果的に進める取組の一つであると考えられる。

2 今年度の取組

★島根大学 藤川 雅人 准教授

「自立活動の視点を通常の学級に活かす良さ」について

自立活動 … 特別支援学校 小・中学校特別支援学級 小・中・高等学校の
通級による指導の教育課程において特別に設けられた指導領域

個々の児童生徒の自立を目指し、
障がいによる学習上・生活上の
困難を主体的に改善・克服しよ
うとする取組を促す教育活動

指導内容は…

「人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素」

「障がいによる学習上または生活上の困難を改善・克服するために必要な要素」

(6区分27項目)

自立活動の考え方を理解することで、何らかの支援が必要な児童生徒の理解を深め、支援を行うことができる可能性がある。

6区分27項目の視点は、子どもを捉えたり、良い点を伸ばそうとしたりする考え方ができるので通常の学級においても有効である。

2 今年度の取組

- 「なぜ、そうなのか？」と疑問をもって行う児童生徒理解の姿勢は、重要である。
- 児童生徒に目を向ける際、「6区分27項目」を意識して児童生徒を捉えることは多面的な見方と支援につながる。
- 「あの子にとって、より過ごしやすい教室は？より分かりやすい授業は？」と考え続ける。



在籍児童生徒の全てが授業参加できるとともに、安心して過ごすことのできる学級に

★「子ども理解の視点」「子どもの背景を考える」際の視点として

「6区分27項目」の有効性と発達支持的生徒指導との関連が窺えた

2 今年度の取組

★雲南市教育委員会「不登校対策プロジェクト」 (スリンプル・プログラム)の取組について

○雲南市「不登校対策プロジェクト」(R4年度～)

スリム+シンプル

◎「スリンプル・プログラム」 名城大学 曾山 和彦 教授 開発
目的：『かかわりの力』を育成→いじめや不登校の改善を目指す

① 週に1回 短時間
グループアプローチ

(ソーシャルスキルトレーニング
構成的グループエンカウンター)



② 各教科等の授業場面
ペア・グループ活動

(①のかかわり活動で身につけた
スキルを活用)

2 今年度の取組

子どもたちにとって…

他者理解 自己理解

自分らしさ
自分の良さを見つける

安心

スリムでシンプル
ルールと型が決まっている

教職員にとって…

傾聴

子どもたちの思いを知る

共感的
理解

共通理解

「一枚岩」

2 今年度の取組

★ノートルダム清心女子大学 青山 新吾 准教授
「インクルーシブ教育」について

インクルーシブ教育 = 包摂性のある教育 ← 様々な要素を含んでいる

インクルーシブ教育を進めていく際・・・

- 教師は、「個として見たときの個」と「集団の中の個」を分けて見る視点をもつことが大切
- 「どうしてかな？」という姿勢と眼差しをもって子どもを見ることが大切
- その子らしさ・学びやすさを大切にした学びを実現することが重要
- 子どもが主体的に学べるための授業デザインや協働的な学びのデザインが求められる
 - ➡ 令和の日本型教育で言われる「個別最適な学び」と重なる。

2 今年度の取組

インクルーシブ教育 = 包摂性のある教育

個別最適な学び = 自分にあった学びを自分で選び、自己の学びを自分で調整しながら成長していくことが重要

生徒指導・
教育相談の
視点

チーム学校
として

個としてみたときの個
集団の中の個

特別支援
教育の視点

➡ 教育効果UP↑



2 今年度の取組

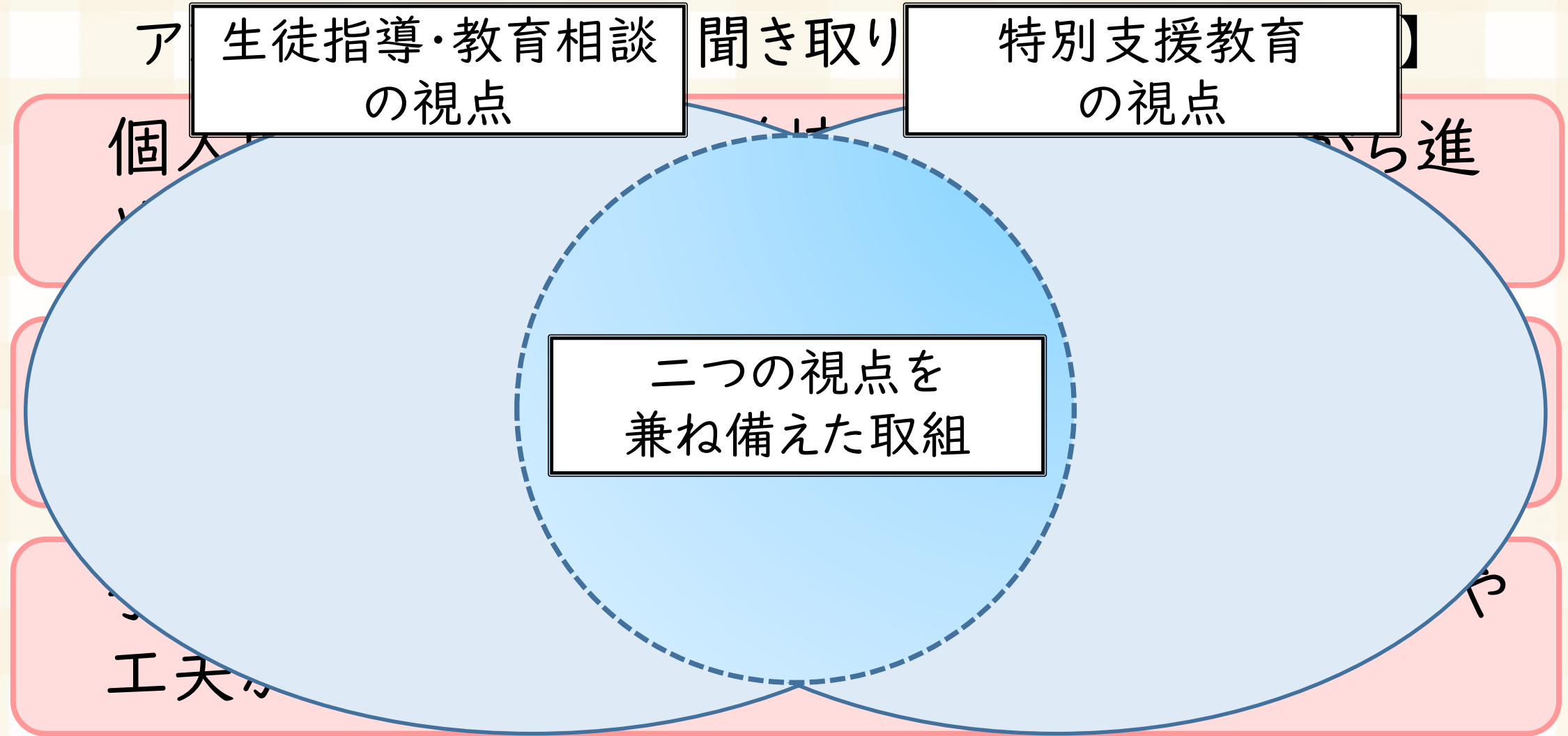
アンケート分析と先進地視察、聞き取り調査を受けて【考察】

個人的に進めるよりも学校全体で**連携**しながら進める方が**効果が高い**

教師の支えやコーディネートによって、子ども同士が互いの良さを認め合い、励まし合える取組である

子ども達が主体的に取り組むことができるしかけや工夫がなされている

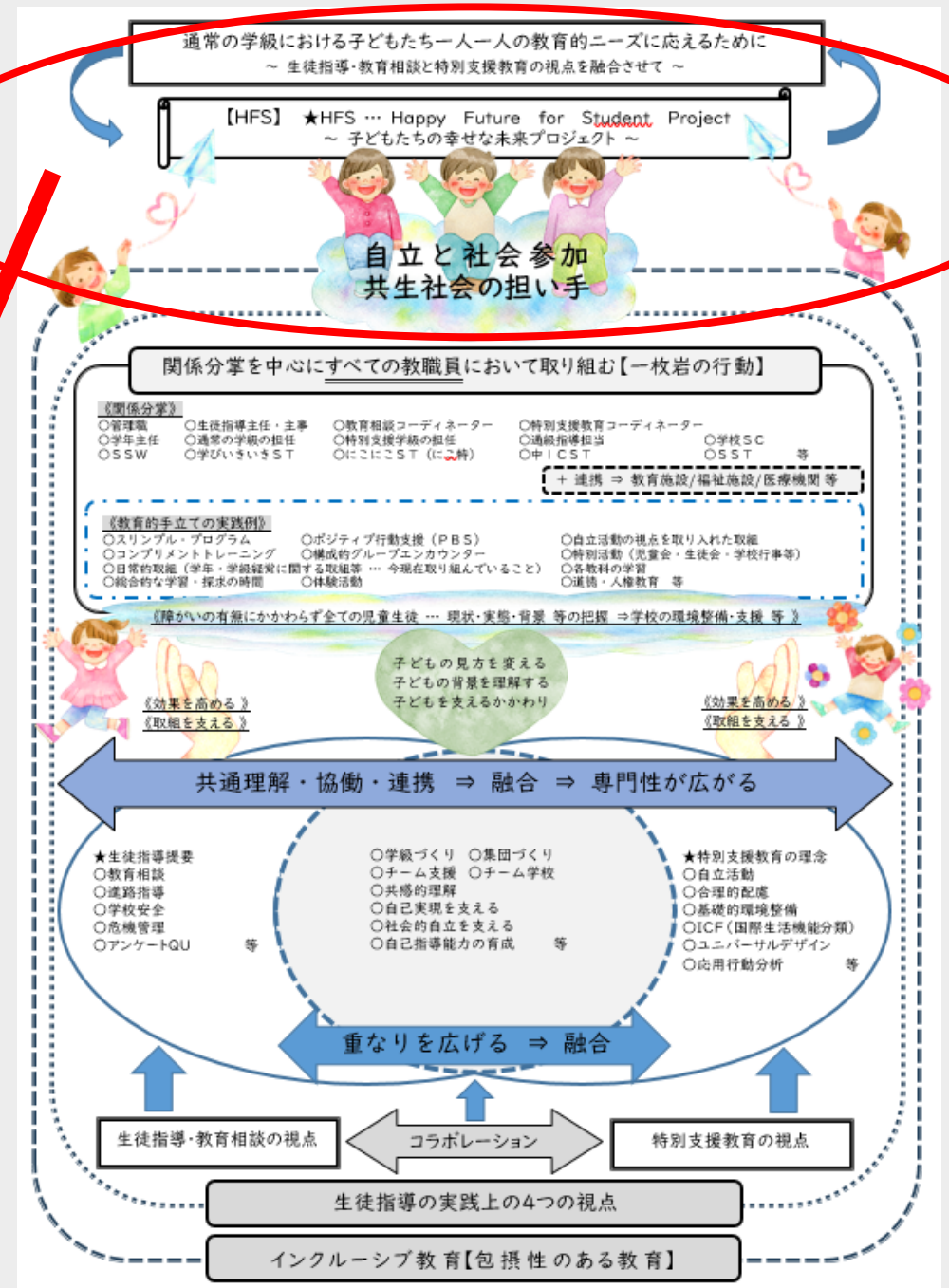
2 今年度の取組



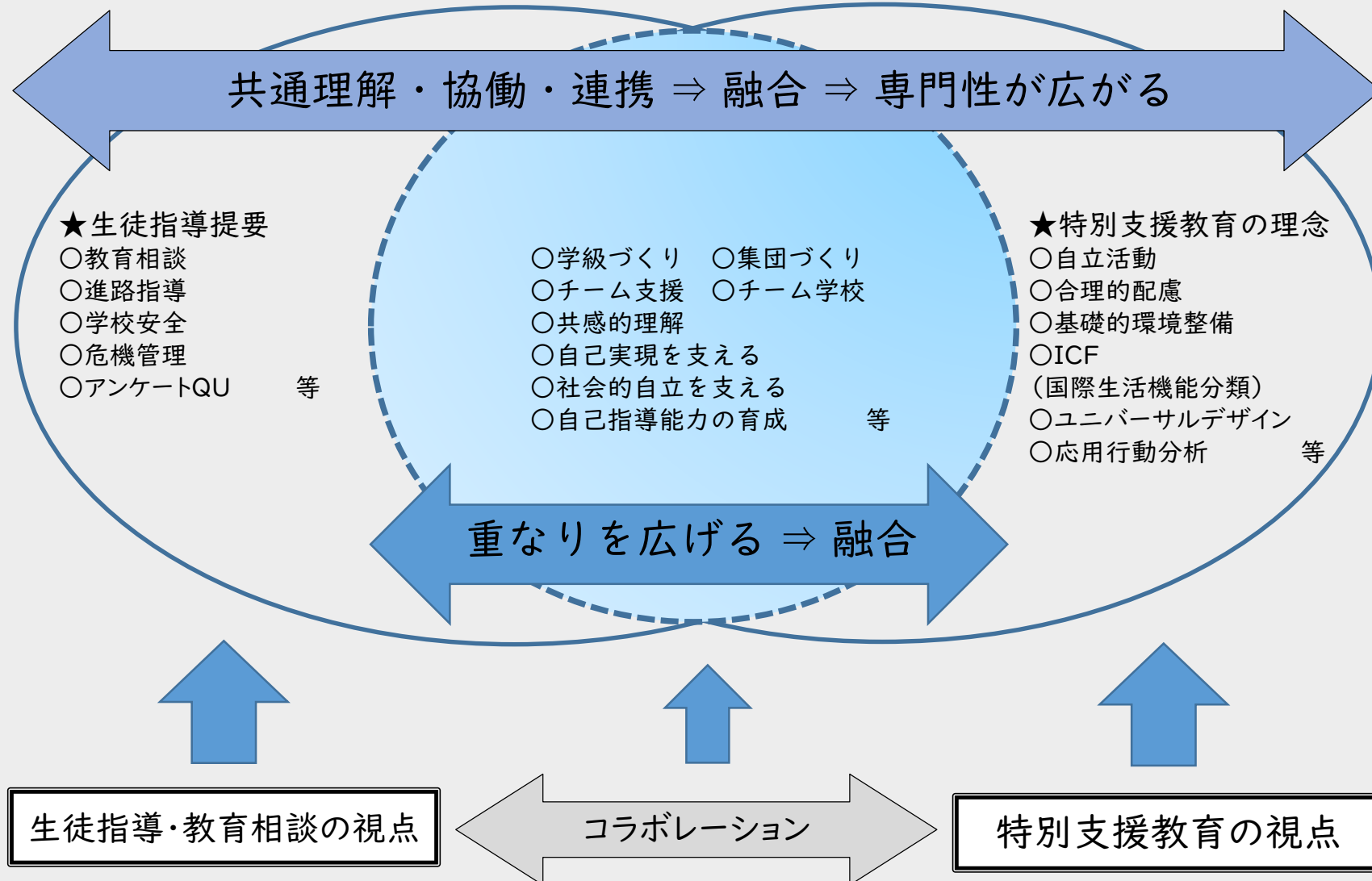
2 今年度の取組

③ 先行研究の調査や先進地視察等による情報収集・整理

★イメージ図の作成
*拡大版…別添資料参照



2 今年度の取組



2 今年度の取組

関係分掌を中心にすべての教職員において取り組む【一枚岩の行動】

《関係分掌》

- | | | | | |
|-------|------------|---------------|-----------------|--------|
| ○管理職 | ○生徒指導主任・主事 | ○教育相談コーディネーター | ○特別支援教育コーディネーター | |
| ○学年主任 | ○通常の学級の担任 | ○特別支援学級の担任 | ○通級指導担当 | ○学校SC |
| ○SSW | ○学びいきいきST | ○にこにこST（にこ特） | ○中ICST | ○SST 等 |

+ 連携 ⇒ 教育施設/福祉施設/医療機関 等

《教育的手立ての実践例》

- | | | |
|-------------------------------------|-----------------|----------------------|
| ○スリンプル・プログラム | ○ポジティブ行動支援（PBS） | ○自立活動の視点を取り入れた取組 |
| ○コンプリメントトレーニング | ○構成的グループエンカウンター | ○特別活動（児童会・生徒会・学校行事等） |
| ○日常的取組（学年・学級経営に関する取組等…今現在取り組んでいること） | | ○各教科の学習 |
| ○総合的な学習・探求の時間 | ○体験活動 | ○道徳・人権教育 等 |

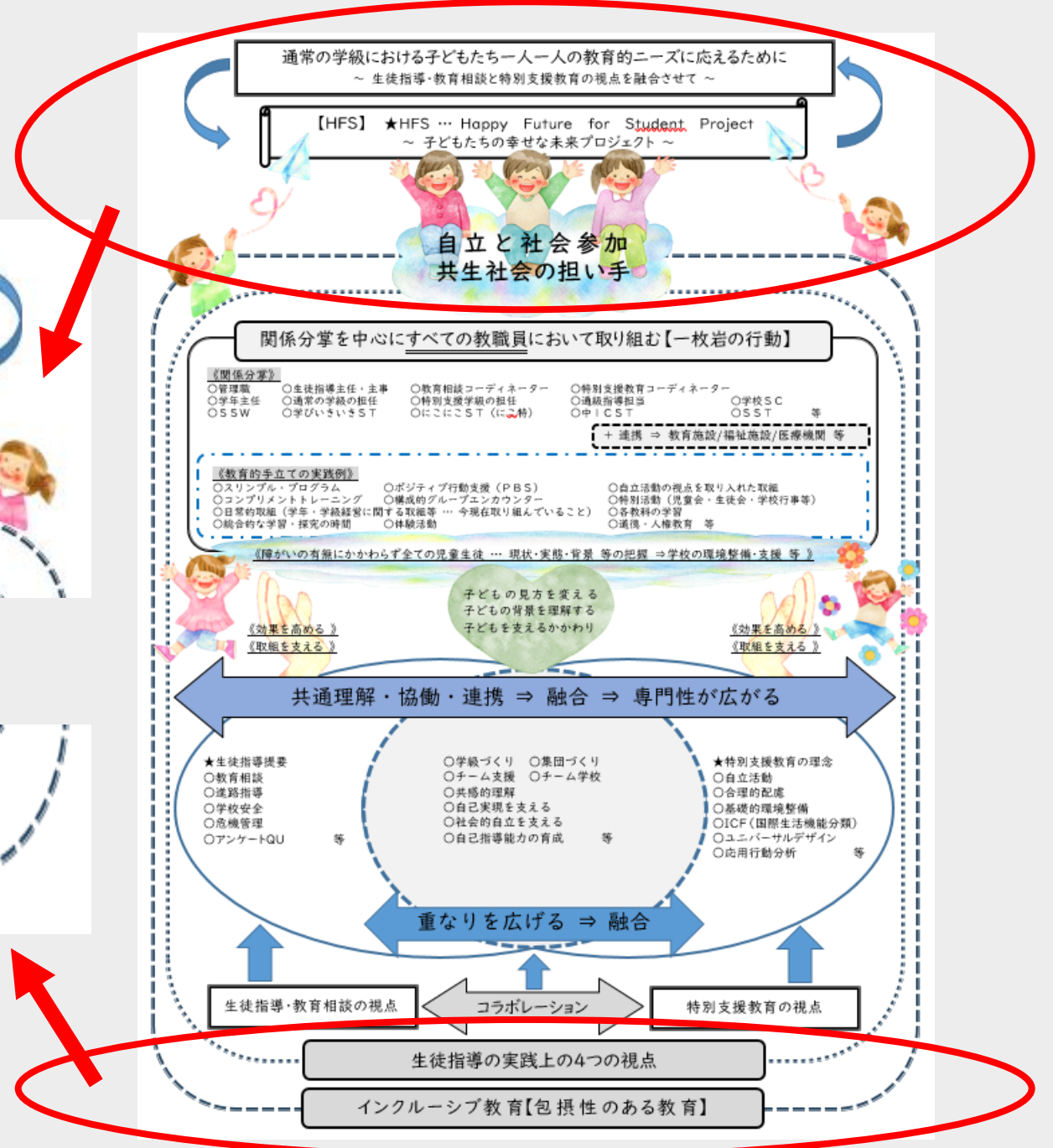
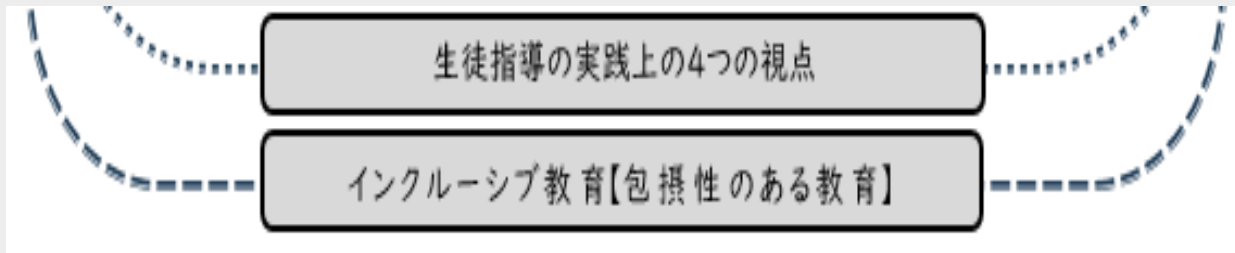
《障がいの有無にかかわらず全ての児童生徒…現状・実態・背景 等の把握 ⇒ 学校の環境整備・支援 等》

《効果を高める》
《取組を支える》

子どもの見方を変える
子どもの背景を理解する
子どもを支えるかわり

《効果を高める》
《取組を支える》

2 今年度の取組



3 成果と課題

成果

生徒指導・教育相談と特別支援教育の視点において融合できる要素の確認ができた

生徒指導・教育相談と特別支援教育の視点を融合させた取組のイメージ化

課題

取組の具体化⇒取組の有効性について検証

イメージ図の具体化と活用

【HFS】

Happy Future for Student Project

～子どもたちの幸せな未来プロジェクト～

子どもたちの幸せと

健やかな成長のために…



自立と社会参加
共生社会の担い手

島根県教育センター 教育相談スタッフ
相談セクション & 特別支援教育セクション共同研究

通常の学級における子どもたち一人一人の教育的ニーズに応えるために
～ 生徒指導・教育相談と特別支援教育の視点を融合させて～

【HFS】 ★HFS … Happy Future for Student Project
～ 子どもたちの幸せな未来プロジェクト～

自立と社会参加 共生社会の担い手

関係分掌を中心にすべての教職員において取り組む【一枚岩の行動】

《関係分掌》

- | | | | |
|-------|------------|---------------|-----------------|
| ○管理職 | ○生徒指導主任・主事 | ○教育相談コーディネーター | ○特別支援教育コーディネーター |
| ○学年主任 | ○通常の学級の担任 | ○特別支援学級の担任 | ○通級指導担当 |
| ○SSW | ○学びいきいきST | ○にこにこSST（にこ特） | ○中ICST |
| | | | ○学校SC
○SST 等 |

+ 連携 ⇒ 教育施設/福祉施設/医療機関 等

《教育的手立ての実践例》

- | | | |
|-------------------------------------|-----------------|----------------------|
| ○スリンプル・プログラム | ○ポジティブ行動支援（PBS） | ○自立活動の視点を取り入れた取組 |
| ○コンプリメントトレーニング | ○構成的グループエンカウンター | ○特別活動（児童会・生徒会・学校行事等） |
| ○日常的取組（学年・学級経営に関する取組等…今現在取り組んでいること） | ○各教科の学習 | ○道徳・人権教育 等 |
| ○総合的な学習・探究の時間 | ○体験活動 | |

《障がいの有無にかかわらず全ての児童生徒…現状・実態・背景等の把握 ⇒ 学校の環境整備・支援等》

子どもの見方を変える
子どもの背景を理解する
子どもを支えるかわり

《効果を高める》
《取組を支える》

《効果を高める》
《取組を支える》

共通理解・協働・連携 ⇒ 融合 ⇒ 専門性が広がる

★生徒指導提要

- 教育相談
- 進路指導
- 学校安全
- 危機管理
- アンケートQU 等

- 学級づくり
- チームづくり
- チーム支援
- チーム学校
- 共感的理解
- 自己実現を支える
- 社会的自立を支える
- 自己指導能力の育成 等

★特別支援教育の理念

- 自立活動
- 合理的配慮
- 基礎的環境整備
- ICF（国際生活機能分類）
- ユニバーサルデザイン
- 応用行動分析 等

重なりを広げる ⇒ 融合

生徒指導・教育相談の視点

コラボレーション

特別支援教育の視点

生徒指導の実践上の4つの視点

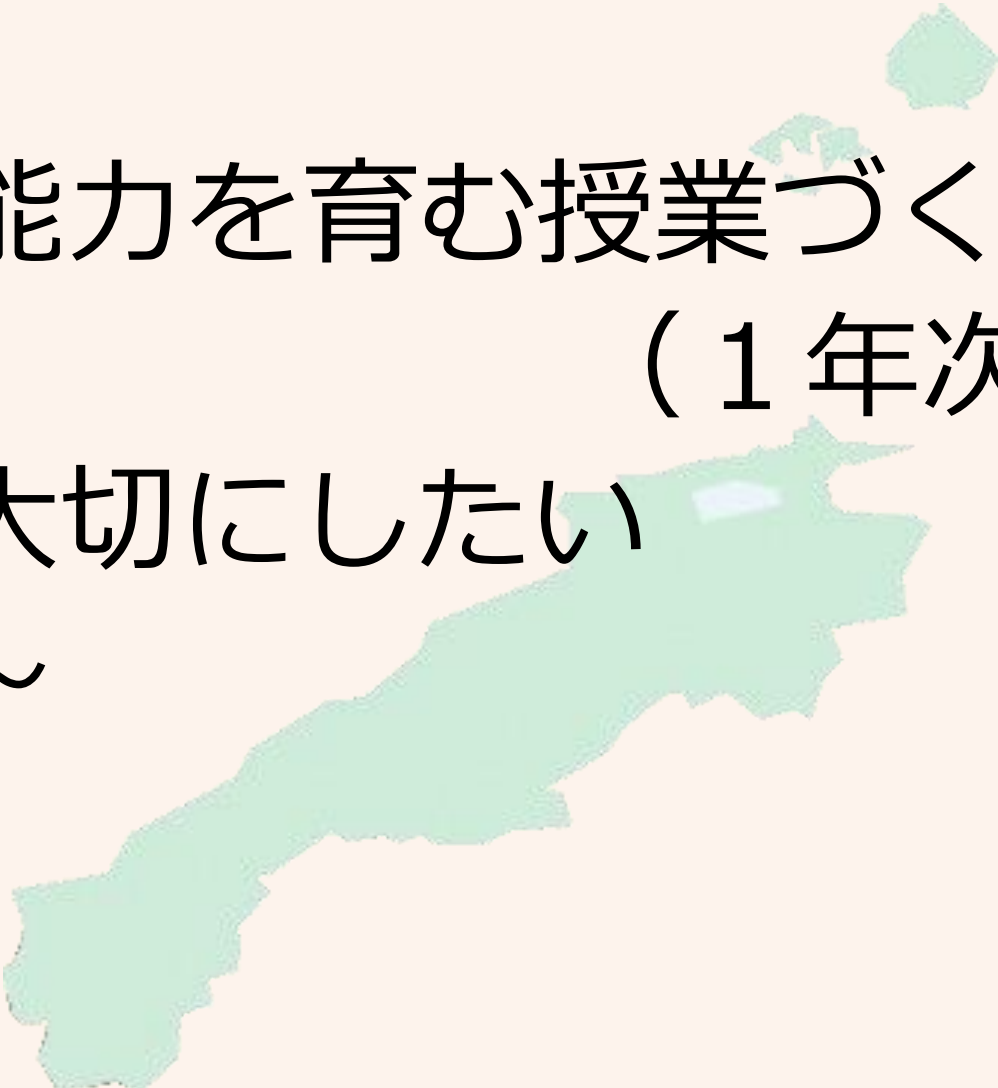
インクルーシブ教育【包摂性のある教育】

令和5年度

島根県教育センター 企画・研修スタッフ 共同研究

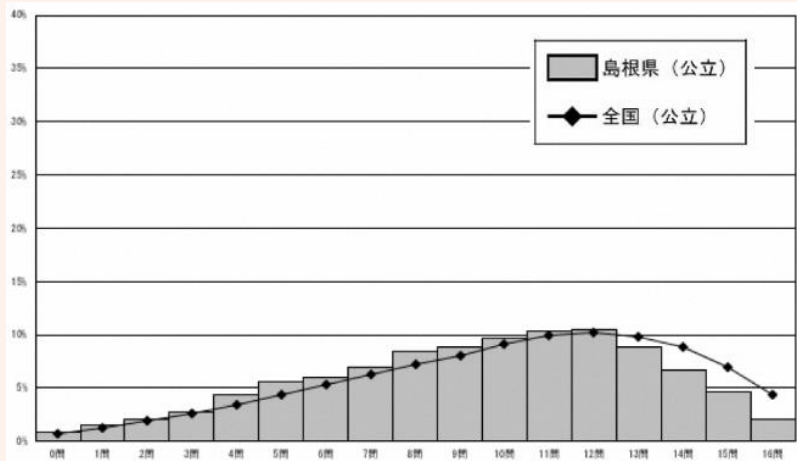
島根の子どもの資質・能力を育む授業づくり (1年次)

～授業構想において大切にしたい
ポイントの検討～

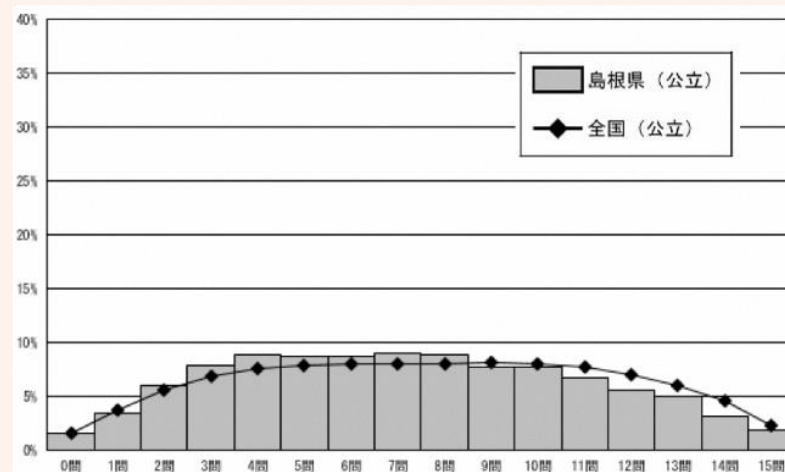


1 研究の背景

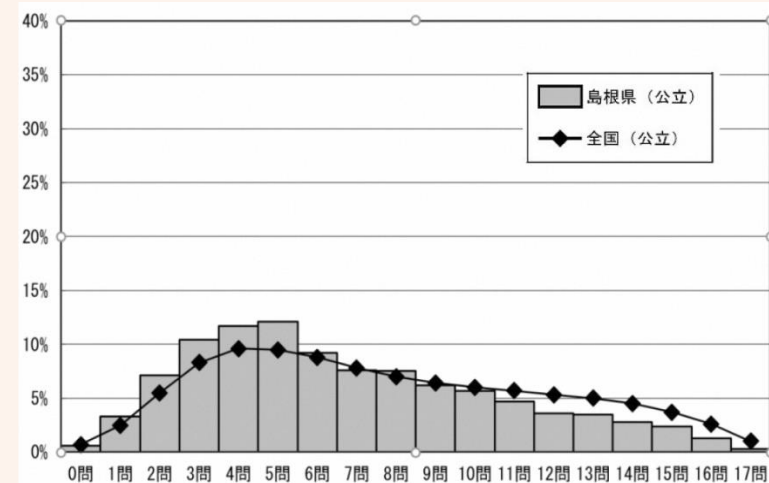
全国学力・学習状況調査の結果



小学校 (算数)



中学校 (数学)



中学校 (英語)

島根県は全国と比較して正答数の多い子どもが少なく、正答数の少ない子どもが多い

学校訪問の際の「授業に関する困りごと」の聞き取りの結果

99件のうち、23件が「子どもの学力差」に関するもの

2 研究の目的

2か年の研究の目的

一人一人の子どもの資質・能力を育成するために、指導と評価の一体化を図った授業構想の在り方を提案する

今年度（1年次）の研究の目的

「指導と評価の計画」及び「本時の展開」を構想するうえで大切にしたいポイントを見いだすとともに、指導と評価の一体化を図った授業構想の在り方を明確にする

3 研究の計画

○ 1 年次

- ① 「指導と評価の計画」 及び 「本時の展開」 の作成
- ② 大切にしたいポイントの列挙
- ③ 大切にしたいポイントの分類・整理
- ④ 指導と評価の一体化を図った授業構想の在り方の検討

4 研究の実際

(1) 「指導と評価の計画」の作成

単元の目標

単元の目標(1)(2)は学習指導要領解説を、(3)は参考資料を基に設定します。

小学校 算数

教科等	小学校 算数	担当学年	第 5 学年
単元名	比べ方を考えよう		

単元(題材)の目標

(1)知識及び技能 速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めること。

(2)思考力、判断力、推理力等 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。

(3)学びに向かう力、人間性等 異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度を身に付けること。数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を身に付けること。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方について理解している。 ②日常生活の問題(活用問題)を、単位量当たりの大きさを活用して解決している。	①異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じた、大きさの比べ方や表し方を考えている。 ②日常生活の問題(活用問題)を、単位量当たりの大きさを活用して解決している。	①異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、単位量当たりの大きさを活用して比べることのよさに気付き、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。 ②単位量当たりの大きさを活用できる場面を身の回りから見付けようとしている。

指導と評価の計画

指導と評価の計画

時	主な学習活動	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	うさぎ小屋の混み具合を比べるためには、どのような数量が必要なのかを考える。		・思①(行動観察、ノート分析)	・態①(行動観察、ノート分析)
2	・混み具合を比べるためには、面積またはうさぎの数のどちら			

	かをそろえよばいことを考える。 ・どちらかの数量の1あたり量を比べると便利に気づく。	・知①(行動観察、ノート分析)		
3	・前時の学習を基に、複数の都道府県の人口の混み具合の比べ方を考える。 ・人口密度の意味を知り、身近な(知りたい)地域の人口密度を求める。	・知③(行動観察、ノート分析)	○思①(行動観察、ノート分析)	
4	・米のとれ具合を、単位量当たりの大きさを用いて調べる。	・知③(行動観察、ノート分析)		
5	・速さを決めるために必要な量について考える。 ・走った距離、時間が異なる人の速さの比べ方を考える。 ・速さは、単位時間当たりの距離で表現することが便利であることに気づく。		・思①(行動観察、ノート分析)	・態①(行動観察、ノート分析)
6	・「時速」「分速」「秒速」の意味を知り、公式を用いて速さを求める。	・知③(行動観察、ノート分析)		
7	・速さと時間から道のりの求め方を考え、公式を用いて道のりを求めることができる。	・知③(行動観察、ノート分析)		
8	・速さと時間から道のりの求めた考え方を基に、速さと道のりから時間の求め方を考え、説明する。 ・速さ、道のり、時間の関係について、それぞれの求め方を統合的に捉える。		・思①(行動観察、ノート分析)	
9	・身の回りにある単位量当たりの考えを使っている場面を探す。 ・見つけた場面から問題を作ったり、その問題を解いたりする。	○知①②③(ノート分析)	○思②(ノート分析)	
10	・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける	○知①②③(ペーパーテスト)	○思②(ペーパーテスト)	○態②(行動観察、ノート分析)

構想する上で大切にしたいポイント

これまでは、長さや重さなど、その大きさを一つの量(mやg等)で表し、比較をしていますが。そのため、速さのように一つの量を二つの量の割合で表すことに考えが及ばない児童が多いと思われます。ここでは、速さなどの量を表すためには、二つ量が必要であることや、どちらかを基準にしてその割合で表すことが便利であることを児童自らが見つけ出していく工夫が必要です。

この単元において、「伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見だして、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力」を身に付けるためには、前時や前小単元の学習で身に付けた見方・考え方を活用しながら問題解決を図る学習活動が大切です。

単元における資質・能力は、学習が進みに従って身につけていくものです。従って、記録に残す評価は、単元(小単元)の終末に行います。

作成した「指導と評価の計画」小学校(算数)

4 研究の実際

(2) 「本時の展開」の作成

本時の目標
(ねらい)

展開

小学校 算数

本時(第5時)のねらい
割合を求めたときの考え方を活用し、速さは時間と道のりの二量の割合で表すことができることを見いだして、異なる速さを比較することができる。
(思考・判断・表現)

で育成する資質・能力をもとに設定します。

「〇〇は速い」という日常生活の事象の中から、数学的に表現した問題として「速さ」を学習活動に取り上げています。

めあては、できるだけ児童の問いを基に焦点化し、その問題に対して児童が見通しをもち、既習事項を生かしながら、解決に向かっているもの

ICT 機器その他児童が問題解決に有効な環境を整え、個別最適な学びができるようにします。

児童の実態や問題解決の仕方に応じて、個人、ペア、グループなど、最も有効と思われる学習形態を適宜取り入れます。

解決の方法はどれがよいかではなく、それぞれの解決方法のよさを共有します。

学習場面	学習活動	支援(+)と評価(△)評価方法
導入	<ul style="list-style-type: none"> 「電車」「自転車」「自動車」どれが一番速い? 「電車は速い!」 「自転車かな?」 「自動車は一番速いはず。」 「自転車は一番速いはず。」 〇速さを比べると、どんなときに速いというのかな? 早くゴールに着く。(時間が短い) 速くまで行ける。(距離が長い) 速く抜く。 	<ul style="list-style-type: none"> 〇〇が速いという理由を聞き、速さに関する児童の感覚をつかむ。 三つの乗り物が併走して走っている(自転車が一番速い)画面を見せることで、速さは乗り物で決まるのではないことを確認する。 △速さを表すためには、時間と距離の二つの量が必要であることに気づいている。(観察) 二つの量の割合で表す場合について、混み具合の学習を想起させ、見通しをもたせる。
展開	<p>「時間」と「距離」の二つの量を用いて、速さを比べる方法を考えよう。</p> <p>①自転車は5秒で50m進んだ。 ②電車は10秒で50m進んだ。 ③自動車は8秒で50m進んだ。 ④自転車は3秒で30m進んだ。 ⑤自動車は6秒で30m進んだ。 ⑥4秒で、自転車は40m、電車は20m、自動車は25m進んだ。</p> <p>〇それぞれ違う記録をどのようにして比べたらよいのだろうか? ①~③、④⑤は、それぞれ距離が同じなので、時間で比べられる。 ⑥は時間が同じなので、距離で比べてられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自転車、電車、自動車が進む動画面を端末で自由に見ることができるようになる。 個人又はグループで、それぞれの乗り物の速さ(時間と距離)を測定させる。 必要なデータを表計算ソフトに記録させる。 時間、距離のいずれか一方をそろえて速さを比べることのよさ(それぞれの考えのよさ)を共有させる。

展開

〇③自動車④自転車⑥電車のデータで比べることができるかな?
・時間も距離も違うから比べられない。
・時間が距離と同じだったら比べられるのに...
・どちらかをそろえる方法はないかな?
・人口密度を求めたときの考え方が使えそう。
・1秒当たりの進んだ距離で比べられるのでは。
・1m当たりの時間でも比べられるよ。

時間と速さがバラバラの場合についても速さを比べたいという願いが児童から出ないときには、教師から「時間と速さがバラバラのときは速さを比べることができないんだ。」と投げかける。
・「時間か距離が同じだったら比べられるのに...」という児童の問いを全体の問題として取りあげ、問題解決を図る。
・混み具合、人口密度の学習が活かされるよう、既習学習の足跡を教室掲示したり、ノートを見返させたりする。
△混み具合の学習を想起し、速さも時間と距離の割合で表すことができることを考えいる。
(観察、ノート)

終末

〇速さはどのように表したらいいのかな?
・速さを比べるためには、時間か距離のどちらか一方をそろえることよ。
・1秒当たりの距離または1m進むのにかかる時間で表すことができる。
〇これまで学習したことをどのように生かすと速さを表すことができたのかな?
・人口密度や混み具合を表したときと同じで、速さは時間と距離の割合で表すことができる。

基準とする量が時間、距離いずれでも速さを表すことができることを確認した後、「速いほど数が大きくなる」のは、どちらかを考えさせる。
長いほど、重いほど、傘が多いほど、その量を表す数は大きくなるように、速いほど数値が大きくなる表し方が日常生活で都合がよくなるように気づかせる。
・本時の学習について振り返る。
△既習事項を活かし、速さも二つの量の割合で表すことを統合的・発展的に捉えている。
(ノート)

問題解決の途中で生まれた新たな問いを追求したり、ねらいに迫るための教師からの問いかけを行ったりすることで、児童の学びを深めます。

「〇〇だったら解決できるのに...」という児童の考えを取り上げ、そのようにするにはどうすればよいかを問題として、解決を図っていきます。

問題解決においては、根拠を基に筋道を立てて考えることが大切です。そのためには、日頃から、既習事項を振り返り生かすことで、根拠になるもの(これまで身に付けてきた資質・能力など)を明確にし、筋道を立てて考えたり説明したりする態度を育てます。

本時の学習で解決したことを、本時の学習で使われた言葉を使ってまとめていきます。
1時間で解決できなかった場合は、次への課題としてまとめておくことで、次時の導入場面を省略することができま

振り返りでは、解決の方法や答えはこれでよかったのか吟味したり、本時の学習を既習事項と関連づけて統合したり、新たな課題へと発展させたり、日常生活に活用させたりします。

構想する上で大切にしたいポイント

評価基準と支援

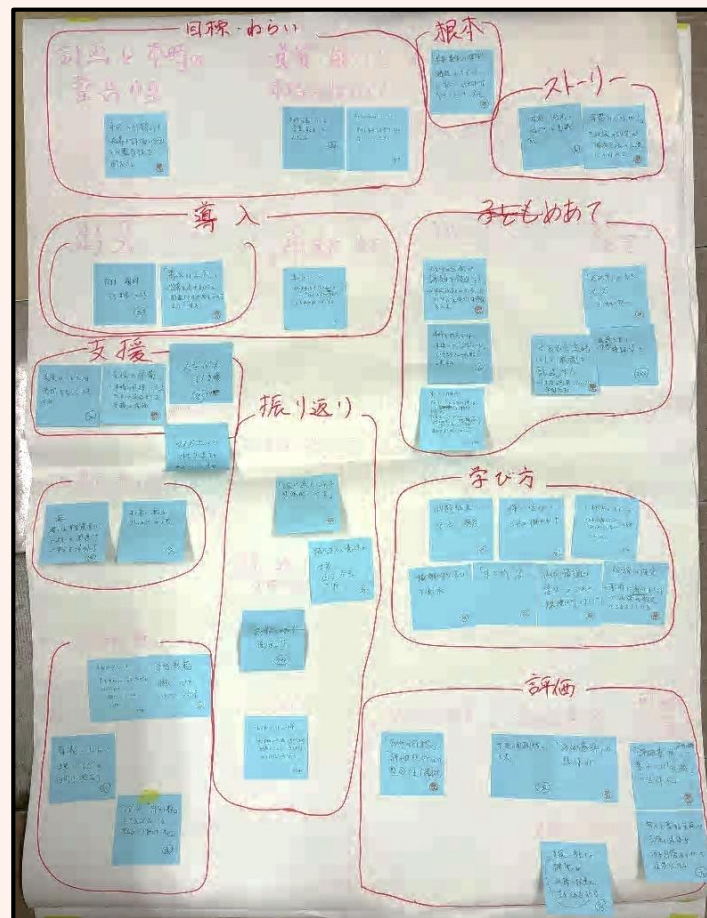
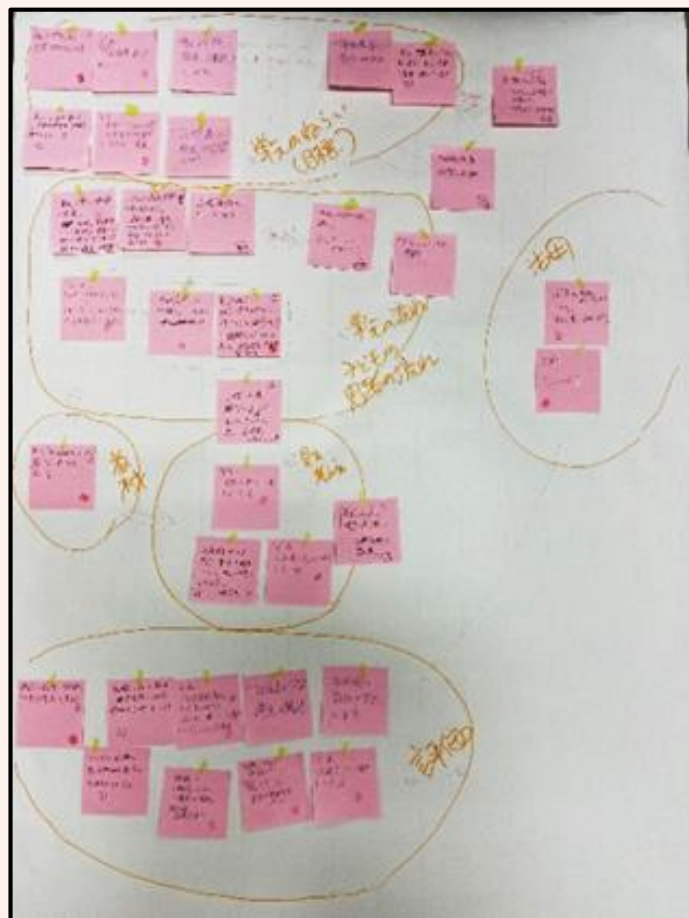
十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する状況
混み具合や人口密度の学習と関連付けながら、速さは時間と距離の二つの量の割合で表すことができることを筋道立てて説明することができる。	混み具合や人口密度の学習と関連付けながら、速さは時間と距離の二つの量の割合で表すことを考えていることと単位量当たりの大きさを求めることとを理解させる。	時間と距離のどちらかをそろえることと単位量当たりの大きさを求めることとは似ていることを理解させる。

評価基準

作成した「本時の展開」小学校(算数)

4 研究の実際

(3) 「指導と評価の計画」及び「本時の展開」を構想する
うえで大切にしたいポイントの分類



ポイントを整理した模造紙

4 研究の実際

(4) 「指導と評価の計画」において大切にしたいポイントを
類別した5つのカテゴリー

ア 単元の目標（ねらい）

イ 単元の流れ・子どもの思考

ウ 各教科等の見方・考え方

エ 学習評価

オ 活用場面

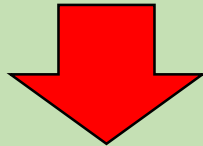
4 研究の実際

ア 単元の目標（ねらい）

単元の目標(1)(2)は学習指導要領解説を、(3)は参考資料を
基に設定します。



子どもの実態（資質・能力の状況）を把握



設定した目標（ねらい）の共有



4 研究の実際

イ 単元の流れ・子どもの思考

これまでは、長さや重さなど、その大きさを一つの量（mやg等）で表し、比較をしてきています。そのため、速さのように一つの量を二つの量の割合で表すことに考えが及ばない児童が多いと思われます。

ここでは、速さなどの量を表すためには、二つの量が必要であることや、どちらかを基準にしてその割合で表すことが便利であることを児童自らが見つけ出していく工夫が必要です。

- ・ 単元目標から単元を設計する
- ・ 単元を貫く課題や問いを設定する
- ・ 単元を通した子どもの思考の流れを考える



4 研究の実際

ウ 各教科等の見方・考え方

ここでの数学的な見方・考え方は、「伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力」です。

- ・ 各教科における見方・考え方を明確にして、単元の学習に取り入れるようにする
- ・ 比較・分類・概念化等を通して、子どもの気づきを促し、次の学習につなげるようにする



4 研究の実際

Ⅰ 学習評価

指導に生かす評価を行う代表的な機会については「・」を、その中で特に学級全員の児童の学習状況について、総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会には「○」を付けています。

- ・ 確認、指導、記録に残す計画を考える
- ・ 記録に残す評価は、子どもの変容が見取れるように学習指導の後に設定する
- ・ 記録に残す評価と授業改善につなげる評価を明確にする
- ・ どのように記録に残す評価を見取るのかを具体的に

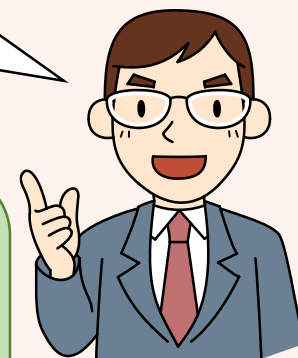


4 研究の実際

才 活用場面

この単元において、「伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力」を身に付けるためには、前時や前小単元の学習で身に付けた見方・考え方を活用しながら問題解決を図る学習活動が大切です。

- ・ 身に付けた資質・能力を活用できる学習活動を設定する
- ・ 生きて働く知識及び技能を育むために、活用につながるようにする



4 研究の実際

(5) 「本時の展開」において大切にしたいポイントを
類別した4つのカテゴリー

ア 授業構想全体

イ 導入場面

ウ 展開場面

エ 終末場面

4 研究の実際

ア 授業構想全体

- ・ 育成する資質・能力を基にねらいを設定する
- ・ 本時のゴールの子どもの姿を想定する
- ・ 校種間・学年間の関連を意識する
- ・ それまでの子どもの学びを意識する

本時のねらいは、その単元で育成する資質・能力を基に設定します。

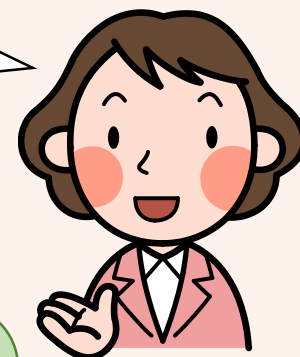


4 研究の実際

イ 導入場面

「〇〇は速い」という日常生活の事象の中から、数学的に表現した問題として「速さ」を学習活動に取り上げています。

- ・ 興味関心をもたせ、自分事として捉えられるようにする
- ・ 見通しを持てるようにする
- ・ 必然性があり意欲が高まる学習課題を設定する



4 研究の実際

ウ 展開場面

児童の実態や問題解決の仕方に応じて、個人、ペア、グループなど、最も有効と思われる学習形態を適宜取り入れます。

- ・ 個の追究する時間をもつこと
一人一人が自分で挑戦し、自分なりの考えをもてるようにする
- ・ 集団追究の時間をもつこと
他者の考えと自分の考えを比べ、より妥当な考えをつくったり、多面的・多角的に考えたりできるようにする



4 研究の実際

Ⅰ 終末場面

本時の学習で解決したことを、本時の学習で使われた言葉を使ってまとめていきます。



○まとめ

- ・ 本時の学習で使われた言葉を使ってまとめる
- ・ 「見方・考え方」を働かせた考えを、積極的に価値付ける

○振り返り

- ・ 新しい気付きのために、振り返りの視点を示す

○評価・支援

- ・ 子どもの状況を的確に見取り、それぞれの状況に応じた支援を行う。
「C」ならば「B」に、「B」ならば「A」になるよう具体的な支援を事前に考えておく

5 考察

(1) 「指導と評価の計画」において大切にしたいポイントから見いだした重点

ア 身に付けさせたい資質・能力を明確にする

イ 資質・能力を発揮しながら学習できる場面を設定する

5 考察

(2) 「本時の展開」において大切にしたいポイントから見いだした重点

ア 「本時の目標（ねらい）」と「指導と評価の計画」の整合性を図る

イ 指導と評価の一体化を図るための具体的な手立てを構想する

ウ 指導と評価の一体化を図るための具体的な支援を準備する

6 まとめ

(1) 1年次の成果

- ・「指導と評価の計画」及び「本時の展開」を実際に作成し、大切にしたいポイントを検討することで、それぞれの重点を見いだすことができた。
- ・見いだした重点の多くは、「子どもの具体的な姿」をイメージすることに関連するものであった。
- ・授業構想では、学習活動における「子どもの具体的な姿」をイメージし、子どもの資質・能力を育むための具体的な「手立て」や「支援」を明確にしておくことの重要性が見えてきた。

6 まとめ

(2) 2年次の研究について

【研究の仮説】

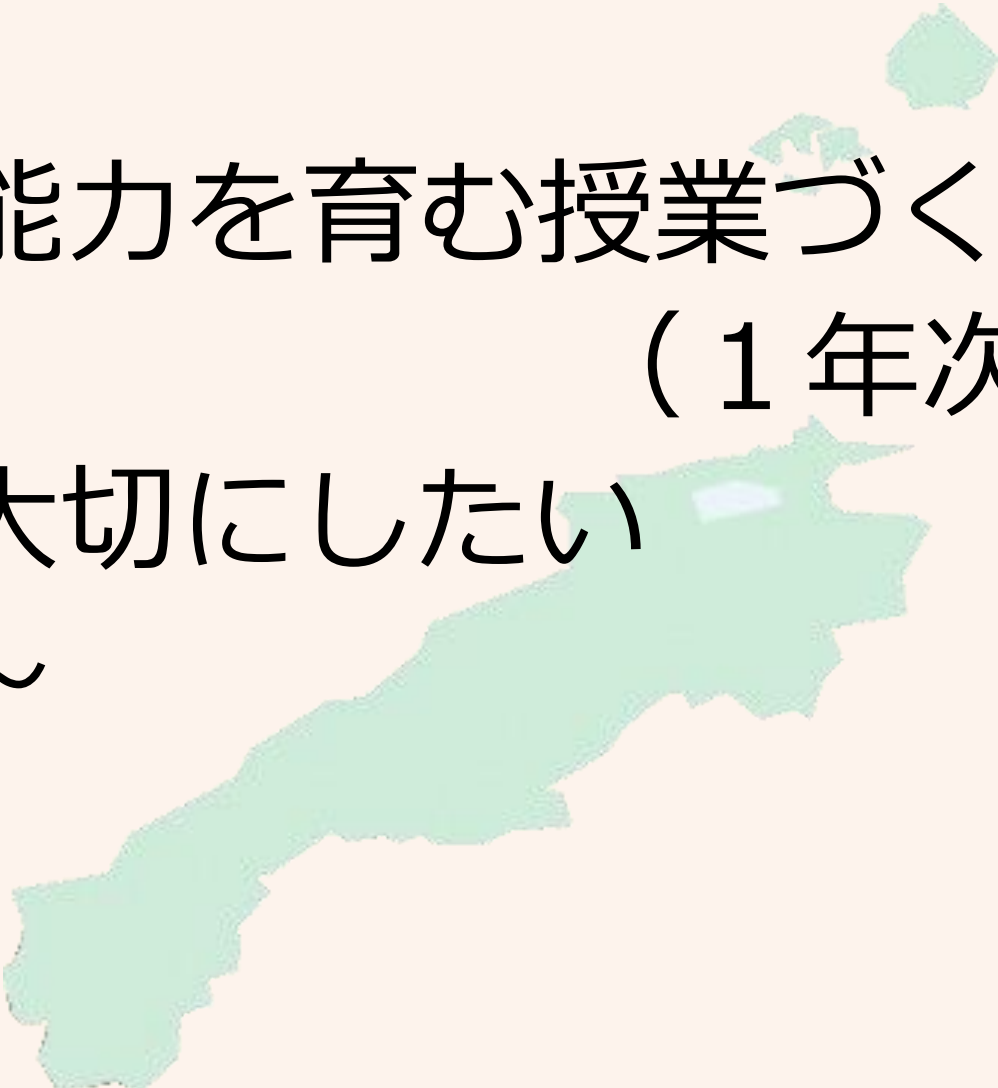
大切にしたいポイントを踏まえて「指導と評価の計画」及び「本時の展開」を構想することで、指導と評価の一体化を図るための手立てと支援が明確になり、子どもに身に付けさせたい資質・能力を育成することができるであろう。

令和5年度

島根県教育センター 企画・研修スタッフ 共同研究

島根の子どもの資質・能力を育む授業づくり (1年次)

～授業構想において大切にしたい
ポイントの検討～



指導と評価の計画 及び 本時の展開（案）

令和5年度 島根県教育センター 企画・研修スタッフ

目次

【小学校】

- 算数
 - ・指導と評価の計画
 - ・本時の展開
- 社会
 - ・指導と評価の計画
 - ・本時の展開
- 理科
 - ・指導と評価の計画
 - ・本時の展開

【中学校】

- 社会
 - ・指導と評価の計画
 - ・本時の展開
- 数学
 - ・指導と評価の計画
 - ・本時の展開
- 理科
 - ・指導と評価の計画
 - ・本時の展開
- 英語
 - ・指導と評価の計画
 - ・本時の展開

【高等学校】

- 地歴公民
 - ・指導と評価の計画
 - ・本時の展開
- 理科（生物基礎）
 - ・指導と評価の計画
 - ・本時の展開
- 共通家庭
 - ・指導と評価の計画
 - ・本時の展開

小学校 算数

単元の目標(1)(2)は学習指導要領解説を、(3)は参考資料を基に設定します。



「C変化と関係」領域は、次の三つの内容で構成されています。

- ① 伴って変わる二つの数量の変化や対応の特徴を観察すること。
- ② ある二つの数量の関係と別の二つの数量の関係を比べること。
- ③ 二つの数量の関係を日常生活に生かすこと。

また、ここでの数学的な見方・考え方は、「伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力」です。

この単元の評価規準は参考資料P144(2)「異種の二つの量の割合」の四角囲みを参考に、学校の教育課程や児童の実態に応じて設定します。



指導に生かす評価を行う代表的な機会については「・」を、その中で特に学級全員の児童の学習状況について、総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会には「○」を付けています。

教科等	小学校 算数	担当学年	第 5 学年
単元名	比べ方を考えよう		

単元(題材)の目標

(1) 知識及び技能	速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求めること。
(2) 思考力、判断力、表現力等	異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすこと。
(3) 学びに向かう力、人間性等	異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度を身に付けること。 数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を身に付けること。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方について理解している。	① 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じた、大きさの比べ方や表し方を考えている。	① 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、単位量当たりの大きさを用いて比べることのよさに気付き、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。
② 単位量当たりの大きさについて理解している。	② 日常生活の問題(活用問題)を、単位量当たりの大きさを活用して解決している。	② 単位量当たりの大きさを活用できる場面を身の回りから見付けようとしている。
③ 異種の二つの量の割合で捉えられる速さや人口密度などを比べたり表したりすることができる。		

指導と評価の計画

時	主な学習活動	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・うさぎ小屋の混み具合を比べるためには、どのような数量が必要なのかを考える。 ・混み具合を比べるためには、面積またはうさぎの数のどちら 		・思①(行動観察、ノート分析)	・態①(行動観察、ノート分析)

	<ul style="list-style-type: none"> かをそろえばよいことを考える。 ・どちらかの数量の1あたり量を比べると便利なことに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知①(行動観察、ノート分析) 		
3	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を基に、複数の都道府県の人口の混み具合の比べ方を考える。 ・人口密度の意味を知り、身近な(知りたい)地域の人口密度を求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知③(行動観察、ノート分析) 	<ul style="list-style-type: none"> ○思①(行動観察、ノート分析) 	
4	<ul style="list-style-type: none"> ・米のとれ具合を、単位量当たりの大きさを用いて調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知③(行動観察、ノート分析) 		
5	<ul style="list-style-type: none"> ・速さを決めるために必要な量について考える。 ・走った距離、時間が異なる人の速さの比べ方を考える。 ・速さは、単位時間当たりの距離で表現することが便利であることに気付く。 		<ul style="list-style-type: none"> ・思①(行動観察、ノート分析) 	<ul style="list-style-type: none"> ・態①(行動観察、ノート分析)
6	<ul style="list-style-type: none"> ・「時速」「分速」「秒速」の意味を知り、公式を用いて速さを求める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知③(行動観察、ノート分析) 		
7	<ul style="list-style-type: none"> ・速さと時間から道のりの求め方を考え、公式を用いて道のりを求めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知③(行動観察、ノート分析) 		
8	<ul style="list-style-type: none"> ・速さと時間から道のりの求めた考え方を基に、速さと道のりから時間の求め方を考え、説明する。 ・速さ、道のり、時間の関係について、それぞれの求め方を統合的に捉える。 		<ul style="list-style-type: none"> ・思①(行動観察、ノート分析) 	
9	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りにある単位量当たりの考えを使っている場面を探す。 ・見つけた場面から問題を作ったり、その問題を解いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○知①②③(ノート分析) 	<ul style="list-style-type: none"> ○思②(ノート分析) 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の定着を確認するとともに、数学的な見方・考え方を振り返り価値づける 	<ul style="list-style-type: none"> ○知①②③(ペーパーテスト) 	<ul style="list-style-type: none"> ○思②(ペーパーテスト) 	<ul style="list-style-type: none"> ○態②(行動観察、ノート分析)

これまでは、長さや重さなど、その大きさを一つの量(mやg等)で表し、比較をしてきています。そのため、速さのように一つの量を二つの量の割合で表すことに考えが及ばない児童が多いと思われます。ここでは、速さなどの量を表すためには、二つの量が必要であることや、どちらかを基準にしてその割合で表すことが便利であることを児童自らが見つけ出していく工夫が必要です。



この単元において、「伴って変わる二つの数量やそれらの関係に着目し、変化や対応の特徴を見いだして、二つの数量の関係を表や式を用いて考察する力」を身に付けるためには、前時や前小単元の学習で身に付けた見方・考え方を活用しながら問題解決を図る学習活動が大切です。

単元における資質・能力は、学習が進みに従って身に付いていくものです。従って、記録に残す評価は、単元(小単元)の終末に行います。



小学校 算数

本時（第5時）のねらい

混み具合を求めたときの考え方を活用し、速さは時間と道のりの二量の割合で表すことを見いだして、異なる速さを比較することができる。

(思考・判断・表現)

本時のねらいは、その単元で育成する資質・能力を基に設定します。



「〇〇は速い」という日常生活の事象の中から、数学的に表現した問題として「速さ」を学習活動に取り上げています。

めあては、できるだけ児童の問いを基に焦点化し、その問題に対して児童が見通しをもち、既習事項を生かしながら、解決に向かっていけるものにします。



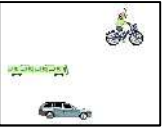
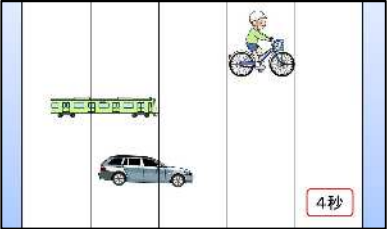
ICT 機器その他児童が問題解決に有効な環境を整え、個別最適な学びができるようにします。

児童の実態や問題解決の仕方に応じて、個人、ペア、グループなど、最も有効と思われる学習形態を適宜取り入れます。



解決の方法はどれがよいかではなく、それぞれの解決方法のよさを共有します。

本時の学習

学習場面	学習活動	支援(・)と評価(◇評価方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○「電車」「自動車」「自転車」どれが一番速い？ ・電車が速い！ ・自動車かな？ ・自転車が一番遅いはず。 ○速さを比べるとき、どんなときに速いというのかな？ ・早くゴールに着く。(時間が短い) ・遠くまで行ける。(距離が長い) ・追い抜く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇が速いという理由を聞き、速さに関する児童の感覚をつかむ。 ・三つの乗り物が併走して走っている(自転車が一番速い)画面を見せることで、速さは乗り物で決まるのではないことを確認する。 ◇速さを表すためには、時間と距離の二つの量が必要であることに気付いている。(観察) ・二つの量の割合で表す場合について、混み具合の学習を想起させ、見通しをもてるようにする。 
展開	<p>「時間」と「距離」の2つの量を用いて、速さを比べる方法を考えよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①自転車は5秒で50m進んだ。 ②電車は10秒で50m進んだ。 ③自動車は8秒で50m進んだ。 ④自転車は3秒で30m進んだ。 ⑤自動車は6秒で30m進んだ。 ⑥4秒で、自転車は40m、電車は20m、自動車は25m進んだ。 <ul style="list-style-type: none"> ○それぞれ違う記録をどのようにして比べたらよいのだろうか？ ・①～③、④⑤は、それぞれ距離が同じなので、時間で比べられる。 ・⑥は時間が同じなので、距離で比べてられる。 	 <ul style="list-style-type: none"> ・自転車、電車、自動車が走る動画を端末で自由に見ることができるようにする。 ・個人又はグループで、それぞれの乗り物の速さ(時間と距離)を測定できるようにする。 ・必要なデータを表計算ソフトに記録するよう指示する。 ・時間、距離のいずれか一方をそろえて速さを比べることのよさ(それぞれの考えのよさ)を共有できるようにする。

展 開	<p>○③自動車④自転車⑥電車のデータで比べることはできるかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間も距離も違うから比べられない。 ・時間か距離が同じだったら比べられるのに…。 ・どちらかをそろえる方法はないかな？ ・人口密度を求めたときの考え方が使えそう。 ・1秒当たりの進んだ距離で比べられるのでは。 ・1m当たりの時間でも比べられるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間と速さがバラバラの場合についても速さを比べたいという願いが児童から出ないときには、教師から「時間と速さがバラバラのときは速さを比べることができないんだ。」と投げかける。 ・「時間か距離が同じだったら比べられるのに…」という児童の問いを全体の問題として取りあげ、問題解決を図る。 ・混み具合、人口密度の学習が生かされるよう、既習学習の足跡を教室掲示したり、ノートを見返したりできるようにする。 <p>◇混み具合の学習を想起し、速さも時間と距離の割合で表すことができることを考えている。 (観察、ノート)</p>
終 末	<p>○速さはどのように表したらいいのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速さを比べるためには、時間か距離のどちらか一方をそろえるとよい。 ・1秒当たりの距離または1m進むのにかかる時間で表すことができる。 <p>○これまで学習したことをどのように生かすと速さを表すことができたのかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口密度や混み具合を表したときと同じで、速さは時間と距離の割合で表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基準とする量が時間、距離いずれでも速さを表すことができることを確認した後、「速いほど数が大きくなる」のは、どちらかを考えられるようにする。 ・長いほど、重いほど、傘が多いほど、その量を表す数は大きくなるように、速いほど数値が大きくなる表し方が日常生活で都合がよいことに気付けるようにする。 ・本時の学習について振り返る。 <p>◇既習事項を活かし、速さも2つの量の割合で表すことを統合的・発展的に捉えている。 (ノート)</p>

問題解決の途中に生まれた新たな問いを追求したり、ねらいに迫るための教師からの問いかけを行ったりすることで、児童の学びを深めます。



「〇〇だったら解決できるのに…」という児童の考えを取り上げ、そのようにするにはどうすればよいかを問題として、解決を図っていきます。

問題解決においては、根拠を基に筋道を立てて考えることが大切です。そのためには、日頃から、既習事項を振り返り生かすことで、根拠になるもの（これまで身に付けてきた資質・能力など）を明確にし、筋道を立てて考えたり説明したりする態度を育てます。



本時の学習で解決したことを、本時の学習で使われた言葉を使ってまとめていきます。1時間で解決できなかった場合は、次時への課題としてまとめておくことで、次時の導入場面を省略することができます。

振り返りでは、解決の方法や答えはこれでよかったのか吟味したり、本時の学習を既習事項と関連づけて統合したり、新たな課題へと発展させたり、日常生活に活用させたりします。

評価基準

十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する状況
<p>混み具合や人口密度の学習と関連付けながら、速さは時間と距離の二つの量の割合で表すことができることを筋道立てて説明することができる。</p>	<p>混み具合や人口密度の学習と関連付けながら、速さは時間と距離の二つの量の割合で表すことができる。</p> <hr/> <p>十分満足できる状況にするための支援 速さも混み具合や人口密度を表すとき、どのように考え、それを説明したかを振り返るようにする。</p>	<p>時間と距離のどちらかをそろえることと、単位量当たりの大きさを求めることの意味を比較し、時間と距離のどちらかをそろえることと単位量当たりの大きさを求めることとは似ていることを理解できるようにする。</p>

小学校 社会

単元の目標(1)(2)は学習指導要領解説を、(3)は参考資料を基に設定します。



中学年の社会科では、「社会的事象の意味、特色や相互の関連を多角的に考え表現するとともに、社会にみられる課題を把握して、学習したことを基にして、解決に向けて社会への関わり方を選択・判断し表現する力」を養うことが求められます。

また、ここでの社会的な見方・考え方は、「給水の仕組みや経路、給水体制の改善と効果、人々の協力関係などに着目して、比較・分類、総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」です。

この単元の評価規準は参考資料 P139【単元「飲料水、電気、ガスを供給する事業」の評価規準(例)】を参考に、学校の教育課程や児童の実態に応じて設定します。

知識・技能②は単元全体を通して身に付ける概念的な知識に関わるものです。思考・判断②は社会的事象の意味を考えたり、選択・判断したりすることに関わるものです。



指導に生かす評価を行う代表的な機会については「・」を、その中で特に学級全員の児童の学習状況について、総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会には「○」を付けています。

教科等	小学校 社会	担当学年	第 4 学年
単元名	水はどこから		

単元(題材)の目標

(1) 知識及び技能	飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解すること。
(2) 思考力、判断力、表現力等	供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水の供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現すること。
(3) 学びに向かう力、人間性等	人々の健康や生活環境を支える事業について、主体的に問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を身に付けること。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などについて見学・調査したり地図などの資料などで調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、飲料水の供給のための事業の様子を理解している。	①供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、問いを見だし、飲料水の供給のための事業の様子について考え表現している。	①飲料水を供給する事業について、予想や学習計画を立て、学習を振り返って見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。
②調べたことを白地図や図表、文などに、まとめ飲料水を供給する事業は、安全で安定的に供給できるように進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持や向上に役立っていることを理解している。	②飲料水の供給のための事業に見られる仕組みや人々の協力関係と地域の人々の健康や生活環境を関連付けて飲料水の供給のための事業の果たす役割を考えたり、学習したことを基に、節水など自分たちで協力できることを考えたり選択・判断したりして表現している。	②学習したことを基に節水などについて自分たちで協力できることを考えようとしている。

指導と評価の計画

時	主な学習活動	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	・自分たちの町で1日に使う水の量について話し合い、学習問題をつくる。 ◇家庭や学校での水の使い方		・思①(行動観察、ノート分析)	

	◇町全体で使う水の量			
飲み水はどこから、どのように送られてくるのでしょうか。				
2	・学習問題の解決に向けて予想や学習計画を立てる。 ◇学習問題解決に向けた予想 ◇学習計画の立案（浄水場の見学、ダムや水源の調査）			・態①（行動観察、ノート分析）
3 4	・浄水場で飲み水をつくって送り出している様子を見学・調査して調べる。 ◇浄水場で水をきれいにして送る ◇浄水場の仕事の工夫や努力	・知①（行動観察、ノート分析）		
5	・ダムによる水量調節の働きについて各種資料で調べる。 ◇広域的な給水システム ◇地図を基に調査	・知①（行動観察、ノート分析）		
6	・水源林の役割と森林保護の取組について各種資料で調べる。 ◇緑のダムとしての働き ◇植林などの水源保護の取組 ◇水の循環システム	・知①（行動観察、ノート分析）		
7	・調べてきたことをまとめ、さらに調べることを話し合う。 ◇水不足になったら… ◇給水制限や給水車 ◇関係機関の協力	・知①（行動観察、ノート分析）		・態①（行動観察、ノート分析）
8	・学習問題について話し合い、水道事業の果たす役割について考え、図や文にまとめる。	○知②（ノート分析）	○思②（行動観察、ノート分析）	
飲み水はどんな仕組みやどんな人々の働きで送られてくるのでしょうか。				
	◇水道事業の計画的な改善や生活の向上			
9	・様々な立場から飲み水の確保や水の循環を守るために、自分たちにできることは何か考え、話し合い、自分なりの考えをまとめる。 ◇節水や水を汚さない取組 ◇選択・判断した理由		○思②（行動観察、ノート分析）	○態②（行動観察、ノート分析）

取り扱う社会的事象への意欲・関心を引き上げた上で、単元全体に係る**学習問題（単元を貫く問い）**を児童と話し合ってください。

学習問題の解決に向けて予想をした後に、水道事業の仕組みや関係する人々の具体的な工夫や苦勞などについて計画的に調べていきます。児童が必要な事項を読み取ったり水道事業の様子を理解したりできているかを見取り、指導に生かしていきます。

学習問題でカバーしきれない内容がある場合は、学習を進める中で児童から新たな疑問として出るように単元を仕組みます。児童が学習を振り返ったり見直したりしながら更に調べるべきことを考えようとしているかを評価します。（第7時）



学習問題について調べて分かったことを基に、水道事業の社会的な役割について、日常生活と関係づけて考え、単元を通じて身に付けさせたい概念的な知識を自分なりの言葉でまとめているかを評価して記録に残します。その時間の問いは、単元最初に立てた学習問題を、単元の中で子どもの学びを基に進化させることも考えられます。（第8時）

また、[内容の取扱い]で「自分たちでできることを考えたり選択・判断したり」するよう配慮することを求められている単元なので、節水や水を汚さない取組など自分でできることを考える学習を単元の最後に設定します。単に取組を述べるだけでなく、それをするには何が良いのか、どんな課題が解決されるかも考えさせることが大切です。選択・判断の中でそれまでの学びを生かして考えているか、意欲的に考えようとしているかを評価して記録に残します。（第9時）

小学校 社会

本時のねらいは、その単元で育成する資質・能力をもとに設定します。



本時は単元のまとめの時間なので、学習問題について調べて分かったことを基に、水道事業の社会的な役割について、日常生活と関係づけて考え、単元を通じて身に付けさせたい概念的な知識を自分なりの言葉でまとめる学習をおこないます。

通常であれば、導入においては、事象に対する児童の関心を引き上げるための資料と問いを準備しますが、本時では単元のまとめの時間であることを児童と確認し、既習事項を整理します。第1時に立てた学習問題は、具体的な事象を学習する前に立てた問いであるので、単元のまとめの段階では文言を改める必要が出てくることを想定しておきます。



活動の見通しだけでなく、考える視点を児童と一緒に確かめることで、考える見通しを持たせた上で個の学習に入ることが大切です。



どの児童も考えやすくするために、ワークシートや思考スキルを活用することも有効です。必要に応じて、ICTの活用やグループでの話し合いを取り入れましょう。

本時（第8時）のねらい

学習問題について調べて分かったことを基に、水道事業の社会的な役割について日常生活と関係付けて考え、自分なりの言葉で表現することができる。

(思考・判断・表現②)(知識・技能②)

本時の学習

学習場面	学習活動	支援(・)と評価(◇)評価方法																				
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○学習問題について、調べてどんなことが分かりましたか？ ・水は浄水場で飲み水に変えられ家庭や学校、工場に送られる。 ・複数の浄水機を通して時間かけて飲み水を作っている。 ・常に水を使えるようにダムで貯水し水源を保護している。 ・飲み水がなくならないように、施設を新しくしたり、監視したりしている。 ○学習問題は始めのままでいいでしょうか。 ・どこからどのように送られてくるか以外のことも分かったので変えた方がいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1時に立てた学習問題に対して分かったことを確認する。 ・児童の発言を、安全性、安定性、協力関係、その他の4つの視点で分類して板書し、「安全」「いつでも」「協力」などの見出しを児童とともに考えながら整理する。 ・始めに立てた学習問題とこれまで学んだ内容を比較して、学習問題を進化させる必要性が出てきたことを学級全体に納得させる。 																				
展開	<p>飲み水はどんな仕組みやどんな人々の働きで送られてくるのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習問題に対して、学んだことをキーワードごとにまとめよう。 ・「安全(な水)」 だれが、何のために、どんな工夫・努力 ・「いつでも(水道が使える)」 ・「(様々な人々の)協力」 ・「おいしい(水)」 ○まとめたことを発表し合おう。(キーワードごとに、児童の発言を板書し、内容を全体で吟味していく。) <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「安全」浄水場は安全な水を市民に届けるために時間をかけてたくさんの濾過装置を使って水をきれいにしている。より安全な水を作れるよう新しい方法を取り入れてきた。</p> <p>「いつでも」浄水場は市民がいつでも必要な水を使えるように、どこにどれだけの水を送られているかチェックしている。ダムを管理している人は水不足にならないように節水を呼び掛けたり貯水率を広く知らせたりしている。島根県は水不足にならないように新しいダムを造ってきた。</p> <p>「 」……</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・考える見通しを持たせるために、キーワードごとに、どんな人が、何のために、どんな工夫や努力をしているのかの視点でまとめるよう示す。 ・下のワークシートを使ってまとめることで、考えやすくする。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th>キーワード</th> <th>だれが</th> <th>何のために</th> <th>どんな工夫や努力をしているか</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容を他の児童が理解できているか確認するとともに、考えを深めるために発表者や他の児童へ問い返しを行う。 ◇既習事項を基に、水道事業の意味や特色、生活との関わりを考えることができる。 <p>思②(行動観察、ワーク分析)</p>	キーワード	だれが	何のために	どんな工夫や努力をしているか																
キーワード	だれが	何のために	どんな工夫や努力をしているか																			

終 末	<p>○学習のまとめをしよう。</p> <p>・水道水を送る仕事に関わる人々は、協力し合って、きれいな水をいつでも町全体に届けるために、水を作るための仕組みを工夫したり、浄水場やダムをよりよいものに変えていく努力や水源を守る努力をしたりしている。</p>	<p>・既習事項から水道事業の役割や工夫・努力を一人一人に自分なりの言葉でまとめさせる。</p> <p>・困っている児童には下記のような文型を例示する。</p> <p>「水道の仕事をしている人々は、 ～～や～～のために、～～や～ ～工夫や努力をしている。」</p> <p>◇水道事業の意味や特色、生活との関わりを理解している。 (知②ノート分析)</p> <p>・単元学習全体を通じて学んだことや考えたこと、自分の学び方について振り返らせる。</p>
	<p>○学習問題が解決できたか振り返ろう。</p> <p>・はじめの疑問が解決できた。</p> <p>・予想がたしかめられた。</p> <p>・今まで当たり前蛇口から出てきた水が、どのように作られているか分かった。</p> <p>・水道水には世話をしている人の努力や工夫が詰まっている。</p> <p>・これからは水を大切に使いたい。</p>	

観念的な言葉でまとめると、それまでに調べてきた事実と乖離してしまうので、使用した資料や図等を掲示して、児童が具体的な事実を関連付けながらまとめられるようにします。



「協力関係」については、それまでの学習の中で分かった、浄水場、水道局、ダム管理事務所、他の浄水場、島根県等の間の関係を図にまとめて掲示して、児童が想起しやすくしておきます。

評価基準と支援

十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する状況
<p>学習問題について調べて分かったことを基に、水道事業の社会的な役割について日常生活と関係付けて考え、複数の視点からの役割をまとめて、自分なりの言葉で表現することができる。</p>	<p>学習問題について調べて分かったことを基に、水道事業の社会的な役割について日常生活と関連付けて考え、自分なりの言葉で表現することができる。</p> <p>十分満足できる状況にするための支援 日常生活の水道に関わる部分に目を向けさせることで、自分事として考えられるよう支援する。</p>	<p>水道事業に関わる人々が、何のために、どんなことをしていたのかを思い出させることで、考える見通しを持たせる。</p>

単元の学習で解決したことを、本時の学習で使われた言葉を使ってまとめていきます。その際に児童が考えた言葉を大切にしていきます。



・単元の振り返りの場合は、学習問題を解決できたか、予想が確かめられたか、単元学習全体を通じて学んだことや考えたことについて振り返らせます。

小学校 理科

単元の目標は「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」については、学習指導要領解説、「主体的に学習に取り組む態度」については参考資料を基に設定します。
理科は、着目する自然事象を示し、総括目標で表すことが多いです。



- ① 3年生では、自然事象の差異点・共通点を比較しながら調べる活動を通して問題を見だし表現する力を育成します。
- ② 思考・判断・表現は、実験の前後で分けて評価します。
- ③ 主体的に学習に取り組む態度は、自然事象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしているか、学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを評価します。

理科の思考力・判断力・表現力は、学年ごとに主に育成したい力が設定されています。3年生では、差異点・共通点から問題を見いだす力を育成します。導入で出会った自然事象の差異点・共通点を基に気づきや疑問が持てるようにし、子供たちの状況を確認します。



教科等	小学校 理科	担当学年	第 3 学年
単元名	明かりがついたり消えたりするおもちゃをつくろう(電気の通り道)		

単元の目標(総括目標)

明かりがついたり消えたりするおもちゃについて、乾電池と豆電球などのつなぎ方と乾電池につないだものの様子に着目して、電気を通すときと通さない時のつなぎ方を比較しながら調べる活動を通して、電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があることや電気を通すものと通さないものがあることを理解するとともに、観察実験などに関する技能を身に付け、差異点や共通点を基に、問題を見だし表現する力や、主体的に問題を解決しようとする態度を育成する。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に 学習に取り組む態度
① 電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方があることを理解している。 ② 電気を通すものと通さないものがあることを理解している。 ③ 電気の回路について、器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果をわかりやすく記録している。	① 電気の回路について、採点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。 ② 電気の回路について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。	① 電気の回路についての事物・現象に進んでかかわり、他者とかかわりながら問題解決しようとしている。 ② 電気の回路について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

指導と評価の計画

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1	○明かりがついたり消えたりするおもちゃを観察し、気づきや疑問を出し合う。	思		思考・判断・表現① 【発言分析・記述分析】 ・おもちゃを観察して、差異点や共通点を基に、気づきや疑問を出すことができているか確認する。

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
2	○各自の気づきや疑問を出し合い、問題を見いだす。 ○各自の問題を基に学級共通の問題を設定する。	思	○	思考・判断・表現① 【記述分析】 ・各自の気づきや疑問からやってみたいことや追究してみたいことを表現しているか評価する。
3	明かりがつくつなぎ方とつかないつなぎ方を調べる。	知		知識・技能③ 【行動観察・記述分析】 明かりがつくつなぎ方について、豆電球、乾電池、ソケットを正しく扱いながら調べられているか、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録しているか確認する。
4	電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方について考察し、回路についての結論を導き出す。	思		思考・判断・表現② 【発言分析・記述分析】 電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方について得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題を解決しているか確認する。
5	電気を通すもの、通さないものを調べる。	知	○	知識・技能③ 【行動分析・記述分析】 電気を通すものと通さないものについて豆電球、乾電池、ソケットを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録しているか評価する。
6	電気を通すもの、通さないものについて考察し、電気を通すものについての結論を導き出す。	思	○	思考・判断・表現② 【発言分析・記述分析】 電気を通すものと通さないものについて実験の結果を基に考察し、表現するなどして問題解決しているか評価する。
7 8	学習したことをもとに明かりがついたり消えたりするおもちゃを作ろう	主	○	主体的に学習に取り組む態度② 【行動観察・記述分析】 電気の回路について学んだことをおもちゃ作りに生かそうとしている。

各自の気づきや疑問を出し合い、同様の視点をまとめたり、考えのずれを意識させたのち、各自で問題を見いだす時間をとります。

このように確認をしてから指導をし、全員の記録をとる評価をします。

さらに、各自の見いだした問題を話し合い、学級全体の問題を設定していきます。



電気を通す物と通さない物を調べる際には、結果を表などに分類・整理するなど、電気の回路について考えたり、説明したりする活動の充実を図ります。

適切な評価を行うことができるように、分析対象もあらかじめ設定しておく必要があります。記述分析は、後に残りますが、発言・行動の分析はすべてを対象とすることはできません。記述分析を基本とし、発言・行動をプラスの要素として評価していきます。



「A 物質・エネルギー」の指導に当たっては、3種類以上のものづくりを行うこととなっています。

乾電池や豆電球を使った、電気の性質を活用したものづくりとして、スイッチや電気を通すものを調べるテスターなどが考えられます。

小学校 理科

本時のねらいは、その単元で育成する資質・能力をもとに設定します。



3年生では、思考力・判断力・表現力として問題を見いだす力を育成します。そのため、差異点、共通点を基に気づきや疑問を出し合い、問題を見いだす活動を設定します。

問題を見いだす場面では、単元で追究していきたい問題が見いだせるよう「何と」「どのように」出合わせるかを検討します。



本単元では、「電気が通るつなぎ方（回路）通らないつなぎ方」「電気を通す物、通さない物」についての問題を見いだしていくことをねらっているため、明かりがつく時とつかない時の差異点・共通点に目が向くような教材に出会わせるようにします。

気づいたことや、疑問に思ったこと、やってみたくなったことを記述し、共有するために児童の個別最適な学びに対応できるよう、ICTも活用していきます。




(1) 本時(第2時)のねらい

明かりがついたり消えたりするおもちゃを見て、差異点や共通点を基に、気づきや疑問を出し合い、やってみたいことや調べてみたい問題を考えることができる。

(思考・判断・表現)

(2) 本時の学習

学習場面	主な発問と予想される児童の反応	支援(・)と評価(◇評価方法)
導入	<p>1 明かりがついたり消えたりするおもちゃに出会う。</p>  <p><めあて>明かりがついたり消えたりするおもちゃを見て、気がついたこと疑問に思ったことからやってみたいこと調べてみたいことを考えよう。</p> <p>2 個別に記録する。</p>	<p>・指導者がおもちゃを提示し、問題意識を喚起するようにする。</p> <p>・明かりをつけるには、豆電球、ソケット、電池がいることがわかり、どのようなつなぎ方にすればよいかを試してみたいようになるように車の裏も見えるようにする。</p> <p>・ダンボール、アルミホイール、アルミ蒸着プラスチックフィルム、空き缶(表面を部分的に削っている)の上を移動させることで、明かりがつく場合と、つかない場合があることに気が付くように、ゆっくり何度も見ることができるようになる。</p>
	<p>気が付いたことや疑問に思ったこと、やってみたくなったことをノートに書きましょう。</p> <p>・明かりがつくおもちゃを作ってみたいな。</p> <p>・車の後ろに線や電池があった。明かりをつけるのにいるのかな。</p> <p>・どんなしくみでつくのだろう。</p> <p>・どうやったら明かりがつくのだろうか。</p> <p>・反射するところはつきそう。</p> <p>・缶の銀色のところはついた。</p> <p>・銀色のところがつくのだろうか。</p> <p>・段ボールは紙だからつかないのかな。</p>	
展開	<p>3 気がついたこと、疑問に思ったことを出し合い、分類する。</p> <p>気がついたこと、疑問に思ったことをやってみたいこと、調べてみたいことを考える。</p> <p><作りたい></p> <p>・明かりがつくおもちゃを作ってみたいな。</p> <p><車について></p> <p>・明かりがついたり消えたりする。</p> <p>・車の後ろに線や電池があった。明かりをつけるのにいるのかな。</p> <p>・どんなしくみでつくのだろう。</p> <p>・どうやって明かりがつくのだろうか。</p> <p><道路について></p> <p>・缶の銀色のところはついた。</p> <p>・銀色のところがつくのだろうか。</p> <p>・段ボールは紙だからつかないのかな。</p> <p>・アルミのところは光がつくのにアルミや鉄でないところはなんで光らないのか。</p>	<p>・子どもたちの気づきや疑問、やってみたい個なつなぐことを、<つくりたい><車について><道路について>という視点ごとに分類してやってみたいこと、調べてみたいことが考えられるようにする。</p>

展 開	<p>4各自で問題を見いだす。</p> <p>みんなの出した気付きや疑問から、これからやってみたいことや調べてみたいことを一人一人考えてノートに書いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ねこの目が光るおもちゃが作りたい。 ・明かりがつく車を作りたい。 ・どんなしくみであかりがつくのだろうか。 ・明かりがつく物とつかない物を調べたい。 ・きらきらしている物は明かりがつくのか。 ・なぜ、削ってないところはつかなくて、削ったところはつくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別に調べてみたいことを考えるように助言する。 ・既につくっている児童の問題を取り上げ、表現の仕方のヒントにできるようにする。 <p>◇明かりがついたり消えたりするおもちゃの観察をすることを通して、気が付いたことや疑問に思ったこと、やってみたいことを表現している。(記述)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個々で考えている問題を把握しておき、単元で学習する内容を考え合わせながら、子供たちの問題を出し合わせる。<つくりたい>、<車について(回路について)> <道路について(電気を通す物当さない物)>に分けながら考えることで問題を焦点化していく。
	<p>5個々で考えた問題を出し合い、みんなでやってみたいことやこれから調べていくことを考える。</p> <p>みんなでやってみたいことやこれから調べていきたいことを考えよう。</p> <p><作りたい> 明かりがつくおもちゃが作りたい。</p> <p><車について> 消防車の仕組みはどうなっているか。</p> <p><道路について> 電気がつくものとつかないものはなにか。</p>	
終 末	<p>6今日の学習を振り返る。</p> <p>今日の学習でやってみたいことや、友達の考えでなるほどと思ったことを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べてみたくなかったところをしっかりと考えることができてよかった。 ・知りたいことが増えました。 ・アルミや鉄のように反射するものは電気が通り、反射しないものは電気が通らないか確かめたい。 ・〇〇さんのしくみの問題がいいと思いました。 ・しくみがわかるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の問題づくりで参考になったところを想起させ、今後の問題づくりの参考にできるようにする。 ・参考にしてしている友達の姿や質的な見方、比較の考え方など理科の見方・考え方を働かせていた姿を認め、価値付ける。

これまでの問題を想起させて、考えるように促します。
なぜ～の形の問題は、実験・観察で解決できない物もあります。その場合は、予想を考えることにより、実験・観察が可能となり具体的な問題にできることもあります。



さらに、個別に考えた問題を①自分たちの実験・観察で解決可能か②みんなが共通して解決したい問題などを基準に本単元でみんなで追究していく問題として考えていきます。

振り返りでは、本時の学習を既習事項や日常生活と関連付けたり、友達の考えを基に自分の考えをより妥当なものにしていきます。
また、本時に働かせていた理科の見方・考え方を子供の言葉で認め、価値づけ、さらに他の場面でも働かせて行けるようにします。



問題の見いだしの評価は、問題ができてきているのみならず、導入で出会った事象についての気付きや疑問が持っているかを確認し、友達の問題を参考にするなどの指導を行ってから記録に残す評価を行います。

(3) 本時の評価基準と支援

十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する状況
明かりがついたり消えたりするおもちゃの観察することを通して、これからやってみたいことや調べてみたいことを複数表現している。	<p>明かりがついたり消えたりするおもちゃの観察することを通して、これからやってみたいことや調べてみたいことを表現している。</p> <p>十分満足できる状況にするための支援</p> <p>ほかの視点でも調べたいことことがないか考えるよう声がけする。</p>	明かりがついたり消えたりするおもちゃの様子について気が付いたこと不思議に思ったことについて問い、言葉にできるように声かけをする。

中学校 社会

教科等	中学校 社会科 ～地理的分野～	担当学年	第 1 学年
単元名	世界各地の人々の生活と環境		

単元の目標

単元の目標(1)(2)は学習指導要領解説を、(3)は参考資料を基に設定します。また、単元の目標と評価規準の各観点は対になっています。



(1)知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 人々の生活は、その生活が営まれる地域の自然環境や歴史的背景、文化の影響を受けることを理解するとともに、その場所の自然及び社会的条件に影響を及ぼすことを理解する。 世界各地における人々の生活やその変容を基に、人々の生活や環境の多様性ととも、世界の主な宗教の分布について理解する。
(2)思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地における人々の生活や変化がなぜ起こるのかを、その生活が営まれている場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考え、表現する。
(3)学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地の人々の生活と環境の関りについて、人々がよりよい社会の実現を視野にどのような工夫をしながら生活をしているのか主体的に追及する態度を養う。

単元の評価規準

知識及び技能に関しては、学習指導要領解説に記載してある「内容の取扱い」に留意し、確実に学習するようにします。本単元では、生活と宗教の関りを取り上げることが必要なので、知識及び技能に関しては、2つの項目を記載しています。



(1)知識・技能	(2)思考・判断・表現	(3)主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 人々の生活は、その生活が営まれる地域の自然環境や歴史的背景、文化の影響を受けることを理解しているとともに、その場所の自然及び社会的条件に影響を及ぼすことを理解している。 世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性ととも、世界の主な宗教の分布について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地における人々の生活や変化がなぜ起こるのかを、その生活が営まれている場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考え、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界各地の人々の生活と環境の関りについて、人々がよりよい社会の実現を視野にどのような工夫をしながら生活しているのか主体的に追及しようとしている。

指導と評価の計画(○:「評定に用いる評価」、●:「学習改善につなげる評価」)

この単元の評価規準は参考資料 P103以降の巻末資料を参考に、学校のエドカリケルや児童の実態に依じて設定します。なお、今回は P106(2)B(1)「世界各地の人々の生活と環境」を参考に作成しています。

時	ねらい・学習活動	知	思	態	評価規準
1	【ねらい】景観写真の読み取りから世界には様々な生活の様子が見られることに気づき、なぜそのような違いが生まれるのかを予想する。				
	・様々な景観写真から人々の生活について気づくことを整理し、疑問をまとめる。			●	・世界には多様な生活の様子が見られることに着目し、問いや予想を立てることができる。
単元を貫く問い:なぜ、世界各地の人々の生活に違いが生まれるのか					

2	【ねらい】暑い地域の暮らしを例に、自然環境が生活に与える影響を考える。				
	・景観写真や雨温図から気候の特色をつかむとともに、人々の生活にどのような影響があったのかを考える。	●			・景観写真や雨温図から適切に情報を集めることができる。
3	【ねらい】高山地域の暮らしを例に、自然環境が生活に与える影響を考える。				
	・高地で暮らす人々の生活の工夫を景観写真や雨温図を通して考える。	●			・景観写真や雨温図からの情報を活用して人々の生活の工夫をまとめることができる。
4	【ねらい】寒い地域の暮らしから、人々の生活の工夫とその変化を考える。				
	・寒い地域の暮らしの昔と今を比較して人々の生活の変化について考える。	○	●		・資料を活用して伝統的な生活様式が変化していることを理解し、その要因を考えることができる。
5	【ねらい】乾燥した地域の暮らしを例に、自然環境と宗教が人々の生活に与える影響を考える。				
	・宗教と生活の関りについて資料を通して考える。	●			・宗教分布図を基に情報を読み取り、宗教の広がりを理解する。
6	【ねらい】異なる自然環境における生活の工夫を比べて、自然環境と生活の関りを考える。				
	・環境が異なるマレーシアとシベリアでなぜ高床式の住宅が見られるのか考える。		●		・高床式の住宅が建てられる理由について、自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考えることができる。
7 (本時)	【ねらい】同じような自然環境における地域において人々の生活が異なる理由を考える。				
	・同じ温帯でなぜ人々の生活の仕方が大きく変わるのか考える。		○		・人々の生活の特色を、その生活が営まれる地域の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察できる。
8	【ねらい】これまでの学習をまとめるなかで、「単元を貫く問い」に対する答えを学習した内容を踏まえながら考え、学習を振り返る。				
	・これまで活用した諸資料を気候帯などの主題図と結び付け、その理由を説明する。 ・単元を貫く問いに対しての考えを意見交換することで、改めて自分が出した問いに関して考えを深め、まとめる。 ・この単元の学習を通して、自分に身についたことやこれから身につけたいことを記録する。	○		○	・これまでの学習を活用して、人々の生活の特色を、自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考えとともに、世界同士のつながりの中で変化していることについて理解している。 ・単元の学習を振り返り、感じたことや考えたことを踏まえた上で、今後の学習に意欲的に取り組もうとしている。

この単元は、「単元を貫く問い」を導入に設定し、仮説を立てます。最後の時間にこれまでの学習を生かしてその問いに対して、自分なりの考えを記述することで、生徒の変容をつかむことができるよう工夫しています。



景観写真・雨温図、主題図と読み取る資料を繰り返し使うことで、生徒の資料活用技能の向上を図っています。したがって第2～5時までは、「知識・技能」を見取くことが評価の中心となっています。

資質・能力を育むための社会的な見方・考え方の定着をねらい、2つ以上の社会的な事象を比較し、その気づきを生かす授業を繰り返し設定しています。(第4時・6時・7時)



まとめることは、学習した知識を概念化することと捉え、記録することは、今までの学びとこれからの学びを整理することと捉えています。前者は、知識・技能の評定。後者は、主体的に学習に取り組む態度の評定にそれぞれつなげていきます。

中学校 社会

本時のねらいは、単元計画に基づいた文言で作成します。

<本時(第7時)のねらい>

同じような自然環境における地域において、人々の生活が異なる理由を適切な資料を活用しながらまとめることができる。(思考・判断・表現)

<本時の学習>



生徒にとって身近な「食」を切り口にすることで、各地域の人々の生活を比較するきっかけを作っています。

学習活動を取り組みやすくするために、視覚的な支援(ICTや地図帳の活用、比較するための表)をちりばめています。



取り上げた地域の比較を通して生徒が気づいたことを生かし、本時の問いを設定していきます。また、その問いに対する仮説を検討することで、生徒の主体的な学びを促します。



探究的な学びを展開する上で、調べたことや考えたことを視覚的に整理できる思考ツールの活用は効果的です。今回は、「マトリックス表」を活用しています。

学習場面	学習活動	支援(・)と評価(◇評価方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の3つの地域に広がる代表的な料理の写真とそれらの食材の表を比較してみる。 ・見たことあるものとないものがある。 ・色合いも違うけど、食材も違うね。 ・一つは日本じゃない。他の料理はどの地域のものだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食材の活用方法などの情報もヒントになるので、タブレット端末で写真を共有し、自分で情報を得ることができるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ○紹介した3つの地域(フランス・トルコ・日本)の位置を調べてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じような自然環境であることに気づくために緯度に注目させる。そのために、地図帳を活用しフランス・トルコ・日本の位置関係を確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> ○位置関係を踏まえた上で、気づいたことや感じたことを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びを促すために、生徒の気づきから本時の問いを導いていく。

本時の問い:なぜ、同じような自然環境であるのに人々の生活が異なるのか。

展開	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を踏まえて、仮説を立ててみる。 ・雨温図から考えてみると違いがあるかも。 ・降水量と作物が関係しているかも。 ・宗教も関係しているかも。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの生徒も容易に仮説を立てることができるようにするために、キーワードのみで仮説を記入しても良い。 																								
	<ul style="list-style-type: none"> ○仮説を踏まえた上で、自分が調べたい項目を絞って調べてみる。 ・調べたことを整理していく。 ・困った生徒は、同じ項目を調べている生徒の内容を他者参照する。 ・複数の項目で調べることができる生徒は、複数項目調べて、情報量を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた内容を整理できるようにマトリックス表に記入できるようにする。 																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>降水量</th> <th>地形</th> <th>作物</th> <th>宗教</th> <th>その他(歴史など)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フランス</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>トルコ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>日本</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		降水量	地形	作物	宗教	その他(歴史など)	フランス						トルコ						日本					
	降水量	地形	作物	宗教	その他(歴史など)																					
フランス																										
トルコ																										
日本																										
		<ul style="list-style-type: none"> ・他者参照できるようにこのマトリックス表はオンライン授業ツールで共有する。 																								

展 開	<p>○グループになって、互いのマトリックス表や他者参照をもとに、本時の問いについて資料を活用しながら、考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じような気候でも、降水量の違いで作物が違うので、食材にも違いが生まれる。 ・同じような気候でも、山がちな場所か海に面している場所かで取れる食材が違う。 ・食材が違うので、作られる料理も異なる。 ・宗教によっては、食べてはいけない食材があるので、それによって作られる料理に違いが生まれる。 <p>○グループ毎に発表し、多くの意見に触れる。</p>	<p>・マトリックス表や他者参照で気づいたことを説明するための資料として、これまでの学習で触れた、主題図や雨温図を活用できるようにする。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td>メモ・まとめ</td> </tr> <tr> <td>比較して気づいたこと</td> <td></td> </tr> <tr> <td>↓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>使う資料</td> <td></td> </tr> <tr> <td>↓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>結論</td> <td></td> </tr> </table>		メモ・まとめ	比較して気づいたこと		↓		使う資料		↓		結論	
		メモ・まとめ												
比較して気づいたこと														
↓														
使う資料														
↓														
結論														
終 末	<p>○本時のまとめと振り返りの記入</p>	<p>◇今日の学習を生かして、本時の問いに対するまとめを単元を貫くワークシートに記入をする。 (ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を踏まえ、自らの学びを振り返る。 												

グループ内での効率的な情報共有や他者参照をスムーズに行う上で、ICTの活用が考えられます。



深い学びを促す上で、単元を通じた学びの記録を蓄積することは有効です。そのために、単元を貫くワークシートを活用することで、今日の学びを記録し、これまでの学びを参照できるようにしています。

評価基準と支援

十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する状況への手立て
<p>同じような自然環境における地域において人々の生活が異なる理由を適切な資料を複数活用しながら、関連付けてまとめることができる。</p>	<p>同じような自然環境における地域において人々の生活が異なる理由を適切な資料を活用しながらまとめることできる。</p> <p>(十分満足できる状況にするための支援)</p> <p>取り上げている資料以外の資料を活用しながら、理由を考えるように促す。その際、必要に応じて、他者参照するように促す。</p>	<p>それぞれの資料を見て、気が付いたことをメモし、それを比較するように促す。比較をして気が付いた相違点に注目して考えるように支援する。</p>

社会的事象を考える際に社会的な見方・考え方をどのように生かしていくかということを支援の中に位置づけることで、今後の学習でも生かすことができるようになります。



中学校 数学

単元の目標(1)(2)は学習指導要領解説を、(3)は参考資料を基に設定します。



この単元の評価規準は参考資料P88「簡単な多項式」の四角囲みを参考に、学校の教育課程や生徒の実態に応じて設定します。

指導に生かす評価を行う代表的な機会については「・」を、その中で特に学級全員の生徒の学習状況について、総括の資料にするために記録に残す評価を行う機会には「○」を付けています。

1時間の授業の中で、3観点すべて評価することは難しく、1観点多くても2観点までが現実的です。

単元計画を作成する際、全体を見通して指導できるよう「単元を貫く課題」を設定することをお勧めします。例えば、本単元では、「文字を用いた式を使って説明できるようにしよう」と設定し、単元後半の数や図形の性質を証明することができるように、常に意識しながら学習指導を行います。そうすることで、単元全体を通して育成したい資質・能力を身に付けることにつながります。



単元の導入では、これから学ぶことについて、見通しがもてるように、「単元を貫く課題」につながるような課題を設定します。ここでは、文字を用いた式を使い説明することを通して、文字を使うことのよさや必要性を理解する課題を設定し、これから何を学んでいくのか、見通しがもてるようにしています。

教科等	中学校 数学	担当学年	第 3 学年
単元名	文字式を使って説明しよう		

単元（題材）の目標

(1) 知識及び技能	(ア)単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算ができる。 (イ)簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解ができる。 公式1 $(a+b)^2=a^2+2ab+b^2$ 公式2 $(a-b)^2=a^2-2ab+b^2$ 公式3 $(a+b)(a-b)=a^2-b^2$ 公式4 $(x+a)(x+b)=x^2+(a+b)x+ab$
(2) 思考力、判断力、表現力等	(ア)既に学習した計算の方法と関連付けて、式の展開や因数分解する方法を考察し、表現することができる。 (イ)文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明することができる。
(3) 学びに向かう力、人間性等	式の展開や因数分解をする方法のよさを実感して粘り強く考え、多項式について学んだことを生活や学習に生かそうとする態度、文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を身に付ける。

単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①単項式と多項式の乗法及び多項式を単項式で割る除法の計算をすることができる。 ②簡単な一次式の乗法の計算及び次の公式を用いる簡単な式の展開や因数分解をすることができる。 公式1 $(a+b)^2=a^2+2ab+b^2$ 公式2 $(a-b)^2=a^2-2ab+b^2$ 公式3 $(a+b)(a-b)=a^2-b^2$ 公式4 $(x+a)(x+b)=x^2+(a+b)x+ab$	①既に学習した計算の方法と関連付けて、式の展開や因数分解する方法を考察し、表現することができる。 ②文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明することができる。	①式の展開や因数分解する方法のよさを実感して粘り強く考え、多項式について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ②文字を用いた式を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしていたりしている。

指導と評価の計画

		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	・半円を2つ合わせて作ったコースの長さを比べる問題を文字式とその計算を利用して解決することを通して、文字のよさを理解する。		・思②（行動観察、ノート分析）	・態①（行動観察、ノート分析）
2	・(単項式)×(多項式)の計算方法を考え、計算することができる ・(多項式)÷(単項式)の計算方法を考え、計算することができる。	・知①（行動観察、ノート分析）		
3	・(2項式)×(2項式)の計算方法を考え、展開することができる。 ・かっこの中の項が多い式を展開することができる。	・知①（行動観察、ノート分析）		

4	<ul style="list-style-type: none"> ・$(x+a)(x+b)$の形をした式の公式4を、展開したり、面積図を用いたりして、つくるができる。 ・公式4を使って、式を展開できる。 	・知②(行動観察、ノート分析)	・思①(行動観察、ノート分析)	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・$(a+b)^2$、$(a-b)^2$の形をした式の公式を、公式4を利用して、つくるができる。 ・公式1, 2を使って、式を展開できる。 	・知②(行動観察、ノート分析)		
6	<ul style="list-style-type: none"> ・$(a+b)(a-b)$の形をした式の公式を、公式4を利用して、つくるができる。 ・公式3を使って、式を展開できる 	・知②(行動観察、ノート分析)		
7	<ul style="list-style-type: none"> ・式の一部を1つの文字に置き換えて式の展開をすることができる ・式の展開と加法、減法を組み合わせた式を計算することができる。 	・知②(行動観察、ノート分析)	○思①(行動観察、ノート分析)	
8	<ul style="list-style-type: none"> ・問題練習をする。(基本の問題) ・小テストをする。 	○知②(ノート分析、小テスト)		
9	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物を使う操作を通して、長方形の面積を表す式から縦と横の長さを表す式を調べ、求めることができる。 		・思①(行動観察、ノート分析)	・態①(行動観察、ノート分析)
10	<ul style="list-style-type: none"> ・共通因数をくくり出して、式を因数分解することができる。 	・知②(行動観察、ノート分析)		
11	<ul style="list-style-type: none"> ・公式4を逆に使って、多項式を因数分解することができる。 	・知②(行動観察、ノート分析)	・思①(行動観察、ノート分析)	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・公式1, 2, 3を逆に使って、多項式を因数分解することができる。 	・知②(行動観察、ノート分析)		
13	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな式の因数分解を工夫してすることができる。 	・知②(行動観察、ノート分析)	○思①(行動観察、ノート分析)	
14	<ul style="list-style-type: none"> ・問題練習をする(基本の問題) ・小テストをする。 	○知②(ノート分析、小テスト)		
15	<ul style="list-style-type: none"> ・速算の方法を予想し、式の計算を利用して、その方法を証明することができる。 		・思②(ノート分析)	○態②(行動観察、ノート分析)
16	<ul style="list-style-type: none"> ・式の展開や因数分解の公式を数計算に利用して、簡単に計算することができる。 		○思②(行動観察、ノート分析)	
17	<ul style="list-style-type: none"> ・整数の性質を見出し、その性質を文字を用いた式を使って証明することができる。 		○思②(行動観察、ノート分析)	
18	<ul style="list-style-type: none"> ・条件を変えるなどして整数の性質を新たに見出し、その性質を文字を用いた式を使って証明することができる。 		・思②(行動観察、ノート分析)	○態②(行動観察、ノート分析)
19	<ul style="list-style-type: none"> ・幅一定の図形の面積は、(幅)×(中央を通る線の長さ)で求められることを、式の計算を利用して証明することができる。 		○思②(行動観察、ノート分析)	・態②(行動観察、ノート分析)
20	<ul style="list-style-type: none"> ・問題練習をする。(章末問題) 	・知②(ノート分析)	・思②(ノート分析)	
21	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト 	○知②(単元テスト)	○思②(単元テスト)	

「文字を用いた式を使って説明できるようになる」そのためには、目的に応じて式を変形することが必要です。だから、式の展開や因数分解などができる力を身に付けると捉えます。



指導の手立て①

- ・一次式と一次式の乗法では、既習の単項式と多項式の乗法と関連付けて考察したり、面積図を用いたりして、計算ができるようにすること
- ・展開の公式を学習する際は、既習の法則と関連付けて展開したり、面積図を用いたりして生徒自らが展開の公式をつくり出すようにすること
- ・因数分解の公式は、一次式の乗法や展開の公式の逆であることを理解し、その方法を見出すこと
- ・公式のもつ意味を理解し、式を能率よく処理できるようにすること

指導の手立て②

- ・展開の公式、因数分解の方法の理解を深めるために、数の計算と関連付けて、そのよさを実感できるようにすること
- ・数や図形の性質などが成り立つことを、文字を用いた式で説明することができるようにすること、
- ・説明の過程を振り返り、文字を用いた式を使うことのよさや必要性についての理解を一層深めること
- ・文字式を別の視点から読み取ったり、条件を変えたりして、新しい性質を見出す学習をすることを通して、統合的・発展的に考える力を養うこと

単元全体を通して育成したい資質・能力は、学習が進むにつれて、身に付いていくものです。したがって、記録に残す評価は、単元の後半に行います。単元テスト、小テストで評価することは、客観的な評価方法として有効です。

中学校 数学

本時（第17時）のねらい

- 整数の性質を見出し、その性質を文字を用いた式を使って証明することができる。
(思考・判断・表現)

本時のねらいは、その単元で育成する資質・能力をもとに設定します。

本時の学習

手立てのポイント①

「～を証明しなさい」と教師から一方的に問題提示をされても、生徒に主体的に証明しようという意欲は生まれません。生徒自らが「どんな数になるのだろうか」といろいろ予想し、「いつでもいえるのだろうか」という問いをもつことが必要です。それが、「証明してみよう」という問題解決への意欲につながります。



手立てのポイント②

めあては、生徒の予想や問いをもとに焦点化し、その問題に対して生徒が見通しをもち、既習事項を生かしながら、解決に向かっていけるものにします。



手立てのポイント③

文字を用いた式を使って、数や図形の性質を証明することを苦手とする生徒は少なくありません。証明の構想を立て、見通しをもって、流れを確認しながら、証明を進めることが大切です。見通しをもつことが、主体的な学習につながります。

- (ア) 文字を用いて数量を表す。
- (イ) 説明することがらに合わせて、文字式を変形する。
- (ウ) 変形した式をもとにことがらが成り立つことを示す。

学習場面	学習活動	支援(・)と評価(◇評価方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○連続する2つの奇数がある。大きい方の奇数の2乗から小さい方の奇数の2乗をひいた差は、どんな数になるのだろうか。 $3^2 - 1^2 = 8$ $5^2 - 3^2 = 16$ $11^2 - 9^2 = 40$ $15^2 - 13^2 = 56$ ・8の倍数 ・4の倍数 ・2の倍数(偶数) ・連続する2つの奇数の和の2倍 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒から連続する2つの奇数をいくつかあげさせ、実際に計算していきながら、どんな数になるかを予想させる。 ・すべての生徒が確実に問題を把握しているかを全体の様子をしっかりと見取る。 ・「奇数」、「連続する」の意味が理解できていない生徒には、周りの生徒から説明させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての連続する奇数を確かめるためには、どうすればよいだろうか。 ・文字を使って証明すればいい 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生で数の性質を説明した経験や単元の導入課題を思い出させ、文字を用いて証明するということを引き出す。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 連続する2つの奇数があり、大きい方の奇数の2乗から小さい方の奇数の2乗をひいた差は、8の倍数になる。このことを証明しよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○連続する2つの奇数を、文字を用いて表すとどうなるか確認する。 ・nを整数とすると、 $2n+1, 2n+3$ または $2n-1, 2n+1$ ○8の倍数であることを示すにはどうすればよいかを確認する。 ・文字式の計算結果が$8 \times (\text{整数})$の形になればいい ○証明をする。 (証明) nを整数とすると連続する2つの奇数は、$2n+1, 2n+3$と表せる。 大きい方の奇数の2乗から小さい方の奇数の2乗をひいた差は、 $(2n+3)^2 - (2n+1)^2$ $= 4n^2 + 12n + 9 - (4n^2 + 4n + 1)$ $= 4n^2 + 12n + 9 - 4n^2 - 4n - 1$ $= 8n + 8$ $= 8(n+1)$ $n+1$は整数だから、$8(n+1)$は8の倍数 	<ul style="list-style-type: none"> ・連続する2つの奇数を、文字を用いて表すとき、どうなるかを学級全体で確認する。 ・合わせて、偶数(2の倍数)、3の倍数、8の倍数、連続する2つの偶数などを、文字を用いてどう表すのかについて確認する。 ・証明の流れを学級全体で確認しながら証明を完成する。

	<p>したがって、連続する2つの奇数があり、大きい方の奇数の2乗から小さい方の奇数の2乗をひいた差は、8の倍数になる。</p> <p>○証明を振り返り、証明に出てきた文字式が何を表しているか、なぜ最後の計算結果を$8(n+1)$としたのかなど、言葉で説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・$(2n+3)^2$は、大きい方の奇数を2乗した数を表す ・$(2n+3)^2-(2n+1)^2$は、大きい方の奇数を2乗した数から小さい方の奇数の2乗した数をひいた差を表す ・$8(n+1)$としたのは、8の倍数であることを示す必要があったため <p>○8の倍数以外の性質も証明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4の倍数になることを証明 最後を、$8n+8=4(2n+2)$と変形 ・2の倍数(偶数)になることの証明 最後を、$8n+8=2(4n+4)$と変形 ・連続する2つの奇数の和の2倍になることの証明 $8n+8=2\{(2n+1)+(2n+3)\}$と変形 <p>○$8n+8=4(2n+2)$の変形は、4の倍数以外に何を表しているかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続する2つの奇数の間の偶数の4倍になることを表している 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全体で証明を振り返った後、ペアで再度言葉にして伝え合って確認させる。 ・自分で選んだ性質を証明し、ペアで確認させる。 ◇整数の性質を見出し、その性質を、文字を用いた式を使って証明することができている。(観察、ノート) ・タブレット端末で証明を写真に撮り、全体に提示、共有する。 ・$8n+8$を説明することがらに合わせて式変形することで、証明できていることに気づかせる。 ・文字式を考察することから、逆に新たな性質を見つけられることに気づかせる。
<p>終末</p>	<p>○まとめをする。 数の性質は、文字を用いた式を使って、目的に応じた式に変形することで証明することができる。</p> <p>○授業の振り返りをノートに書く。 文字を用いることで、何かいいことはありましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ生徒の言葉を使って、まとめる。 ・文字を用いることよさや必要性に気づくことができるような問いかけをして、振り返らせる。

手立てのポイント④
証明の過程を振り返ることで理解が深まるとともに、新たな発見があります。

- ・証明に出てきた文字式が何を表しているか、言葉で説明する。
- ・最後の計算結果を $8(n+1)$ と式変形したのはなぜかを説明する。
- ・ $8n+8$ を説明することがらに合わせて式変形することで、証明できることを理解する。
- ・ $8n+8=2(2n+2)$ と変形できるが、この文字式は何を表しているかを考え、新しい性質を見出す。



支援のポイント
授業中、机間指導をしながら、学習状況を見取り、それぞれの状況に応じた支援をします。

例えば、本時では、

- ・困ったときに、できている友だちにわからないことを聞いたり、ノートを見せてもらったりするよう支援(指示)します。
- ・1つ証明が書いている生徒には、2つめを書くよう支援(指示)します。
- ・2つ以上の証明が書いている生徒には、友だちに証明をわかりやすく伝えるよう支援(指示)します。

手立てのポイント⑤
本時の学習で解決したことを、できるだけ生徒の言葉を使ってまとめていきます。

手立てのポイント⑥
振り返りでは、解決の方法や答えはこれでよかったのか吟味したり、本時の学習を既習事項と関連づけて統合したり、新たな課題へと発展させたり、日常生活に活用させたりします。また、数学のよさに気づいたり、数学を学ぶことを楽しいと感じたりする、自己認知の機会であると捉え、振り返ることもできます。

評価基準と支援

十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する状況
<p>整数の性質を見出し、その性質を、文字を用いた式を使って、証明し書くことができている。また、それを友だちにわかりやすく伝えることができている。</p>	<p>整数の性質を見出し、その性質を、文字を用いた式を使って、証明をすることができる。</p> <p>十分満足できる状況にするための支援 証明を振り返って、証明に出てきた文字式が何を表しているかを友だちにわかりやすく説明させる</p>	<p>証明できている友だちから説明を聞いたり、証明を見せてもらったりして、ヒントを得ながら、自分で証明を書くよう指示する。また、証明の過程を振り返り、わからない点を、友達や先生に聞くように指示し、証明を理解させる。</p>

中学校 理科

教科等	中学校 理科	学年	第 2 学年
単元名	気象観測		

単元の目標

(1) 知識及び技能	気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象要素、気象観測について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付ける。
(2) 思考力、判断力、表現力等	気象観測について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現する。
(3) 学びに向かう力、人間性等	気象観測に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養う。

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
気象要素と天気の変化との関係に着目しながら、気象要素、気象観測についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	気象観測について、見通しをもって解決する方法を立案して観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、天気の変化についての規則性や関係性を見いだして表現しているなど、科学的に探究している。	気象観測に関する事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

指導と評価の計画

時	主な学習活動（下線は主な評価事項）	評価		評価規準
		重点	記録	
1	○晴れ及び雨の日の天気の様子がわかる動画とその日の気象データを見て、 <u>問題を見いだす</u> とともに課題を設定する。 ○気象やその変化を調べるために必要な気象の要素を見いだす。	思		・気象要素と天気の変化の関係について問題を見だし、課題を設定している。
2	○ <u>気象観測の方法を知る</u> 。 ○学校内のさまざまな場所における気象観測の結果を予想し、気象要素について調べるための計画を立案する。	知		・気象要素を調べる方法を理解し、気象観測の計画を立案している。
3	○学校内のさまざまな場所において、 <u>天気、気温、湿度、気圧、風向、風力を観測する</u> 。 ○観測の結果から、それぞれの場所における気象要素の関係を見いだす。	知	○	・それぞれの気象要素について適切な方法で観測し、記録して整理している。

各学校において授業で育成を目指す資質・能力を明確にして、「単元の目標」を作成します。



単元の目標(1)(2)は学習指導要領「2内容」、(3)は該当分野の目標(3)を参考に設定します。

単元の評価規準は、単元の目標に準じて設定します。



単元における観点別学習状況の評価を行うに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要です。



どの時間に、どのような資質・能力を育成する学習場面を設定するのか、そしてどのような方法で、どの観点の評価を行うのか、「指導と評価の計画」を立てることが大切です。

4	<p>○継続して行った気象観測の結果をグラフにまとめる。</p> <p>○時間による気象要素の変化を分析して解釈し、<u>気象要素と天気の間接関係を見いだして説明する。</u></p>	思		<p>・時間による気象要素の変化をまとめたグラフを分析して解釈し、気象要素と天気の間接関係を見だし、説明している。</p>
5	<p>○地上と上空における菓子袋やペットボトルの様子の違いがわかる映像、簡易真空容器で気圧を下げると風船が膨らむ現象を見て、<u>問題を見いだすとともに課題を設定する。</u></p> <p>○ゴムシートを壁にはり付けたり、ゴムシートで机を持ち上げたりする現象から大気圧について知る。</p>	思	○	<p>・地上と上空の気圧の違いについて問題を見だし、課題を設定している。</p>
6	<p>○簡易真空容器で気圧を下げると、はり付いた吸盤の面積によってはずれる様子が異なる現象から問題を見だし、仮説を設定する。</p> <p>○仮説を確かめるための<u>実験の計画を立案する。</u></p>	態		<p>・吸盤がはり付いた面積に着目し、仮説を確かめる実験の計画を立案しようとしている。</p>
7	<p>○はり付いた吸盤の面積と空気が押す力の関係を調べる実験を行う。</p> <p>○<u>実験の結果から規則性を見いだして説明する。</u></p>	思		<p>・吸盤の面積と空気が押す力の関係を調べる実験の結果から規則性を見だし、説明している。</p>
8	<p>○気圧が異なる 2 つの真空容器を連結し、容器の間にある栓を開くと風が生じる現象を観察し、<u>問題を見いだすとともに課題を設定する。</u></p> <p>○気圧と風の関係についての仮説を設定する。</p>	態	○	<p>・気圧と風の関係について問題を見だし、課題を設定している。</p>
9	<p>○<u>天気図の等圧線の読み方について知る。</u></p> <p>○天気図における各地の地上付近の風向と風力についての仮説を設定する。</p>	知	○	<p>・天気図の等圧線の読み方を理解し、地上付近の風向と風力について仮説を設定している。</p>
10	<p>○天気図に各地の風向と風力の観測データを記入し、<u>気圧と風向、風力の間接関係を見いだして説明する。</u></p>	態	○	<p>・気圧と風向、風力の間接関係を見だし、説明しようとしている。</p>
11	<p>○高気圧と低気圧の鉛直方向の空気の流れを知る。</p> <p>○<u>気象要素と天気の間接関係についてまとめ、説明する。</u></p>	思	○	<p>・気象要素と天気の変化の間接関係についてまとめ、説明している。</p>

単元の最初の時間に、これから探究する内容に関係する事物・現象を提示することで、生徒は問題を見いだすことができるようになります。



生徒が自分で解決する問題を見いだすことで、「この単位ではこの問題を解決していくのだ」と、生徒が探究を見通して主体的に学習を進めることができますようになります。

事象に含まれる要因に着目して予想や仮説を設定することで、条件制御した解決方法を立案できるようになります。



事象の観察から抽出した要因や実験の結果などの情報を分析・解釈し、判断したり、推論したりする学習場面を設定することで、生徒が主体的に結論を導出できるようになります。



記録を取る学習時間は、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要です。

本時の目標は、指導と評価の計画と整合性が取れていることが大切です。

本時（第1時）の目標

気象要素と天気の変化の関係について問題を見だし、課題を設定することができる。

展開



展開は、生徒を主語にして記述することで、生徒の思考に沿った学習活動が展開できるようになります。



導入では、これから学習する内容を日常生活や社会と関連付けて考えられるようにすることで、日常生活と関係付けながら学習に取り組めるようになります。

導入

それぞれの学習活動において、本時の目標に迫るための具体的な支援を、事前に準備しておくことが大切です。



生徒の言葉で課題を設定することで、探究が自分ごとになり、生徒が主体的に学習に取り組むことが期待できます。



学習場面	学習活動と予想される生徒の反応	教室の支援（・）と評価（◇）
展開	<p>1. 晴れ及び雨の日の天気の様子がわかる動画（タイムラプス撮影）を視聴し、問題を見いだす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 晴れの日の雲は、白い雲で点々と存在している。雨の日の雲は、黒っぽい厚い雲で空一面を覆っている。 晴れの日、太陽の光が地上に届いていて気温が高そうだ。雨の日は、暗くて、さらに木が揺れているから強い風が吹いている。 	<ul style="list-style-type: none"> 最初は動画を学級全体で視聴するが、その後は生徒個々の端末で何度も視聴できるようにし、問題を見いだせるようにする。 晴れの日と雨の日を比較することで、問題を見いだせるようにする。 「雲の様子」「日差し」「気温」「風の強さ」などの気象要素に着目できるようにする。
	<p>2. 晴れ及び雨の動画を撮影した日の気象データ（気象庁）を見て、問題を見いだす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 晴れの日、日中の気温が高い。雨の日は、日中も気温は上がらない。 晴れの日も風が強い時間帯がある。雨の日だけが風が強いのではない。 雨の日は、湿度が高い。 晴れの日と雨の日では、風向が違う。 雨の日は、気圧が低い。 気温や湿度、風向、風力、気圧は、天気の変化と関係があるのかな？ 	<ul style="list-style-type: none"> 晴れの日と雨の日を比較することで、問題を見いだせるようにする。 「気温」「湿度」「風向」「風力」「気圧」に着目できるように支援する。
	<p>3. 課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 気温は、天気とどのような関係があるだろうか。 気象要素はと天気の間には、どのような規則性があるだろうか。 天気の変化を知るには、どのような気象要素に着目すればよieldだろうか。 気象要素と天気の変化には、どのような関係があるだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> 最初は個人で、見いだした問題をもとに課題を設定できるようにする。 個人で設定した課題の妥当性を班で検討できるようにする。 学級全体で探究する課題の方向性を確認できるようにする。 <p>— 評価の観点【思考・判断・表現】 —</p> <p>◇気象要素と天気の変化の関係について問題を見だし、課題を設定している。</p> <p>[評価方法：行動観察、ワークシート]</p>

表1 (高野町) 2023年11月25日 (14時)の値

種別	気温 (°C)	湿度 (%)	降水 (mm)	風速 (m/s)	風向 (°)	気圧 (hPa)	雲量 (%)	日照 (h)	天候
1	10.0	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
2	10.5	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
3	11.0	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
4	11.5	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
5	12.0	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
6	12.5	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
7	13.0	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
8	13.5	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
9	14.0	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
10	14.5	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
11	15.0	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
12	15.5	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
13	16.0	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
14	16.5	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
15	17.0	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
16	17.5	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
17	18.0	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
18	18.5	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
19	19.0	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
20	19.5	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
21	20.0	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
22	20.5	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
23	21.0	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴
24	21.5	65	0.0	1.5	北	1013.5	0	0.0	晴

学習場面	学習活動と予想される生徒の反応	教室の支援（・）と評価（◇）
展開	<p>4. 課題を解決するために着目する必要がある気象要素を見いだす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気 ・雲の量 ・気温 ・湿度 ・風向 ・風力 ・気圧 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初は個人で着目する気象要素を見いだせるようにする。その後、班で検討することで、より妥当な気象要素に着目できるようにする。
	<p>5. 気象要素と天気の変化の関係について仮説を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・晴れの日、雲の量が少なく、日中の気温が高く、気圧も高いだろう。 ・雨の日、雲の量が多く、日中の気温があまり上がらず、気圧が低いだろう。 ・風向と風力は、天気の変化には関係していないだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見いだした気象要素に着目して、仮説を設定できるようにする。 ・最初は個人で仮説を設定できるようにする。その際、仮説が課題に基づいているかどうかを確認するように机間支援する。 ・仮説を設定した理由を説明できるように、ワークシートに枠を設ける。 ・個人で設定した後、班で共有することで、仮説の妥当性を検討できるようにする。
終末	<p>6. 課題を設定したことについて、本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は、動画と気象データから問題を考えた。気象要素と天気の変化には関係がありそうだったことから、その関係を明らかにする課題を設定した。最初は、どのような課題にするのか迷ったけれど、友だちがわかりやすい言葉を使っていたので、その言葉を参考にして自分で課題を設定することができた。これから、どのような関係があるのかを探究していきたい。楽しみだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視点を明確にして振り返ることができるようにする。 ・課題を設定したことについて振り返ることで、課題を再確認するとともに、これからの探究に対して主体的に取り組めるようにする。

事象の要因を抽出することで、要因に着目した仮説を設定することができるようになります。



単なる直感ではなく、仮説が課題の解決方法の立案につながるようにすることが大切です。



学習後の生徒の振り返りを具体的に示すことで、本時の目標に対する生徒の姿（ゴール）をイメージすることができます。



「概ね満足できると判断される状況」は、「本時の目標」や「評価規準」に準拠していることが重要です。



「評価基準」及び「支援」を具体的に準備しておくことが大切です。

評価基準

十分満足できると判断される状況	概ね満足できると判断される状況	支援を要する状況への支援
気象要素と天気の変化の関係について問題を見だし、課題を設定している。また、設定した課題の根拠を説明している。	気象要素と天気の変化の関係について問題を見だし、課題を設定している。	<ul style="list-style-type: none"> ・見いだした問題に着目できるように支援する。 ・「○○と○○には、どのような関係があるだろうか」の文型を示し、それぞれの○○に入る言葉を考えるように伝える。
	<p>(十分満足できる状況にするための支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を設定した理由を問うことで、設定した根拠を明確にできるようにする。 	

中学校 外国語

単元の目標は学年ごとの目標を踏まえて設定します。



「書くこと」の領域については、次の三つの目標が示されています。

ア 関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。

イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。

ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。

単元の評価規準は参考資料 P33～p34「学習指導要領の領域別の目標及び内容のまとめりとごとの評価基準(例)」の四角囲みを参考に、学校の教育課程や生徒の実態に応じて設定します。



教科等	中学校 英語	担当学年	第 3 学年
単元名	New Horizon English Course Unit 3 Animals on the Red List		

単元（題材）の目標

絶滅危惧動物についての英文を読んで、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いて書くことができる。（書くこと ウ）

単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①It is … for + 人 + 動詞の原形、let(help)+人など +動詞の原形を用いた文の構造を理解している。 ②絶滅危惧動物について、自分の考えなどを It is … for + 人 + 動詞の原形、let(help)+人など +動詞の原形をもとに、書く技能を身に付けている。	ALT に絶滅危惧動物のことについて伝えるために、教科書で読んだことをもとにして、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いている。	ALT に絶滅危惧動物のことについて伝えるために、教科書で読んだことをもとにして、考えたことや感じたこと、その理由などを簡単な語句や文を用いている。

指導と評価の計画

時	主な学習活動	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<ul style="list-style-type: none"> ■単元の目標を理解し、自己目標を立てる。 ■絶滅の恐れのある動物について知っていることを伝え合う。 ①小学校で学習した内容を振り返りながら、絶滅の恐れのある動物について知っていることをペアでやり取りする。 ②自分が調べたい絶滅の恐れのある動物についてペアでやり取りをする。 	<p>記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにないよう十分留意する。</p>		

時	主な学習活動	評価規準		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
2	<p>■自分が選んだ動物が直面している問題について書く。</p> <p>①ポスターが伝えたいことを捉え、自分の考えを伝え合う。</p> <p>②It-for ~ to…を用いた文の特徴やきまりを理解する。</p> <p>③自分にできることを考え、書く。</p>	<p>記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届けて指導に生かすことは毎時間必ず行う。活動させているだけにならないよう十分留意する。</p>		
3	<p>■絶滅の恐れのある動物にとって何が難しいのか考えをまとめ書く。</p> <p>①対話文を読み、メグが海斗に伝えたいことを伝え合う。</p> <p>②want ~to-を用いた文の特徴やきまりを理解する。</p> <p>③動物が直面している問題について何が難しいのか書く。</p>			
4	<p>■絶滅の恐れのある動物を守るため、自分にできることについて考えをまとめ、書く。</p> <p>①トキについての記事についてタイムラインを作成する。</p> <p>②let (help) ~+動詞の原形を用いた文の特徴やきまりを理解する。</p> <p>③自分にできることについて考えを整理し、書く。</p>			
5	<p>■絶滅の恐れのある動物について原因や自分の考えなどについて紹介文を書く。</p> <p>①ゴリラについてのレポートを読み、概要を掴む。</p> <p>②自分達にできることについてペアでやり取りをしたあと、考えを整理し、書く。</p>			
6 7	<p>■ALT に自分が選んだ絶滅の恐れのある動物について、現状、問題点、自分の考えなどについて書く。</p> <p>①自分の選んだ動物について紹介文を書く。</p> <p>②グループで紹介文を読み合い、良い点や改善点について伝え合う。</p> <p>③アドバイスをもとに、よりよい紹介文を書く。</p>			○思（提出物）
8	<p>■単元で学習したことを振り返る。</p> <p>①単元のペーパーテストを行う。</p>	○知（ペーパーテスト）		

単元の最初に単元ゴールを生徒と共有し見通しを持たせること、類似の言語活動を繰り返しながら、それぞれの時間の言語活動が単元ゴールとつながっていることが大事です。



社会的な話題について書かれた英文の概要や要点を読み取り、そこから考えたことや感じたことなどを、やり取りを通して共有する活動を取り入れましょう。書くことにおいても、相手意識や目的意識を持たせることで、見方・考え方を働かせた活動となることが大事です。

単元における資質・能力は学習が進むに従って身についていくものです。従って、記録に残す評価は、単元の終末に行います。記録に残さない評価もねらいに即して生徒の活動の状況を確実に見届け、指導改善・学習改善に活かすようにします。



書く活動については、書き直し、書き足し等が容易なことから、ICTの活用も積極的に行うといいですね

中学校 英語

本時のねらいは、単元計画に基づいた文言で作成します。



Small Talk で既習事項を引き出すようにします。正確さよりは流暢性を大切にしたり取りを勧めましょう。

NHE では 6 年生で絶滅危惧種について学習しています。そのようなことも想起させると、良い導入になります。



教科書本文を読み取る際は「必要な情報」「概要」「要点」と視点を明らかにして読ませます。今回は「タイムライン」の作成を通じて「概要」を読み取るようにしています。



「事実を確認する」、「教科書に書かれていないことを推論する」、「書かれている内容に対する思いを問う」など視点を明らかにして発問するようにすると効果的なリーディングにつながります。

<本時(第5時)のねらい>

・絶滅の恐れのある動物を守るため、自分にできることについて考えをまとめ、書く。(思考・判断・表現)(態度)

<本時の学習>

学習場面	学習活動	支援(・)と評価(◇評価方法)
導入	1 Greetings 2 Small Talk <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;">Is it important for you to study English?</div>	Teacher Talk、T-S、S-S と自然に small talk に入るようにする。 ・中間評価で言いたかったけど言えなかった表現を確認する。 ペアをかえて2回行う。 1 回目は30秒、2回目は 40秒で行う。
	3 本時の目標を確認する <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;">絶滅の恐れのある動物を守るため、自分にできることについて考えをまとめ、書く。</div>	
展開	4 タイムラインをもとに学習した内容を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>The diagram is a horizontal timeline on a green background. At the top, it says '5 ibises breeding' and 'Chinese-born ibises in Sado'. Below this, a blue arrow points from left to right, divided into segments labeled 'Meiji', '1981', '2003', 'Now', and 'Future'. Under 'Meiji', it says 'Many ibises'. Under '1981', it says 'Last ibise died'. Under '2003', it says 'decreased'. Under 'Now', it says 'Many ibises'. Under 'Future', it says 'Many ibises'. At the bottom, there are small illustrations of buildings and a road.</p> </div>	
	・前時に各自で作成したタイムラインをもとにペアで発表し合う。 ・教師の質問に答えながら全体でトキの状況について確認する	・机間巡視を行い、生徒の様子を観察しながら、必要に応じて支援を行う。 内容を確認するための質問 (fact-finding questions) を行う

展 開	5 トキの状況について思ったこと、感じたことについてペアで話し合う。	トキの現状について思ったこと、感じたことなどについて質問する。 (personal questions)
	<p style="text-align: center;">What do you think? What can we do?</p> <p>意見を共有する。</p> <p>ペアをかえてもう一度思ったこと、感じたことについて話し合う。</p> <p>6 マインドマップを利用し、書き足すなどしながら思考を整理する。</p> <p>7 絶滅の恐れのある動物を守るため、自分にできることについて考えをまとめ、タブレットに書く。</p>	<p>・机間巡視を行い、生徒の様子を観察しながら、必要に応じて支援を行う。</p> <p>表現内容を広げるため、数名に発表を求め、黒板に書いていく。</p> <p>・黒板に貼ったマインドマップに実際に書き足したり、書く順番を並べ替えたりする様子を示し、イメージを持たせる。</p> <p>教科書や黒板に書いてあることも参考にしながら書くよう指示をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>絶滅の恐れのある動物を守るため、自分にできることについて考えをまとめ、書いている。(◇記述文分析)</p> </div>
終 末	7 本時のまとめと振り返りの記入	今日の学習を振り返らせ、できるようになったことなどを書かせる。

書くことにおいても、いきなり書かせるのではなく、自分自身の考えを言葉に出して表現する活動を取り入れるするとよいでしょう。



中間指導につなげていくために、意見を共有する時間は大切です。ここで書く活動につながりそうな良い表現を引き出したり、言いたい表現を言語化できるようにみんなで考える場面を作るなど、じっくり考える場面を作りましょう。

思考を整理したり広げたりするために思考ツールの活用はとても有効です。ここではマインドマップを使用しています。



新しい考えを書き足したり、書く順番を入れ替えたりするためには、タブレット端末の活用はとても有効です。目的によって紙とデジタルを使い分けるようにしましょう。

評価を記録に残さない時間においても評価の視点をしっかり持って授業に臨むことが大切です。視点に基づいて観察し、指導改善につなげましょう。

評価基準と支援

十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する状況への手立て
絶滅の恐れのある動物を守るため、自分にできることについて教科書を引用したり、根拠を示しながら考えをまとめ、書く。	絶滅の恐れのある動物を守るため、自分にできることについて考えをまとめ、書く。 教科書を引用したり、根拠を示しながら書くよう支援する。	黒板に書かれた表現や教科書の表現から自分の思いに近いものがないか確認させる。

高等学校 地理歴史科（歴史総合）

教科等	地理歴史科 歴史総合	担当学年	第2学年
単元名	大項目D グローバル化と私たち（2）ア「冷戦と世界経済」		

単元（題材）の目標

(1) 知識及び技能	諸資料を活用して、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。
(2) 思考力、判断力、表現力等	第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。
(3) 学びに向かう力、人間性等	自身との関わりを踏まえて「グローバル化と私たち」の学習を振り返るとともに次の学習へのつながりを見い出そうとする態度を養う。

単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
諸資料を活用して、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰路理解している。	第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。	よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて「グローバル化と私たち」の学習を振り返るとともに次の学習へのつながりを見い出そうとしている。

指導と評価の計画（8時間）

時	主な学習活動	評価		評価規準
		重点	記録	
1	【小項目全体に関わる問い】 (例)「冷戦下、各国・各地域は、東西対立などの国際情勢にどのように対応したのだろうか?」「第二次世界大戦の反省のうえに立ち、日本など資本主義諸国はどのように経済成長を遂げたのか?」			・【小項目全体に関わる問い】の答えを予想し、小項目全体の学習の見通しを持って取り組もうとしている。
	<単元の学習の見通し> ・冷戦と世界経済について表現した問いやこれまでの学習などを踏まえて、【小項目全体に関わる問い】について考察する。	態	●	
2	<冷戦の拡大と核兵器の管理> ・冷戦が固定化し核開発競争が過熱化する一方で、第三勢力の結集や核兵器管理の動きが生まれる過程を、資料から考察する。	知	●	・冷戦構造が進展するなか、米ソ両国の核開発の帰結として、キューバ危機が起こった経緯と、その後の核兵器管理体制について理解している。

単元の目標は、学習指導要領解説や参考資料を基に作成します。



単元の目標は、生徒の実態や年間指導計画を踏まえて作成します。また、単元の目標(2)思考力、判断力、表現力等の育成に当たっては、とりわけ「社会的な見方・考え方」を働かせることを意識して設定することが重要です。

歴史総合では「内容のまとめり」となる大項目が大単元としてまとめりをもつという構造を踏まえ、単元としてまとめりをもった学習の構成を行い、評価の計画を作成することが大切です。



指導と評価の計画にある●印は、「学習改善につなげる評価」の場面を、○印は「記録に残す評価を行う評価」の場面を示しています。【小項目全体に関わる問い】によって教師と生徒が小項目のねらいを共有することで、生徒の主体的な課題意識を促したり、学習の見通しを立てることが大切です。

3	<p><脱植民地化と地域紛争></p> <p>・脱植民地化を果たしたアジア・アフリカ諸国で生じた地域紛争の長期化について、現在まで続く中東紛争の解決策の構想を通して、多角的に考察する。</p>	思	○	<ul style="list-style-type: none"> ・独立を果たしたアジア・アフリカ諸国で、なぜ地域紛争が頻発したのかについて、過去の歴史や当時の国際情勢、現在の状況についての諸資料を活用し、多面的・多角的に考察し、表現している。[ワークシート]
4	<p><西側先進国と南北問題></p> <p>・冷戦下の経済政策の特徴について理解し、先進国の動向が国際的な南北問題などの背景となっていることに気づく。</p>	思	●	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦下での東西両陣営と開発途上国のそれぞれの経済政策にはどのような共通点があったのかについて、多面的・多角的に考察している。
5	<p><冷戦下の日本とアジア諸国></p> <p>・日本が、冷戦を背景とした「55年体制」の下、アジア諸国との国交回復や関係改善を進めたことについて、現在まで続くアジア諸国との諸問題を手掛かりに考察する。</p>	知	●	<ul style="list-style-type: none"> ・55年体制が冷戦構造を背景として成立したことに気づき、その後の日本政治の推移や、アジア諸国の政治に及ぼした影響について、諸資料から学習上の課題につながる情報を、適切かつ効果的に読み取っている。
6	<p><冷戦下の先進国の経済成長></p> <p>・西側諸国や日本が高い経済成長を遂げたメカニズムと、そのひずみについて、国際経済体制や冷戦構造などから多角的に考察する。</p>	思	●	<ul style="list-style-type: none"> ・西側先進国や日本が経済成長を果たした理由や、その結果、社会にどのような影響を与えたのかについて、諸資料から多面的・多角的に考察し、表現している。
7	<p><地域経済連携の拡大と冷戦の変容></p> <p>・世界各地で地域連携の進展と冷戦の変容について、事象を比較し関連付けて考察するための課題(問い)を設定して、考察・表現する。</p>	思	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパやアジアで地域連携が拡大した理由や、それに伴う冷戦構造の変容について、設定した課題をもとに協議・追究し、その結果を表現している。[レポート]
8	<p><単元のまとめ></p> <p>・各時の学習内容を踏まえて、【小項目全体に関わる問い】で表現した問いについて。</p>	態	○	<ul style="list-style-type: none"> ・【小項目全体に関わる問い】で表現した問いを振り返り、資料を活用して現代的な諸課題との関連を考察し、話し合った結果を表現する。 ・小単元1で表現した問いを振り返り、新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点についてまとめる。[ワークシート]

「思考力・判断力・表現力」を身につけることを重視する学習においては、考察する際の根拠となる資料の扱いが重要となるため、歴史総合では、学習のほぼ全般にわたり、資料を活用した学習の充実を図っています。



「知識・技能」の●印は、「適切～読み取っている」と示されている通り「技能」を確認する場面を表している。ここでは課題を踏まえ「必要な情報を収集しているか」「情報を『見方・考え方』を働かせて読み取っているか」「読み取った情報を学習の課題の解決に向けてまとめているか」などについて確認することが大切です。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価においては、評価基準にしたがって、自身の学習の調整に加え、現代の課題について主体的に追究しようとしているかどうかを評価する場面・活動を設定することが必要です。



高等学校 地歴公民（歴史総合）

本時（第8時）のねらい

第7次までの学習を基に、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて「冷戦と世界経済」の学習を振り返るとともに次の学習へのつながりを見い出す。

本時のねらいは、その単元で育成する資質・能力を基に作成します。



本時の評価規準（主体的に学習に取り組む態度）

第7次までの学習を基に、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて「冷戦と世界経済」の学習を振り返るとともに次の学習へのつながりを見い出そうとしている。

クラウド共有機能を活用した一人一台端末の良さを生かした授業の工夫により、個別最適・協働的な学びの充実を図ることが大切です。

本時の学習

学習場面	学習活動	支援と評価規準（評価方法）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの復習 ・Google スプレッドシートの共有機能を使い「冷戦（～1960年代中盤）の出来事」について、確認する。 ・授業の目標を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末を活用し、それぞれが前時までに積み上げてきた資質・能力としての知識や思考力を振り返り、全体で共有を図る。 ・他の生徒の意見を参照し、理解を補う。 ・【ねらい】はあらかじめワークシートに記載しておく。
<p>【ねらい】前時までの学習を基に、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて「冷戦と世界経済」の学習を振り返るとともに次の学習へのつながりを見い出す。</p>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○個人ワーク（作業1） ・【小項目全体に関わる問い】につながる<本時の問い>について、スプレッドシートを手掛かりに、教材等を利用してワークシートに取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習で獲得した知識を活用して考察できるようにする。
<p>【小項目全体に関わる問い】</p> <p>「冷戦下、各国・各地域は、東西対立などの国際情勢にどのように対応したのだろうか?」「第二次世界大戦の反省のうえに立ち、日本など資本主義諸国はどのように経済成長を遂げたのか?」</p>		
<p>【小項目全体に関わる問い】につながる<本時の問い></p> <p>「戦略研究者のルトワックは『第二次世界大戦後、厳しい東西間の対立が熱い戦争に発展しなかったのは、核戦争に対する恐怖が自制を生み出したからである』と述べたが、現実に冷戦下、世界では世界大戦が引き起こされることなく、1960年代の日本をはじめ大きく経済発展を遂げた国や地域も見られた。あなたは、このような「冷戦の良い面を評価する意見」に賛成ですか、それとも反対ですか。前時までの学習内容を踏まえて、あなたが賛成または反対する理由を述べなさい。</p>		
<p>（論拠に関わる出来事の例）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベルリン封鎖 朝鮮戦争 ・「雪どけ」平和共存 ・「第三勢力」 脱植民地化 		<ul style="list-style-type: none"> ・「自身との関わり」について、現代の問題につながる視点をもてるようにする。

本時は小項目のまとめの時間なので、【小項目全体に関わる問い】につながる<本時の問い>を設定し、それを追究することが学習活動の中心となります。



「自身との関わり」の視点とは、生徒が「どう現代の世界捉えるか」という視点です。現在の世界を見れば明らかのように、冷戦体制は恒久的な世界平和を構築するに至らなかったばかりか、のちの紛争や国際問題の背景となることに思い至るようなく本時の問いを構想しています。

	<ul style="list-style-type: none"> ・中東戦争 キューバ危機 ・高度経済成長 ベトナム戦争 <p>○グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで、それぞれの意見を発表し合い、ワークシートにメモする。 (作業2) <ul style="list-style-type: none"> ・グループの意見をまとめ、協力して Google スプレッドシートに入力する。(作業3) ・クラスで各グループの意見を共有する。(作業4) 	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問に思ったことについては、自由にネット検索してよいことを伝える。 ・活動が停滞しているグループに対しては、適宜、机間支援を行う。 ・それぞれのグループの判断で、Google ジャムボード、スクールタクトなどのソフトを活用し、効果的な考察ができるように促す。 ・ワードクラウドを活用して、直感的に理解できるようにする。 ・各グループの発表内容・方法から、自身の学び方を調整できるようにする。
終末	<p>○学習の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返り、次の学習に生かすことができる視点や学習の方法などについて、ワークシートにまとめる。 (作業5) 	<ul style="list-style-type: none"> ・問いを基に学習した内容と経緯について、自身との関わりを踏まえて振り返り、視点や学習の方法について確認し、次の学習へのつながりを見出そうとしている。 (ワークシート)

評価基準に即して、単元を通じて自身の記述が変容していく様子や、振り返りを踏まえて、自身の学習を粘り強く学び方を工夫しようとしている姿といった「意図的な側面」を見取るためのワークシート項目を工夫することが大切です。国研「参考資料」を活用しましょう。



粘り強い取り組みを行おうとする側面と自らの学習を調整しようとする側面は、実際の教科の学びの中では相互に関わり合いながら立ち現われるものと考えられることから、双方の側面を一体的に見取ることが想定して評価場面を設定することが大切です。

評価基準と支援

十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	努力を要する状況への支援
よりよい社会の実現を求める視点を持って、冷戦構造の形成期に存在した複数の課題を自分との関わりから捉え、次の単元に向けて学び方を工夫しようとしていることが表現されている。	よりよい社会の実現を求める視点を持って、冷戦構造の形成期に存在した課題を自分との関わりから捉え、次の単元に向けて学び方を工夫しようとしていることが表現されている。	冷戦構造の形成期に存在した課題を現代の諸課題や自身との関わりに目を向けさせるとともに、他の生徒の記述を参照させるなどして記述できるように支援する。
	十分満足できる状況にするための支援	
	冷戦構造の形成期に存在した課題を複数記述できるように支援する。	

高等学校 理科（生物基礎）

「単元」は、学習指導要領解説の中項目(7)(イ)…で示されています。



単元の目標(1)(2)は学習指導要領解説を、(3)は参考資料を基に設定します。

教科等	理科（生物基礎）	単元名	(イ) 遺伝子とその働き
-----	----------	-----	--------------

単元（題材）の目標

(1) 知識及び技能	遺伝子とその働きについて、遺伝情報とDNA、遺伝情報とタンパク質の合成の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けること。
(2) 思考力、判断力、表現力等	遺伝子とその働きについて、観察、実験などを通して探究し、遺伝子とその働きの特徴を見いだして表現すること。
(3) 学びに向かう力、人間性等	遺伝子とその働きに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとする態度を養うこと。

この単元の評価規準は参考資料 P135(1)ア(イ)「遺伝子とその働き」の四角囲みを参考に、学校の教育課程や生徒の実態に応じて設定します。



各時間において「ねらい・学習活動」を明確にし、「ねらい」が達成されたかを見取り指導の改善に生かします。その中で特に全員の生徒の学習状況について、単元における評価の総括の資料とするために記録に残す評価を行う場面には「○」を付けています。

単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
遺伝子とその働きについて、遺伝情報とDNA、遺伝情報とタンパク質の合成の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	遺伝子とその働きについて、観察、実験などを通して探究し、遺伝子とその働きの特徴を見いだして表現している。	遺伝子とその働きに主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

指導と評価の計画

時	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1	<ul style="list-style-type: none"> 生物の形質が遺伝子によって親から子へ伝えられること、遺伝子の本体がDNAであることを理解する。 DNAの構成単位について理解する。 	知		<ul style="list-style-type: none"> 生物の形質が遺伝子によって親から子へ伝えられること、遺伝子の本体がDNAであることを理解している。 DNAの構成単位について理解している。
2	<ul style="list-style-type: none"> 資料(図)を読み取り、DNAの構造の特徴を見出して表現する。 	思		<ul style="list-style-type: none"> 資料(図)を読み取り、DNAの構造の特徴を見出して表現している。
3	<ul style="list-style-type: none"> DNAの2本鎖が解離した状態と複製後の状態を示す資料(図)の比較から、塩基の相補性とDNAの複製を関連づけて理解する。 	知		<ul style="list-style-type: none"> 資料(図)の比較から、塩基の相補性とDNAの複製を関連づけて理解している。
4	<ul style="list-style-type: none"> 体細胞分裂で染色体が2つの細胞に等しく分配されるために、間期にDNAが複製されることを理解する。 	知		<ul style="list-style-type: none"> 体細胞分裂で染色体が2つの細胞に等しく分配されるために、間期にDNAが複製されることを理解している。

5	<ul style="list-style-type: none"> 小項目⑦「遺伝情報とDNA」について、学習したことをまとめる。 「遺伝情報とDNA」の学習中に分からなかったことや新たに疑問に思ったことをどのように解決しようとしたかを表現する。 次の項目での学習に向けて、自分の学習方法についての課題をどのように改善していくかを表現する。 	態		<ul style="list-style-type: none"> 学習中に分からなかったことや新たに疑問に思ったことをどのように解決しようとしたかを表現している。 [記述分析] 次の項目での学習に向けて、自分の学習方法についての課題をどのように改善していくかを表現している。 [記述分析]
6	<ul style="list-style-type: none"> 生命現象におけるタンパク質の働きとタンパク質の構造について理解する。 	知		<ul style="list-style-type: none"> 生命現象におけるタンパク質の働きとタンパク質の構造について理解している。
7	<ul style="list-style-type: none"> DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列を比較することを通して、塩基配列とアミノ酸配列の関係を見出して表現する。 	思	○	<ul style="list-style-type: none"> DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列を比較して、塩基配列とアミノ酸配列の関係を見出して表現している。 [記述分析]
8	<ul style="list-style-type: none"> タンパク質合成での遺伝情報の流れにおける、転写と翻訳の過程とRNAの特徴を理解する。 	知	○	<ul style="list-style-type: none"> タンパク質合成での遺伝情報の流れにおける、転写の過程とRNAの特徴を理解している。 [記述分析]
9	<ul style="list-style-type: none"> ユスリカのだ腺染色体の観察の技能を身につける。 	知	○	<ul style="list-style-type: none"> ユスリカのだ腺染色体の観察の操作やだ腺染色体のスケッチの技能を身につけている。 [ワークシート]
10	<ul style="list-style-type: none"> 前時の観察結果から、すべての遺伝子が常に発現しているわけではないことを理解する。 個々の遺伝子はゲノムを構成するDNAのごく一部であることを理解する。 	知		<ul style="list-style-type: none"> 前時の観察結果から、すべての遺伝子が常に発現しているわけではないことを理解している。 個々の遺伝子はゲノムを構成するDNAのごく一部であることを理解している。
11	<ul style="list-style-type: none"> 小項目⑩「遺伝情報とタンパク質の合成」について、学習したことをまとめる。 「遺伝情報とタンパク質の合成」の学習中に分からなかったことや新たに疑問に思ったことをどのように解決しようとしたかを表現する。 次の単元での学習に向けて、自分の学習方法についての課題をどのように改善していくかを表現する。 	態	○	<ul style="list-style-type: none"> 学習中に分からなかったことや新たに疑問に思ったことをどのように解決しようとしたかを表現している。 [記述分析] 次の単元での学習に向けて、自分の学習方法についての課題をどのように改善していくかを表現している。 [記述分析]
12	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーテスト 	知思	○ ○	<ul style="list-style-type: none"> 知識を習得、活用している。 科学的に探究している。

単元内で3つの観点すべてについて評価できるよう、重点を置く評価項目を設定します。



この単元では、「知識」に該当する内容が多いため、教師が説明してしまうことが多かったと思われる。単元の目標に「見出して表現する」とあるので、生徒自身に気づかせたり、気づいたことから特徴や関係性を考え表現させたりする工夫が必要です。

単元における資質・能力は、学習が進みに従って身につけていくものです。従って、記録に残す評価は、単元または小単元の終末に行うことが望ましいと考えられます。



高等学校 理科 (生物基礎)

本時 (第7時) の目標

DNA の塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列を比較することを通して、塩基配列とアミノ酸配列の関係を見出して表現することができる。

(思考・判断・表現)

本時のねらいは、その単元で育成する資質・能力をもとに設定します。



前時までの学習内容を振り返りながら、本時の学習内容へと繋げていきます。

めあては、できるだけ生徒の疑問をもとに設定すると、学習内容が自分ごとになります。



生徒一人一人が自分の考えを持つことが大切ですので、まず「自分の考えを書く」活動をし、その後「クラス(班)で共有」をする方が良いでしょう。

クラス全体や班で共有することを踏まえ、自分の考えを書き出す作業は ICT 機器を用いてもよいでしょう。



ここでは机間巡視により個別に支援をすることを想定しています。

本時の学習

学習場面	学習活動と予想される生徒の反応	支援(・)と評価												
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒトでは、生命活動に必要なタンパク質が約何種類あるかを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・約 10 万種類 ○タンパク質の種類は、どのようにして決まるかを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・20 種類のアミノ酸の並び方とつながる数。 ○生命活動に必要な遺伝情報は、何によって記録されていたかを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・DNA の塩基の並び方。 ○タンパク質をアミノ酸の種類数と遺伝情報を記録している DNA の塩基の種類数とに違いがあることに気づく。 <ul style="list-style-type: none"> ・20 種類のアミノ酸を 4 種類 DNA の塩基でどうやって記録しているのだろうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習内容を振り返り、前時までの学習内容と結びつける。 ・これまでの学習内容を結びつけることで、新たな疑問を感じさせるようにする。 												
展開	<p>○本時のめあてを設定する。</p> <p>DNA の塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列の間にはどのような関係があるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ある生物の DNA の一方の塩基配列の一部を示した図とその DNA の塩基配列がアミノ酸に変換されたときのアミノ酸配列を示した図を比較し、気づいたことをワークシートへ書き出す。 <ul style="list-style-type: none"> ・DNA の塩基 3 個とアミノ酸 1 個が対応している。 ・DNA の塩基 3 個の配列が同じならば、同じアミノ酸に変換される。 	<div data-bbox="1018 1503 1385 1682" data-label="Figure"> <p>図1 DNAの塩基配列の一部</p> <table border="1"> <tr> <td>ロイシ</td> <td>ロイシ</td> <td>グルタミン</td> <td>アロリン</td> <td>アラニン</td> <td>ロイシ</td> <td>バリン</td> <td>ロイシ</td> <td>ロイシ</td> <td>トリプトファン</td> <td>ロイシ</td> <td>トレオニン</td> </tr> </table> <p>図2 図1のDNAの塩基配列をもとに変換されたアミノ酸配列 『生物基礎』(東京書籍)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・DNA の塩基の数とアミノ酸の数に着目できるように支援する。 ・DNA の塩基を 3 個ずつで区切れ、塩基配列とアミノ酸の種類を比較できるように支援する。 	ロイシ	ロイシ	グルタミン	アロリン	アラニン	ロイシ	バリン	ロイシ	ロイシ	トリプトファン	ロイシ	トレオニン
ロイシ	ロイシ	グルタミン	アロリン	アラニン	ロイシ	バリン	ロイシ	ロイシ	トリプトファン	ロイシ	トレオニン			

展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・同じアミノ酸でも対応する DNA の塩基配列が異なるものがある。 ・DNA の塩基配列の左から 1 番目と 2 番目が「CT」になっていると、3 番目が「G」「C」「A」と異なってもロイシンに変換される。 ・DNA の塩基配列の左から 1 番目や 2 番目が異なると、異なるアミノ酸に変換される。 <p>○個人で書き出したものを、クラス全体あるいは班で共有する。</p> <p>○DNA の塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列の間にある関係を文章で説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じアミノ酸に変換される DNA の塩基配列の特徴を見出せるよう支援する。 <p>・クラス全体あるいは班で共有することで、自分の気づきの妥当性等を確認できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>評価の観点【思考・判断・表現】 塩基配列とアミノ酸配列の関係を見出して表現している。</p> <p>[記述分析]</p> </div>
終 末	<p>○ワークシートをもとに本時の学習内容について振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DNA の塩基配列がタンパク質のアミノ酸配列に変換されることがわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標(めあて)を明確にして学習内容を振り返ることができるようにする。

関係性を早く見出した生徒へは、ワークシートを見ながら他に関係性がないかと問いかけることで、「概ね満足できる状況」を「十分満足できる状況」へ引き上げることにつなげます。



評価方法は「記述分析」としていますが、記述が苦手な生徒についてはクラス全体(班)で共有する際に行動観察をし、記述分析の補助資料とすることも考えられます。

評価基準と支援

十分満足できる状況	概ね満足できる状況	努力を要する状況への手立て
<p>DNA の塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列の間について、「塩基 3 個の配列がアミノ酸の種類に対応していること」と「1 番目と 2 番目の塩基が同じ場合、同じアミノ酸に変換されることがあること」を説明している。</p>	<p>DNA の塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列の間について、「塩基 3 個の配列がアミノ酸の種類に対応していること」を説明している。</p> <p>十分満足できる状況にするための支援</p> <p>同じ種類のアミノ酸に変換される 3 個の塩基のうち、どの塩基が関係しているかに気づかせる。</p>	<p>提示した図から、DNA の塩基の数とアミノ酸の数に注目させ、アミノ酸 1 個に DNA の塩基何個が対応しているかを考え、記述させる。</p>

本時の目標が「見出して表現する」となっていますので、努力を要する状況の生徒への支援として「見出して表現する」ための視点を示すことが考えられます。



支援の手立てを講じることで、本時だけでなく今後の授業においても「考え、記述」できることにつながると考えられます。

高等学校 家庭基礎



教科等	高等学校 家庭基礎	担当学年	第 1 学年
単元名	自立した衣生活を営むために B(2)		

単元（題材）の目標

単元（題材）の目標(1)(2)は学習指導要領「2内容」、(3)は教科・科目の目標(3)を参考に設定します。

(1)知識及び技能	ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装、被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理を適切に行い、被服の計画・管理に必要な技能を身に付ける。
(2)思考力、判断力、表現力等	被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した衣服の管理や目的に応じた着装について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
(3)学びに向かう力、人間性等	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとする。

・「概ね満足できる」状況が設定
・「～しようとしている」「～している」等の生徒の状態を示す文末表現にします。

単元（題材）の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解しているとともに、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 ・被服材料、被服構成及び被服衛生について理解しているとともに、被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。	被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した衣服の管理や目的に応じた着装について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、衣生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

小中学校での既習事項を確認して、小中高の系統性を図り、指導と評価の計画を立てます。

指導と評価の計画

評価規準について

単元の評価規準から解説における記述などを参考に学習活動に即して具体的な評価規準を作成します。これらを設定することにより、目標に照らして生徒の学習状況を把握することができます。

知識・技能
その文末を
・～について理解している
・～について理解を深めている
・～を身に付けている
・～情報の収集・整理ができる
として評価規準を作成します。

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考
1	1. 自立した衣生活について、問題を見いだして課題を設定することができる。 ・中学校までの既習事項を思い出しながら単元全体を貫く課題に対する学習前の考えを具体的に想起し、記入する。 ・衣生活チェックシートでこれまでの自分の生活を振り返る。 ・自立した衣生活を送るためには、どのような能力が必要か、話し合う。 ・自立した衣生活について問題を見だし課題を設定し、学習の見通しを持つ。 ・本時の振り返りをする。	思		・自立した衣生活について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(FS)・ 【単元を貫く課題】健康・快適・安全で、持続可能な自立した衣生活を営むためには、何がどのようにできるよければよいだろうか。
		態		自立した衣生活について問題を見だし、課題を設定している。(W・FS)
2 ・ 3	2. ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解することができる。 ・民族衣装を取り上げ、人間が被服を身につけるようになった起源について考察する。 ・季節に応じた着方を取り上げ、保健衛生的機能について考える。 ・被服の社会的機能について、社会的慣習を取り上げ、考える。 ・ライフステージと被服の特徴について、高齢者や乳幼児の生活と関連付けて考える。 ・本時の振り返りをする。	知	★	ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解している。 ・自立した衣生活について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(FS)

4	<p>3. 被服材料の種類やそれらの特徴、性能について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繊維・糸・布の実物や映像等で特徴や性能を確認する。 ・被服の性能について、理解する。(実験映像) ・本時の振り返りをする。 	知	★	<p>被服材料の種類やそれらの特徴、性能について理解している。</p>
5	<p>4. 衣生活を計画・管理する上で必要な知識と技能を身につけることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被服の入手の際、被服の表示について理解し、用途に応じたサイズや被服材料を考え、被服の入手について考える。 ・汚れの落ちるしくみについて、映像を視聴し理解する。 ・湿式洗濯と乾式選択の特徴を理解し、組成表示・家庭用品品質表示・取り扱い表示などに基づいた適切な洗濯方法について理解する。 ・本時の振り返りをする。 	知	★	<p>・被服の表示について理解し、適切な被服の選択の仕方を身につけている。</p> <p>・汚れの落ちるしくみ、湿式洗濯と乾式洗濯の特徴を理解している。</p>
6	<p>5. 平面構成と立体構成の構成上の特徴について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浴衣の着装を通して、平面構成の特徴について確認し、平面構成と立体構成の特徴について理解する。 ・本時の振り返りをする。 	知	★	<p>・平面構成と立体構成の構成上の特徴について理解している。</p>
7 ・ 8	<p>6. 場面に合った着装について考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面(場面・場所・季節)での着装について、ライフステージを1つ選び、ライフステージに応じた着装を個人で考える。 テーマ:「もしあなたがファッションアドバイザーならば衣服購入の際どのようなアドバイスをするか」 視点:健康・安全・快適かつ心も満足できる ・ライフステージごとのグループで、考えを共有する ・グループで、アドバイスをまとめ、全体で発表する。 ・発表を聞き、ほかのライフステージの着装的工夫については、発表をもとにまとめる。 ・個人で考えたアドバイスを見直し、よりよいものにする。 ・本時の振り返りをする。 	思	○ ★	<p>・ライフステージに応じた場面での着装について考え、工夫している。(W)</p> <p>・場面に合った着装について実践を評価したり、改善したりしている(W)</p>
9 ・ 10	<p>7. 被服の購入から消費(廃棄)までの行動を見直し、これからの衣生活について、問題を見だし、解決策を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッションを取り巻く課題について調べ、持続可能な衣生活について考える。 ・これからの衣生活について、学習を通して考えたことを基に、これからどうしていきたいかをまとめる。 ・単元を通しての振り返りをする。(単元全体を貫く課題に対する学習後の考えを具体的に想起し、記入する。) 	思	○	<p>・これからの衣生活について問題を見だし課題を設定し、課題解決に向けて考え、工夫している。(W)</p> <p>・これからの衣生活について課題解決に向けて一連の活動について、考察したことを論理的に表現している。(W)</p>
		態	○	<p>・これからの衣生活について自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。(W・FS)</p>

思考・判断・表現

各単元において、4つの評価規準を設定し、評価することが考えられます。その文末表現として

①～について問題を見だし課題を設定している

②～について(実践に向けた計画)を考え、工夫している。

③～について実践を評価したり、改善したりしている

④～について課題解決に向けて一連の活動について、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現している

として、評価規準を設定することができます

主体的に学習に取り組む態度

各単元において、3つの側面から評価規準を設定し、評価することが考えられます。その文末表現として

①～について課題の解決に主体的に取り組もうとしている。

②～について課題解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。

③～について(地域社会に参画しようとするともに)自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

として、評価規準を設定することができます。



高等学校 家庭基礎

本時のねらい(第1時)

自立した衣生活について、問題を見いだして課題を設定することができる。

(思考・判断・表現)

本時のねらいは、その単元で育成する資質・能力をもとに設定します。



既習事項を振り返り生かすことで、根拠になるもの(これまで身に付けてきた資質・能力など)を明確にし、筋道を立てて考えたり説明したりする態度を育てます。

本時の学習

時間	学習活動	指導上の留意点	○評価場面 ■評価方法
(分) 10	1. 単元の目標の確認と本時の目標と流れの確認 2. 【単元を貫く問い】に対する学習前の考えを記入する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【単元を貫く課題】健康・快適・安全で、持続可能な自立した衣生活を営むためには、何がどのようにできるようにできればよいだろうか。 </div>	・ 本時の見通しが持てるよう授業の流れを提示する。 ・ 中学校までの既習事項を思い出させながら記述させる。	○学習前に単元を貫く問いに答える場面 ■振り返りシート 【主】自立した衣生活について課題の解決に主体的に取り組もうとしている。 指導に生かす評価
10	3. 衣生活チェックシート(ワークシート・フォーム)でこれまでの自分の生活を振り返り、衣生活の問題点について考える。	・ これからの自立した生活を営むという視点で問題点を見いだす。 ・ 衣生活チェックの全体の傾向をフォームで提示する。	
15	4. グループで、衣生活の問題点を共有し、自立した衣生活を送るためには、どのような能力が必要か、グループで話し合い、全体で発表する。	・ ジャムボードを使い、グループの意見をまとめ、発表しやすくする。 ・ 気づきを確認させる。	
10	5. 各自で、自立した衣生活について課題を設定し、ワークシートに記入する。 6. 振り返りシートを記入する。 ・ 本時の学習のまとめ ・ 振り返りを記入する。	・ 次の視点をもって記入するよう伝える。 まとめの視点： 今日の授業で最も大切なこと 振り返りの視点： 衣生活の課題についての新たな気づきについて	○課題を設定する場面、本時を振り返り、学習をまとめる場面 ■ワークシート・振り返りシート 【思判表】自立した衣生活について問題を見いだし、課題を設定している。 指導に生かす評価

課題名称 学びの足あと 振り返りシート(衣生活) 1年()組 氏名()

【単元を貫く課題】健康・快適・安全で、持続可能な自立した衣生活を営むためには、何がどのようにできるようにできればよいだろうか。

本授業の目的(単元目標や単元目標、内容、観点)を振り返り、何を学び、何を身につけたか、何を学ばなかったか、何を学ばなかった理由を記入する。

振り返り

学習日	学習内容	本時の学習のまとめ	振り返りの学習	振り返り
日 /				
月 /				

ICT 機器など問題解決に有効な環境を整え、個別最適な学び、対話的な学びの充実を図ります。



生徒の実態や問題解決の仕方に応じて、個人、ペア、グループなど、最も有効と思われる学習形態を適宜取り入れます。

生徒が単元のまとめで自己評価をする上で、生徒自身の単元に係る学習目標が設定されていることが重要です。

振り返りシート(ポートフォリオ)を活用し、授業ごとに振り返りや教師のアセスメントを行い、単元終了時に一連の記載内容を振り返りながら自己評価を行うことで、「主体的に学習に取り組む態度」について妥当性のある評価を行うことが期待できます。



評価基準と支援

	十分満足できる状況	おおむね満足できる状況	支援を要する状況への手立て
思考・判断・表現	これからの衣生活を見据えて、複数の視点で、自立した衣生活について問題を見だし、課題を設定している。	自立した衣生活について問題を見だし、課題を設定している。 【十分満足できる状況にするための手立て】 健康・快適安全・持続可能な生活などの複数の視点で考えるよう促す。	衣生活チェックシートやグループでの話し合いのまとめを基に、自分の生活と照らし合わせ、課題を設定できるように促す。
主体的に学習に取り組む態度	題材を貫く問いの答えが（何がどのようにできるようになりたいか、その理由）複数の視点で、記載している。	題材を貫く問いの答え（何がどのようにできるようになりたいか、その理由）を記載している。 【十分満足できる状況にするための手立て】 健康・快適安全・持続可能な生活などの複数の視点で考えるよう促す。	中学校までの既習事項や衣生活チェックシートやグループでの話し合いのまとめを基に自分の生活を振り返って、考えるように促す。

評価基準の具体的な記述をします。

